前橋市三俣町二丁目10－2
前橋市教育委員会文化財保護課

内堀遺跡群 II

―大室公園整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査概報―

1989

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

内堀遺跡群 Ⅱ

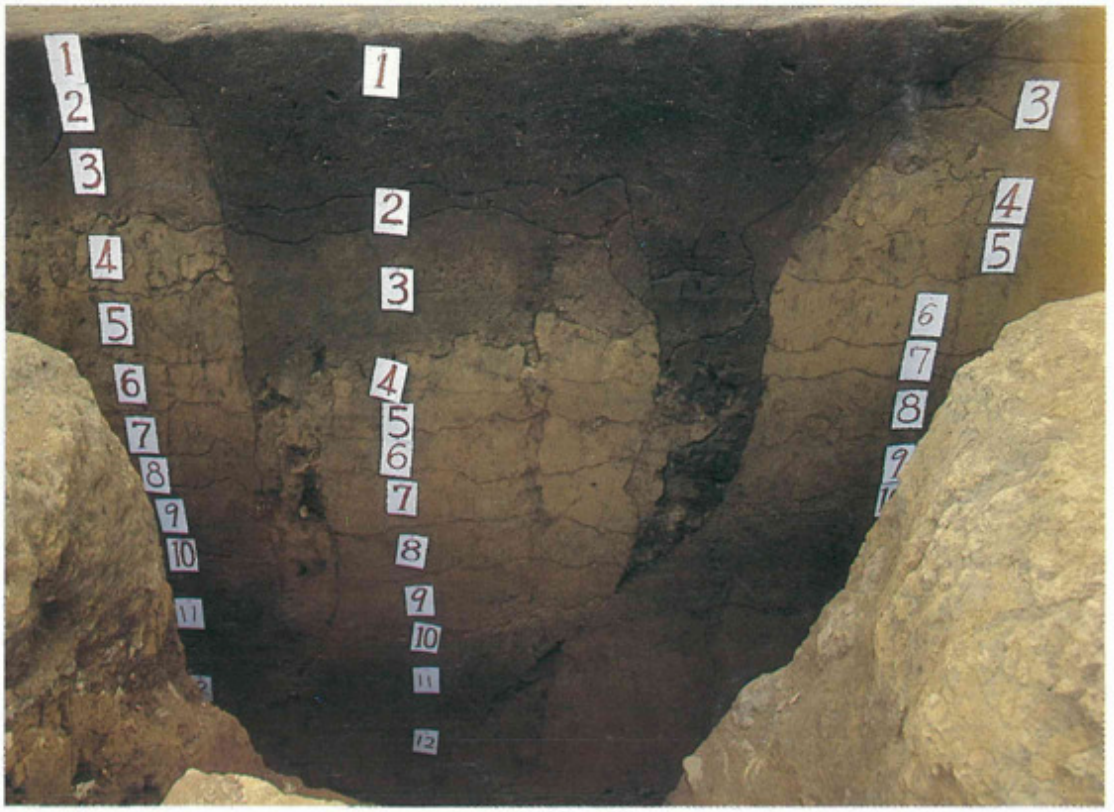
H－15号住居址出土土器

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

1．大室古墳群周辺

2．発掘調査区全景

3．M－1号墳出土埴輪



4．活断層断面

例　　言

1．本書は大室公園整備事業に伴う内堀遺跡群（下縄引遺跡）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．本遺跡の略称は63E11とする。

3．調査主体は前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。

4．発掘調査の要項は、次のとおりである。

調査場所	前橋市西大室町地内
発掘調査期間	1988年5月18日～10月31日
整理期間	1988年11月1日～1989年3月31日
調査担当者	園部守央（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）
	加部二生（　　同　　上　　）

5．本書の編集、執筆は調査担当者の協議により分担して行った。

6．本書の作成にあたり、次ぎの方々の協力を得た。（順不同、敬称略）

井上　唯雄　　石塚　久則　　白石太一郎　　大江　正行　　小島　純一　　飯島　静男
橋本　博文　　柿沼　恵介　　木津　博明　　徳江　秀夫　　能登　　健　　飯塚　　誠
須藤　　宏　　田口　一郎　　若狭　　徹　　右島　和夫　　設楽　博己

7．遺物整理、図面作成、図面整理、遺物写真等は、担当者及び整理作業員が分担して行った。

8．整理作業及び本報告書作成にかかわった方々は次のとおりである。（順不同）

阿部シゲ子　　石田　博子　　糸井　朱美　　佐藤　佳子　　中島　利江　　小川　悦子
橋本登代美　　峰岸あや子　　矢作　春江　　吉田真理子　　青葉　恵子　　飯島　勝亥

9．すでに公表されているパンフレット類、新聞報道等の記述よりも本書の内容が優先するものである。

10．執筆分担は以下の通りである。

園部守央	Ⅰ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ 1,5
加部二生	Ⅱ、Ⅴ 2～4,6～9、Ⅵ

凡　　例

1．遺構の略号は次の通りである。

H…土師器使用竪穴式住居址　M…古墳　D…土坑　K…窯址　W…溝状遺構

O…落ち込み（風倒木痕）　X…地割れ（活断層）　U…埋甕（土器埋設土坑を含む。）

2．挿図図版の縮尺はそれぞれの図に記したが記入なきものは次の通りである。

住居址→1／80　炉址→1／40　遺構全体図→1／200　遺物→1／4

3．遺構挿図中に記した断面基準線は標高で表した。

4．遺構挿図中に示したN方位は、座標北である。

5．本報告書中の土色は「新版標準土色帖」に基づいている。

6．遺構及び遺物挿図中の記号は次の通りである。

遺　構

焼土範囲　　地　山

テフラ層　　浅間B軽石アッシュ

遺物断面

酸化焔焼成　　還元焔焼成

7．住居址遺物分布図に於ける記号は次の通りである。

● 甕・壷

○ 高杯・器台

△ 甑

▲ 坏・埦

□ その他土器(台付甕等)

■ 石器

目　　次

Ⅰ　調査の目的及び調査に至る経緯 …… 1

Ⅱ　遺跡の位置と環境

1．立　　地 …… 1

2．周辺の遺跡 …… 2

Ⅲ　発掘調査の方法と経過 …… 3

Ⅳ　基　本　層　序 …… 5

Ⅴ　遺　構　と　遺　物

1．全体の概観 …… 6

2．住　居　址 …… 6

3．古　　墳 …… 16

4．窯　　址 …… 18

5．土　　坑 …… 19

6．溝　　址 …… 31

7．地　割　れ …… 33

8．埋　　甕 …… 34

9．落ち込み …… 34

Ⅵ　成果と問題点

1．プレ～縄文時代の調査 …… 34

2．集　落　の　調　査 …… 35

3．外来系土器について …… 35

4．M－1号墳と出土遺物 …… 38

5．M－1号墳出土の形象埴輪 …… 39

6．形象埴輪の配列復元 …… 39

7．大規模な地震災害の痕跡 …… 41

8．炭窯について …… 42

Ⅰ　調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋市の「大室公園整備事業」に先立って行われたものである。この調査は昨年度に引き続き２年目になるが、公園建設予定地の埋蔵文化財を調査し公園設計の基礎資料にすることが目的である。

昨年度は、公園予定地約３７ヘクタールのうち国指定史跡の古墳や山林、沼などを除く約２０ヘクタールについて東西に１０m間隔でトレンチを入れる方法で確認調査を行った。その結果、予定地全域について埋蔵文化財の分布状況のあらましを知ることができた。

今年度は、昨年度の調査結果をもとに、予定地の北西部の約１ヘクタールについて発掘調査を実施した。この部分は、地形的にみて将来必ず、何らかの施設が建設されると思われる場所であるということで、市長（公園緑地課担当）より発掘調査の依頼が教育長あて提出され、当調査団で発掘調査を行うことになった。

昨年度以前の経緯については昨年度の確認調査報告書に詳しく述べられているので本書では省略する。

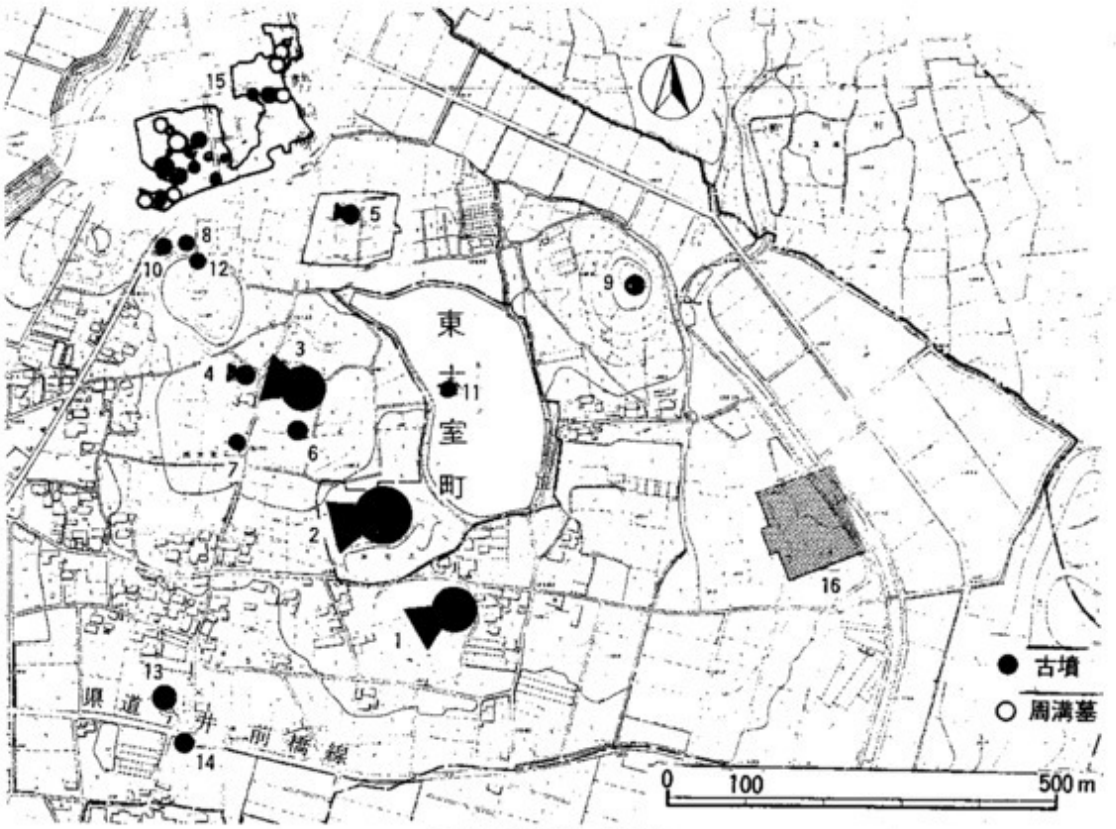
Ⅱ　遺跡の周辺環境

１．立　　地

本遺跡の所在する前橋市西大室町は市の東端に位置し、東側の赤堀町との境には多田山と呼ばれる火山泥流による丘陵地形がある。北に接する粕川村とは、七ツ石とよばれる信仰の対象となっている巨石のある丘陵と、それに連なる丘陵地形を行政上の境界としている。このように荒砥地区には数多くの赤城山南麓地帯に源を発する荒砥川、神沢川、粕川、桂川が南流することにより営まれた多くの独立丘陵が形成されている。本遺跡もこうした独立丘陵のひとつで字下縄引に位置する。東側には五料山とよばれる自然丘陵があり、上縄引遺跡のある西側の台地と挟まれるように並んでいる。南側の後二子古墳のある位置も丘陵地形となっている。この西側にある小山はやはり自然丘陵で、最近まで砕石を切り出していた跡がある。この地区の丘陵地形の基盤はすべてこうした輝石安山岩よりなる火山泥流によって形成されており、それらが露出しているのが七ツ石や石山観音、産泰神社裏の巨石などである。本遺跡と後二子古墳との間には小さな谷地状地形が入り、かつては湧水による小河川があったものと推定される。又、現在も五料山と本調査区の間に小河川が流れており、それらを南側に堤を作る事によって近世に堰止めて作られたのが五料沼である。本遺跡のある丘陵の北側には現在水田地帯が広がり、当時も生産基盤となっていたと推定される。なお、本遺跡地の標高は、128.83m～136.52mである。

2．周　辺　遺　跡

内堀遺跡群のある荒砥地区は歴史的環境に恵まれた風光明媚な土地である。本遺跡の北西には隣接して上縄引遺跡が存在しており、浅間山C軽石を前後する時期の周溝墓群は本遺跡の集落に対応するものである。5世紀になると村落の形成は多田山を越えて対峙する赤堀茶臼山古墳を中心とする勢力へ移ると考えられる。墳形は前方後円墳の帆立貝式古墳で主体部は竪穴系の槨を2基持っており、このような木炭槨という構造は珍しいものである。この時期の居宅としては赤堀の毒島が想定されている。これに対し五料山の頂上部に占地する五料山古墳も、その立地条件から古式古墳の可能性をもっている。5世紀後半代には首長層の居宅としては梅木遺跡があり、昨年度の試掘調査の結果西側に張り出し部をもつことがあきらかになった。大室3古墳は前二子古



大室古墳群と梅木遺跡

1.前二子古墳（荒砥村51号墳）　2.中二子古墳（荒砥村229号墳）　3.後二子古墳（荒砥村55号墳）
4.小二子古墳（荒砥村56号墳）　5.内堀M－1号墳（荒砥村57号墳）　6.内堀M－2号墳（記載漏れ）
7.内堀M－3号墳（記載漏れ）　8.内堀M－4号墳（記載漏れ）　9.五料山古墳（荒砥村58号墳）
10.荒砥村65号墳　11.五料沼古墳（記載漏れ）　12.栗林古墳（記載漏れ）
13.荒砥村147号墳　14.荒砥村54号墳　15.上縄引遺跡
16.梅木遺跡

墳の築造を以て造墓が開始される。後続する中二子古墳からは頸部に補強帯を持つ須恵器大甕が出土しており、6世紀中頃の所産と考えられる。続いて、後二子古墳が構築される。副葬品の内容が不明確ではあるが、6世紀後半代には出現していたと推定される。小二子古墳も埴輪は配列されている。周溝も巡っており、その所属時期が問題となろう。このほか、大室古墳群は昨年度の試掘調査で確認された4基と五料沼の底に水没している横穴式石室を持つ小古墳、横穴式石室を持ち埴輪の配列されている荒砥65号墳、その東に隣接している栗林古墳、県道の建設に伴って周溝部分の調査されている荒砥54号墳、その北に現存している荒砥147号墳などにより構成されている。

Ⅲ　発掘調査の方法と経過

本発掘調査は、1988年4月より現地調査、発掘事務手続き、公園緑地課との事前協議などを行い、5月18日に発掘調査の委託契約を締結してから現場事務所の建設や発掘調査用具の搬入など本格的な準備が始まった。

発掘調査に先立ち、調査区全体を4mの碁盤の目のように区切るグリッドを設定した。各杭の名称は北西隅を起点に東西方向を算用数字で、南北方向をアルファベットで表し、全区域カバーできるように余裕をみてA－0（国家座標x＝＋43.248 y＝－57.026）からV－30まで設定し、必要な座標杭を打った。ベンチ杭は公園予定地の現況図を作成した際に設置したBM5（H＝130.751）を基にして打った。

調査は掘削用重機で表土を上層より二段階に分けて最終的にはソフトローム上面まで除去し、それぞれの段階で遺構を確認し、調査を進めた。第一段階では住居址1軒のほか古墳、畝状遺構、土坑などを、第二段階では住居址や活断層の調査をし、平面図や地層断面図、遺物分布図などを作成した。また、写真による記録も併せて行った。なお、プレの試掘を7カ所で合計100㎡実施した。

発掘調査の全期間をとおして、近隣住民や小中学校の歴史学習のため先生に引率された児童生徒の見学があり、そのつど本遺跡の説明を行った。発掘調査終了時には関係者だけでなく広く一般市民を対象に現地見学会を行い、埋蔵文化財の保護普及をはかった。

発掘調査は1988年5月から10月末日まで行い、11月1日から1989年3月末日まで遺物整理作業と報告書作成を行った。

発掘調査全体の流れについては発掘調査工程表に示した通りである。

発掘調査工程表

作業名 / 月 日	発掘調査準備	表土排除	プラン確認	遺構遺物調査	遺跡写真撮影	その他
1988 4月 10日						
20日						
5月 10日						
20日						
6月 10日						
20日						
7月 10日						
20日						
8月 10日				M1号墳		
20日						
9月 10日						
20日						
10月 10日						
20日				先土器時代遺構 / 住居址・土坑等		現地説明会 / 地層はぎとり
11月 10日						
20日						

Ⅳ 基 本 層 序

調査区の地形は丘陵南斜面で、傾斜地になっている。基本層序は、調査区のほぼ中心にある活断層を調査するための深掘りを中心に設定した。

Ⅰ 層 暗褐色土層 <10YR3/4> 現在の耕作土層であり、軽石などの粗砂を含む。粘性、締まりともになし。

Ⅱ 層 暗褐色土層 <10YR3/3> 旧耕作土で、Ⅰ層と同様粗砂を含み、粘性、締まりともにない。細砂。

Ⅲ 層 灰黄色土層 <2.5YR6/2> 浅間B軽石の純層。

Ⅳ 層 黒色土層 <7.5YR2/1> 二ツ岳軽石(FP)・浅間C軽石(CP)を3%程度含む。締まりのある細砂。

Ⅴ 層 暗褐色土層 <10YR3/4> CPを1%程度含む細砂。

Ⅵ 層 褐色土層 <7.5YR4/4> ソフトローム層で粘性がある。やわらかいが締まっている。

Ⅶ 層 黄褐色土層 <10YR5/8> ハードローム層で板鼻黄が色軽石(YP)を1%程度ブロック状に含む。

Ⅷ 層 明黄褐色土層 <10YR6/8> ハードローム。粘性がありかたく締まる。

Ⅸ 層 黄褐色土層 <10YR5/8> ハードローム層。

Ⅹ 層 褐色土層 <10YR4/6 > 浅間白糸軽石(SP)を含むハードローム層。

ⅩⅠ 層 黄褐色土層 <10YR5/6> 下部に板鼻褐色軽石(BP)ブロックを含むハードローム層。

ⅩⅡ 層 褐色土層 <10YR4/6> ハードローム層。

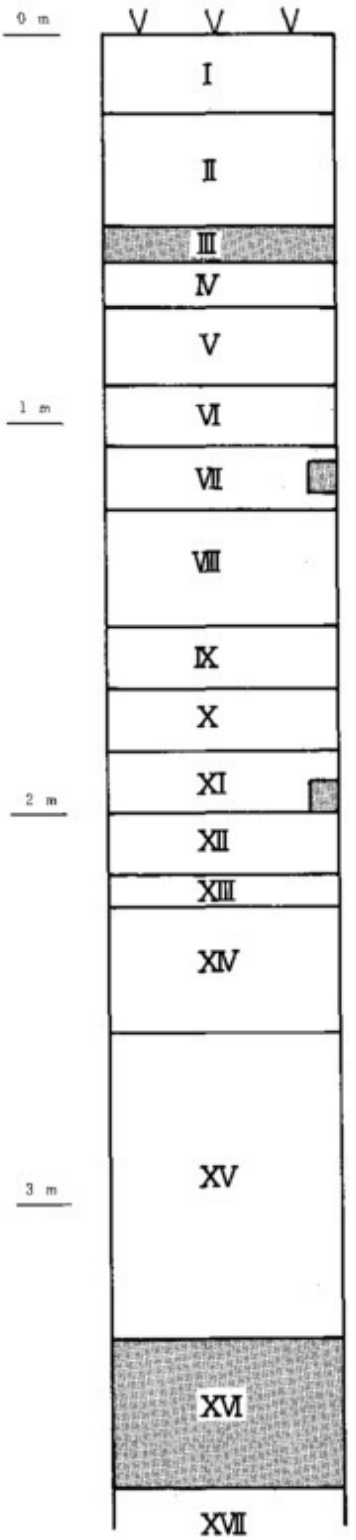
ⅩⅢ 層 にぶい黄褐色土層 <10YR5/3> 粘性があり締まりは弱い。ATの最大層序。

ⅩⅣ 層 暗褐色土層 <10YR3/3> 粘性強く締まりあり。暗色帯。

ⅩⅤ 層 褐色土層 <10YR4/6> 固いハードローム層。

ⅩⅥ 層 明黄褐色土層 <10YR6/8> 八崎軽石(HP)純層。

ⅩⅦ 層 褐色土層 <10YR4/4> 固く締まった粘土層。



V 遺構と遺物

1. 全体の概観

本年度調査で確認された遺構総数は、古墳1基、住居址19軒、土坑411基、溝状遺構18条、窯址2基、落ち込み（風倒木痕）5ケ所、埋甕（土器埋設土坑）2基、地割れ1ケ所であった。ここでは、それらの時期的な変遷について概観してみたい。

先土器時代の遺構、遺物については試掘グリッド7ケ所を設定したが、確実な史料を得るまでは至らなかった。しかし、縄文時代草創期の有舌尖頭器を1点検出しており、洪積世にも当地に人がいた可能性を示す根拠となっている。縄文時代の遺構は、遺跡内ほぼ全面から土器が出土しているにも拘わらず、後期の埋め甕1基を検出しただけにとどまった。弥生時代の確実な史料は検出されなかった。H-15号住居址出土の天王山式土器や、周りの集落から出土している櫛描き文系土器（樽系）、縄文系土器（赤井戸系）は土師器を共伴するものであり、後出的段階であることが認められた。

古墳時代中期の住居址は1軒のみ検出されているが、試掘調査の結果から集落として広がる可能性は少ないと考えられる。後期にはこの地域に集落は営まれず、墓域として3二子古墳に追随する形となっている。古墳の立地としては、本年度調査区の中央部北端が独立丘陵の頂上部であり、古墳を築造するのにより適した地点と考えられるが、なぜ南斜面の中腹に構築しているのか、占地に当たっての規制というものが感じられる。9世紀前半にはこの地区に大規模な地震が起こり、全長53mにわたって地割れを生じている。これにより、古墳の周溝が一部破壊されている。

12世紀にはW－15が遺跡地の東から南へと走行しており、何かの区画を示すものと考えられる。土坑、溝の一部は古代～中世にさかのぼるものもあるが、多くは、近世以降、現代までの所産であると考えられる。戦前の開墾に伴って古墳が盗堀され、その跡地を利用して、炭窯が営まれている。おそらく、2基とも同時に作られ稼働していたものと推定される。遺跡南部から東部にかけて認められた畝状遺溝は、このころの耕作により残ったものと考えられる。

2. 住　居　址

H－1号住居址　(Fig.1、PL1)

遺　溝　B－16、B－17、C－16、C－17グリッドで検出した。確認面は調査区の北方は表土が薄く、Ⅲ層のB軽石純層が存在しなかったため、Ⅱ層をはいだ段階で既に検出されていた。規模は、長軸3.65m×短軸3.60mのほぼ正方形であった。主軸方位をN－74°－Wに持ち、床面面積8.25m²を測る。壁面は75°の角度で立ち上がり、壁高は確認面で65cmを測る。土層は大きくは5層程度に分類され、中央部で、床面から約12cmの間層をあけて浅間山C軽石の純層がレンズ状堆積していた。床面はロームを掘り込んで、全体的に平坦に築かれ、標高135.30mに位置する。踏み

固めは全体にわたって認められたが、貼床は施されていなかった。又、周溝、ピット等も確認されなかった。

炉　址　床面中央部やや東寄りに地床炉が構築されていた。焼けは弱く、若干の焼土が検出されたのみである。規模は長径64cm×短径52cmの楕円形で、深さ7cmを測る。

遺物出土状態　(Fig.22)床面上、間層をあけて浅間山C軽石が堆積しており、さらに数センチの間層をあけて遺物は一括廃棄されていた。殆どが完型であり、その出土状況が特筆される。C軽石下の出土遺物は小破片が数点あったのみで図示できなかった。

出土遺物　(Fig.37・38、PL8)遺物は総数165点出土している。殆どが、土師器の小破片であったが石器も1点出土している。大きく自然面を残した打製石斧S－1は変質玄武岩製であり、土掘り具としての機能が考えられる。この他の遺物はFig.37・38に示した。24は上半部にRL縄文を施し体部はハケメ、下半部は削り調整が施される。3も上半部にRL縄文が施され、下半部は削り調整による。これに対し、110、10、103、91はLR縄文が施されている。又、12の台付甕は無節L縄文が施される。遺構の年代はCP下であり、4世紀中頃に、遺物は中頃に近い後半代に比定したい。

H－2号住居址　(Fig.1、PL1)

遺　構　所在位置はQ－15～17、R－15～17グリッドで検出された。確認面は基本層序のⅢ層中で浅間山C軽石が他よりも集積している地点を検出し、住居址であることを確認した。非常に浅い位置に構築されていたため、調査時点ですでに床面の大半は破壊され、掘り方付近のみ調査できた。形状は4.53m×4.50mの規模を持つ正方形プランを呈す。主軸方位をN－85°－Wに持ち、床面面積は22.96m²を測る。壁は65°の角度で立ち上がり、壁高は残りの良かった北面で12cmを測る。土層は薄くC軽石の二次堆積が多く認められた。床面はソフトロームを一部掘り込んで貼床を施していたと思われ、標高130.20mに位置する。ピット、炉址は検出されなかった。

遺物出土状態　住居址の上半部を欠損するため、遺物はすべて床面直上からの出土であった。

出土遺物　(Fig.45)本住居址からは土器片が15点出土した。しかし、縄文土器の混入品が多く、住居址に近い時期と思われるものは小破片のみであった。8は0段多条RL縄文が施される加曽利E式の深鉢である。住居址の年代は4世紀の後半代に比定される。

H－3号住居址　(Fig.2・3、PL1・2)

遺　構　O－19、O－20、P－19、P－20グリッドで検出された。確認面は基本層序のⅣ層中である。形状は長軸5.60m×短軸4.84mの長方形プランを呈する。四壁は直線的に延び、コーナーが丸く作出される。主軸方位をN－78°－Eに持ち、床面面積21.38mを測る。壁は70°の角度で立ち上がり、壁高70cmを測る。土層は中央では大きく5層に分類された。床面はローム層を掘り込んで部分的に貼床しており、標高130.28mに位置する。周溝は確認されなかった。ピットは全部

で5個検出され、そのうちの4個は主柱穴であった。各柱穴の規模は、P1径28cm深さ50cm、P2径25cm深さ42cm、P3径27cm深さ48cm、P4径24cm深さ43cm、P5径58cm深さ63cmを測る。

炉　址　床面中央部やや北に偏って地床炉が検出されている。規模は長径92cm×短径52cm、深さ10cmを測り、底面は比較的よく焼けて、炭化物も認められた。

遺構掘り方　(Fig. 3)貼床を除去すると南側が大きくくぼみ、当初の掘り方が検出された。本年度調査で検出された19軒の住居址のうち、明確に掘り方を検出しえたのは本住居址のみであった。

遺物出土状態　(Fig.23) 遺物はほぼ全面にわたって出土している。接合したものは、床面付近が多かったが、住居確認面の位置のものとも層位を越えて接合関係が認められた。

出土遺物　(Fig.39、PL19) 出土した遺物は総数で175点である。7は十王台式土器の甕である。純粋な茨城の標識遺物から比べるとやはり相当崩れており、年代的にも後出することは、小型精製土器の共伴例からも傍証されている。施文は単軸絡條帯Ⅰ類による。15は7とは別個体の十王台式の甕である。41は上半部にLR縄文が施され若干輪積痕を残す。下半部はヘラ削りによる。17も櫛描き波状文が施されているが、器形的にその影響化にあるものと推定される。出土遺物からみて本住居址の時期は4世紀後半に位置づけられる。

H－4号住居址　(Fig. 3、PL2)

遺　構　A－23、A－24、B－23、B－24グリッドに所在する。確認面は基本層序であるV層の下面で検出した。規模は長軸4m×短軸2.8mの長方形プランで、主軸方位をN－56°－Eにとる。床面面積は9.83m²で、壁面は62°で立ち上がり、残存壁高28cmを測る。土層は大きく3層に分けられた。床面はロームを掘り込んで構築され、標高は134.26mを測る。踏み固めは炉址付近に若干認められたが、他は比較的軟質であり、貼床、周溝、ピットは認められなかった。

炉　址　床面中央部に位置する。長径54cm、短径52cmの円形を呈する地床炉である。炉の掘り込みは15cmであり、炉内からは焼土、炭化物が認められ、底面は赤く焼けていた。

遺物出土状態　ほぼ全域から出土している。覆土が少なかったため、殆どは床面直上に当たる。

出土遺物　(Fig.45)総数で90点と少なかった。殆どが小破片であった。155はRL縄文による施文である。5は器台の脚部で、144は櫛描き波状文によって施文されている。時期的には4世紀の後半代が比定できる。

H－5号住居址　(Fig. 4、PL2)

遺　構　F－24、F－25、G－24、G－25グリッドに所在する。確認面は基本層序のV層下面で確認できた。形状は長軸3.40m×短軸3.05mを測る長方形プランを呈する。主軸方位はN－80°－Eにとり、床面面積12.79m²を測る。壁は70°の角度で立ち上がり、残存壁高60cmを測る。土層は比較的細かく堆積しており、中央部で床面上16cmの間層をあけて浅間山C軽石の純層が確認され

ている。床面はローム土を掘り込んで平坦に構築しており、全体にわたって堅緻面は存在せず、軟質な床であった。床面標高は132.70mで、貼床、周溝、ピット、炉址は検出されなかったが、南壁にロームを掘り残して構築された、所謂ベッド状遺構が作出されている。

遺物出土状態　遺物はほぼ全域から出土しているが、H－1号住居址同様、いずれもC軽石の上層からであった。

出土遺物　総数で106点と少なかった。Fig.40・46に指示した6点が主だったもので、他は殆ど小破片であった。5.33はいずれも口唇部に僅かな折り返しを持つ、櫛描き文系土器であるが、11の高坏は円形透しを持っており、異系譜であるらしい。又、石器106の打斧は頁岩製であった。遺構の年代は4世紀中頃と見られ、一括廃棄されていた遺物の時期も浅間山C軽石を間に挟むが大差ない時期に位置づけられる。

H－6号住居址　(Fig.4、PL2)

遺　構　本住居址はE－24、E－25、F－24、F－25グリッドで検出された。確認面は基本層序のV層下面で、形状は長軸4.10m×3.20mを測る長方形プランを呈する。主軸方位をN－65°－Eにもち、床面面積10.09mを測る。壁は60°の角度で立ち上がり、残存壁高30mを測る。土層は大きく3層に分けられ、浅間山C軽石の二次堆積が認められた。床面はローム土を若干掘り込んで比較的平坦に構築しており、全体にわたって堅緻面は認められなかった。床面標高は132.23mに位置し、貼床、周溝、ピット等は認められなかった。

炉　址　床面ほぼ中央部に位置する。規模は長径64m×短径55m、深さ9mの楕円形を呈す地床炉で、底面は若干焼けていた。

遺物出土状態　遺物はほぼ全域から出土している。遺構の上半部が消失しているので、殆どは床面近くの層位からであった。

出土遺物　総数で125点と少なかった。Fig.40・43・46に表示したものが主だったものである。時期は浅間山C軽石の降下以降と考えられ、4世紀の後半代に比定できる。

H－7号住居址　(Fig.5、PL3)

遺　構　B－23、B－24、C－23、C－24グリッドに所在する。確認面は基本層序V層の下面で検出された。形状は4m×4mの規模を有する正方形を呈しており、主軸方位はN－49°－Wにもっている。床面面積は12.88mを測り、壁は63°の角度で約30cm立ち上がる。土層は中央では3層に分類でき、床面直上に浅間山C軽石の純層がプライマリー堆積していた。床面は標高133.34mに位置し、ほぼ平坦に形成されている。踏み固めは認められず、貼床も検出されなかった。ピット、周溝等も検出されていない。

炉　址　中央部の東壁寄りに位置する。長径90m短径80m深さ14mの方形を呈する地床炉である。ブロック状に焼土、炭化物が含まれていた。

遺物出土状態　遺物はすべて浅間山C軽石の上から出土している。H－1、5などと同様その出土状況は興味深い。特に石器の出土が目立っている。

出土遺物　総数で79点出土しており、Fig.35で示した石器が9点出土している。38の使用痕剥片は灰色安山岩製、47の礫器はホルンフェルス製、72のスクレーパーは頁岩製、71の打製石斧は頁岩製、74のスクレーパーは頁岩製、41の使用痕剥片は黒色頁岩製、54の礫器はホルンフェルス製、37のスクレーパーは黒色安山岩製、5の縄文混入品ドリルは黒色頁岩製、43のスクレーパーはチャート製であった。この他の遺物はFig.19・34・38・41に示した。スクレーパーは穂積具としての機能が考えられる。土器は15の高坏、146の櫛描き文系土器以外はいずれも小破片であった。

H－8号住居址　(Fig.5)

遺　構　調査区域の最北部C－25、C－26、D－25、D－26グリッドに位置する。表土が薄かったため、基本層序のⅡ層を除去した段階で検出された。H－11が完全に埋没後に構築されており、同住居址床面から60m前後の間層をあけて構築されている。形状は3.58m×3.52mの規模を持つ正方形で、主軸方位をN－59°－Eに持つ。床面面積は11.16㎡であったと思われるが、西側にD－321が掘り込まれており、その部分が破壊されていた。壁面は82°の角度で立ち上がり、残存壁高20cmを測る。土層は殆ど分層できず、二次的な浅間山C軽石粒子を混入していた。床面は平坦で踏み固めは全体に認められた。床面標高は130.55m測る。炉址、周溝、ピットなどは存在しなかった。

遺物出土状態　残り具合が悪く、殆ど床面付近の出土である。

出土遺物　本住居址からは土器片が104点出土しているが、明確な形でのH－11との分離を行っていない。つまり、これらの中にはH－11に所属する遺物も含まれている可能性があり、注意を要する。148は無節Lの縄文が施される。158はハケメにより調整される。

H－9号住居址　(Fig.6、PL3)

遺　構　本住居址はE－22、E－23、F－22、グリッドに所在した。確認面は基本層序のⅣ層中である。形状は長軸3.15m×短軸2.70mを測るやや東西方向に長い長方形を呈す。四壁は直線的に延び、コーナーが丸く作出される。主軸方位をN－88°－Eにとり、床面面積5.91㎡を測る。壁面は72°の角度で立ち上がり、壁高45cmを測る。土層は比較的多く分離することができ、床面と若干の間層を挟んで浅間山C軽石の純層を検出している。床面はローム層を掘り込んで平坦に構築しており、全体的に軟らかい。標高は133.60mを測り、貼床は検出されなかった。又、炉址、周溝、ピット等も存在しなかった。

遺物出土状態　遺物は浅間山C軽石堆積の直後に一括廃棄されている。

出土遺物　出土した遺物は総数で53点であるが、本住居址に伴うと考えられるものは無かった。しかし、一括廃棄されている遺物群もあまり時間差は無いと考えている。23はRL縄文の施され

る赤井戸系土器である。

H－10号住居址　(Fig.6、PL3)

遺　構　本住居址はC－21、C－22、D－21、D－22グリッドに所在する。確認面は基本層序のⅣ層の下面で検出された。形状は3.16m×3.10mを測るやや歪んだ正方形プランを呈す。主軸方位はN－27°－Eに持ち、床面面積は7.84㎡を測る。壁は65°の傾斜をもって立ち上がり、残存壁高15cmと浅かった。土層は床面付近だけであったが、直上に浅間山C軽石が堆積していることが確認されている。床面はローム層を掘り込んで、比較的平坦に構築されており、全体にわたって軟質であった。貼床、ピット、周溝等は検出されなかった。床面標高は134.10mに位置する。

炉　址　東北隅部に位置する。長径40cm、短径36cm、深さ5cmの円形を呈する地床炉である。比較的良く焼けており、焼土ブロック、炭化物が認められた。

遺物出土状態　遺物は僅かであったが、それらは総て浅間山C軽石の上層から出土している。

出土遺物　総点数で3点と極めて少ない。本住居址に伴うと考えられるものは皆無である。

H－11号住居址　(Fig.7、PL3)

遺　構　本遺構はC－25、C－26、D－25、D－26グリッドに所在する。確認面は基本層序のⅣ層で検出された。形状は8.04m×7.40mを測るやや南北に長い、正方形を呈する。主軸方位はN－46°－Eに持ち、床面面積は12.29㎡に及んでいる。壁は80°の角度をもって立ち上がり、壁高84cmを測る。土層は比較的細分でき、レンズ状堆積していた。上面をH－8、D－321によって破壊されている。ローム土を掘り込んで床面としており、ほぼ平坦に形成されている。床面標高130.10mを測る。貼床、周溝、ピットは検出されなかった。

炉　址　北東隅部に検出された。長径59cm短径42cmの楕円形を呈する地床炉で、深さは6cmあまりであった。炉内からは焼土・炭化物はあまり検出されなかった。このほかに、住居址中央やや西寄りの位置で、床面が焼けて焼土化している部分が認められたが、どういう性格か定かでない。

遺物出土状態　遺物はほぼ全域に亙って出土している。立面的には床面付近が最も多かった。

出土遺物　総数で142点出土している。図示できたものは、器台の脚部2のみであった。出土遺物から本住居址の時期は4世紀の中頃に位置づけられる。

H－12号住居址　(Fig.7・24、PL3・10)

遺　構　本住居址はQ－21、Q－22、R－21、R－22グリッドに所在する。遺構確認面は基本層序のⅣ層下面で検出された。形状は東西4.00m×南北3.18mの規模を有す長方形で、主軸方位をN－67°－Wに持つ。床面面積は14.32㎡を測り、壁面は62°の角度で立ち上がる。壁高は30cm前後残存していた。土層は中央付近で3層に分類できる。二次的な浅間山C軽石の粒子が混入する。床

面はローム層を若干掘り込んで比較的平坦に構築しており、標高130.06ｍに位置する。貼床、周溝、ピット等は検出されなかった。

炉　址　住居址のほぼ中央で検出された。長径88㎝短径70㎝深さ17㎝の規模で、歪んだ楕円形を呈す地床炉である。

遺物出土状態　残存していた覆土が薄かったため、遺物は殆どが、床面付近の層位からの出土である。注目されるのは、周辺のH－３とH－13の他遺構間の接合関係が認められたことである。

出土遺物　(Fig.41･46)　本住居址からは総数で92点の遺物が出土している。13は上半部に輪積み痕を残し、RL縄文を施す赤井戸式土器の特徴を持ち、下半部は櫛描き波状文が施された所謂、樽式土器の特徴を持つものである。10は口縁部に櫛描き波状文、頸部に簾状文を施す所謂樽式土器の上半部で、おそらく、胴部にも波状文が施されると推定される。口唇部は肥厚した典型的な折り返し口縁を呈す。11は所謂十王台式土器の甕で、下半部を欠損する。口唇部を短軸絡條帯Ⅰ類で施文される。29は11とは別個体と考えられる十王台式甕の胴部破片である。26のスクレーパーは砂岩製で穂積み具の可能性が高い。

H－13号住居址　(Fig.8･25、PL3･4･10)

遺　構　本遺構はN－22、O－21、O－22、O－23、P－21、P－22、P－23グリッドに所在する。確認面は基本層序のⅣ層下面である。形状は5.55ｍ×5.50ｍの規模を持つ、隅丸正方形プランで、四壁は直線的に延び、コーナーは丸みを帯びる。主軸方位はN－35°－Wにとり、床面面積は24．83㎡に及んでいる。壁は75°の角度で立ち上がり、残存壁高80㎝を測る。床面はローム層を掘り込んで平坦に構築されており、貼床、周溝等は検出されなかった。中央部の床面標高は130.26ｍを測る。注目されるのは、西南隅部に所謂ベッド状遺構がロームを掘り残して作出されていたことであり、H－５のそれよりも規模が大きい。

炉　址　床面中央の北壁寄りで、主柱穴P1、P4を結んだ線上に位置する。規模は長径80㎝×短径44㎝、深さ8㎝の楕円形を呈し、10㎝あまりの円礫３個を炉縁石として配した地床炉である。炉内には比較的多量の焼土が認められた。

ピット　６個検出された。これらのうち、P1～P4は主柱穴であり、他のピットは補助柱穴及び、貯蔵穴（P5)である。各ピットの規模は、P1・径40㎝深さ64㎝、P2・径44㎝深さ62㎝、P3・径40ｍ深さ56㎝、P4・径56㎝深さ54㎝、P5・径50㎝、深さ30㎝、P6・径36㎝深さ40㎝である。

遺物出土状態　遺物はほぼ全域から出土している。床面付近が最も多かった。

出土遺物　Fig.41　出土した遺物は総数で76点である。大半は土器の小破片であったが、打製石斧の39はノッチドスクレーパーと思われる。又、62の使用痕剥片は頁岩製であった。

H－14号住居址　(Fig.9･26、PL4･10)

遺　構　本遺構はS－24、S－25、T－24、T－25グリッドに所在する。確認面は基本層序のⅣ層下

面で検出した。形状は東西5.40m×南北4.40mを測る長方形で、主軸方位をN－61°－Eに持つ。床面面積は20.10m²に及んでおり、壁は77°の角度をもって立ち上がり、残存壁高75cmであった。土層はほぼレンズ状堆積しており、二次的な浅間山C軽石の粒子を混入していた。床面はローム層を若干掘り込んでほぼ平坦に構築され、全体的に軟質であつた。床面標高は128.90mに位置する。

炉　址　西壁中央部付近に位置し、主柱穴P1、P2、を結んだ線上よりも外側にあたる。長径56cm、短径36cm深さ7cmの円形を呈する地床炉である。炉内から焼土、炭化物は認められた。この他に、主柱穴P1、P4を結んだ線上に床面が焼けている部分が確認されたが、どのような性格のものか定かでない。又、P4、P3の付近にも焼土の集積が認められているが、これらは、床面から浮いていた。

ピット　主柱穴4個と貯蔵穴（P5）1個が検出された。各ピットの規模は、P1・径37cm×23cm、深さ60cm、P2・径38cm深さ34cmP3・径27cm、深さ38cm、P4・径28cm、深さ60cm、P5・径38cm深さ60cm、である。

遺物出土状態　遺物はほぼ全域に亙って出土している。床面直上とその付近が最も多かった。

出土遺物　Fig41・42・43遺物は総数で237点出土した。大半は小破片であったが、134のように、東海地方の影響下にあるような瓢壺や、口縁部の折り返しのだれた櫛描き文系土器が出土している。

H－15号住居址（Fig.10・11・27・28、 PL4・5・10・11 ）

遺　構　集落の盟主的存在である本住居址はM－25、N－24、N－25、N－26、O－24、O－25、O－26グリッドにおいて検出された。確認面は基本層序のⅣ層下面で検出された。形状は6.75m×5.82m²の規模のやや東西方向に長い矩形プランを呈す。主軸方位をN－38°－Eにもち、床面面積は35.45mに及んでいる。壁は80°の角度立ち上がり、残存壁高は80cmであった。土層は基本的にはレンズ状堆積しているが、浅間山C軽石純層の堆積のしかたはやや複雑な様相を呈しており、上屋などの構造物の影響があらわれているのかも知れないが、残念ながらそれ以上情報を図から読み取ることはできなかった。床面はローム土を80～90cm掘り込んで比較的平坦に構築しており、標高は130.02mに位置していた。全体にわたって堅い床が広がっており、貼床の確認のため調査後断ち割りを行ったが非常に堅く締まった所謂地山であり、貼床は全く行っていないことが判明した。周溝は入口部分と推定される東壁中央部と、北壁のP5、P10が掘り込まれている位置を除いてほぼ全周している。ピットは全部で16個検出され、全体的に規則的に配列されている。このうちP1～P4は主柱穴であった。各柱穴の規模はP1径46cm深さ78cm、P2径43cm深さ84cm、P3径43cm深さ66cm、P4径50cm深さ72cm、P5径43cm深さ20cm、P6径82cm深さ48cm、P7径34cm深さ13cm、P8径82cm×54cm深さ64cm、P9径48cm深さ55cm、P10径68cm深さ33cm、P11径20cm深さ54cm、P12径20cm深さ5 6cm、P13径25cm深さ52cm、P14径27cm深さ47cm、P15径28cm深さ33cm、P16径30cm深さ43cm

である。P8は入り口ピットと推定される。

炉　址　西壁中央部付近（炉址1）と北壁中央部付近（炉址2）の２個存在した。いずれも、各主柱穴を結んだ線上よりも外側に位置している。炉址１は規模、長径60cm、短径50cm深さ6cm、の楕円形で炉内からは多量の焼土が出土している。炉址２は長径60cm、短径44cm、深さ6cmの規模の歪んだ楕円形を呈しており、焼けは炉１よりも弱かった。

遺物出土状態　(Fig.27･28)遺物はほぼ全域から出土している。浅間山C軽石を挟んで上下での接合関係も認められており、その在り方に注目したい。

出土遺物　(Fig.36･42･46)　遺物は総数で757点出土しているが、外来系の土器が多いことが特筆される。427は北陸の月影式に見られる器形で口縁部を直立させる、所謂「５」の字状口縁とよばれているものである。下半部は削りが施され、やはり形態的にはやや崩れが認められる。407は東北地方の影響下にある土器であり、天王山式に類例が求められる。332、176はいずれも畿内系の小型高坏の脚部で、A類に属している。このほかは、在地系と思われるもので、櫛描き文系の630、294、45、204、381赤井戸系の異束RL縄文、末端結節の認められる628、RL縄文91などが出土している。特殊遺物に紡錘車が２種類出土している。571は水沼遺跡でも出土している断面が矩形になる弥生的なものである。これに対して、712は断面が台形のより古墳時代的な紡錘車である。191の勾玉も本集落からは希有な出土例であった。以上の出土遺物からみて本住居址の性格を考えて見ると、規模の最大な点、（柱穴の数も多い）、遺物量の豊富なこと、特殊遺物の存在等、立地的なことも考え併せて、「むらおさ」の居住地にふさわしいと言えよう。

Ｈ－16号住居址　(Fig.11･12･29、PL5･11)

遺　構　本遺構は、調査区の最東端、Ｋ－28、Ｋ－29、Ｌ－27、Ｌ－28、Ｌ－29、Ｍ－28、Ｍ－29グリッドに所在する。確認面は基本層序のⅣ層の下面で、検出された。形状は5.84ｍ×5.82ｍを測る、コーナーが丸く作出され、各辺がやや張り出した隅丸正方形を呈する。壁は73°の角度で立ち上がり、残存壁高65cmを測る。主軸方位をＮ－61°－Ｗにとり、床面面積25.83㎡を測る。土層は中央部分では大きく３層に分けられ、ほぼレンズ状堆積をしている。切り合い関係はＤ－318、319に破壊され、Ｈ－17を破壊して構築されていた。床面はローム土を掘り込んで比較的平坦に構築しており、踏み堅めは炉址を中心に住居中央付近にわたっている。床面標高は130.6ｍであった。周溝は、南壁を除いてほぼ全周しており、貼床は認められなかった。ピットは、６個検出されており、P1～P4は主柱穴、、P5は入口ピット、P6は貯蔵穴であった。それぞれの柱穴の規模は、P1・径40cm深さ70cm、P2・径32cm深さ44cm、P3・径46cm深さ60cm、P4・径32cm深さ65ｍ、P5・径82cm深さ45cm、P6径71cm深さ85cmであった。

炉　址　西壁のほぼ中央付近に所在する。主柱穴P1、P2を結んだ線上下に位置しており、径64cm深さ16cmの規模を有する円形の炉址である。炉内には甕形土器の胴部を転用して、炉縁石の変わりにしていたが、地床炉の範疇に属すものと、とらえている。

遺物出土状態 遺物の出土は大きく床面直上、炉址付近、ピット内に大別される。299の小型甕と、466の甕は入口ピット内から出土しており、性格が注目される。

出土遺物 (Fig.36・42)遺物は総数で503点出土した。大半は櫛描き文系の土器であったが、466は赤井戸系でRL縄文が施される。石器は109のスクレーパー(頁岩製)があり、穂積み具としての使用方法がかんがえられる。このほか、259の勾玉、173の石鏃などがある。本住居址の時期は、図示した遺物から4世紀の中頃に比定されよう。

H－17号住居址 (Fig.12・30、PL5・11)

遺　構 所在位置はK－27、K－28、L－26、L－27、M－27、M－28グリッドであった。確認面は基本層序Ⅳ層の下面で検出された。形状は5.43m×5.13mの規模の、隅丸正方形で、四壁はやや殆ど直線的延びる、主軸方位はN－50°－Wにもち、床面面積は22.60m²を測る。壁は62°の角度で立ち上がり、残存壁高45cmを測る。土層は全体的にはほぼ水平堆積しているが、北側隅に浅間山C軽石の純層がレンズ状に堆積していた。住居址の中央やや南寄りをW－15が横切り、東北部はH－16によって破壊されていた。床面はローム土を数m掘り込んで比較的平坦に形成されており、全面に亙って、貼床が認められた。床面標高131.00mに位置する。

炉　址 西壁寄りの中央部付近に構築されている。長径90cm短径65cm深さ14cmの楕円形を呈する地床炉で、炉内からは焼土・炭化物が多量に検出されている。

遺物出土状態 遺構は覆土の上面を消失しているため、殆ど床面付近からの出土であった。

出土遺物 (Fig.36・42)総数で114点出土しているが図示できたのは僅かであった。42の台付甕は、RL縄文により施文されている。

H－18号住居址 (Fig.13、PL5)

遺　構 所在位置はA－16、A－17グリッドあった。確認面は基本層序のⅡ層を除去した段階で検出された。形状は北側の大半が調査区域外にあたるため、北東コーナー付近(4.08m)×(2.92m)を調査できただけであるが、おそらく正方形に近い形状であったと推定される。主軸方位は南壁で、N－58°－Wを示し、調査区域内の床面面積は4.63m²であった。壁は80°の角度で立上がり、残存壁高86cmを測る。土層はきれいなレンズ状堆積をしており、全層に二次的な浅間山C軽石の粒子が混入していることから、C軽石降下以降の構築と推定される。床面はローム層を掘り込んで比較的平坦に構築されており、貼床は認められなかった。床面標高135.78mに位置する。周溝、炉址は調査区域内には検出されなかった。ピットは東南隅部付近に2個検出された。各柱穴の規模はP1径55cm深さ42cm、P2径45cm深さ25cmであった。

遺物出土状態 遺物は床面付近の出土が多かった。

出土遺物 (Fig.46)総数で11点と少なかった。147は櫛描き文系の土器で、口唇部折り返しは殆んど形骸化され僅かに認められる程度であった。

H－19号住居址　(Fig.13･25、PL5･11)

遺　構　調査区域の西南部の、R－2・3、S－2・3グリッドに所在する。この付近はローム層が無く、しかも、あいにく調査時に長雨になり、湧水に悩まされたため、確認にあたっては困難を極めた。しかし、水が干あがると基本層序のⅣ層を切り込んで遺構が構築されていたため、比較的容易に調査を進めることができた。形状は5.50cm×5.16cmの規模正方形プランで、四壁はやや膨らみながら直線的に延び、コーナーが丸く作出される。主軸方位をN－86°－Eにもち、床面面積は25.32m²に及んでいる。壁は64°の角度で立ち上がり、残存壁高8cmを確認したにとどまった。土層は薄く、殆ど1層であったが、中央部をD－20で、東側をO－5により破壊されていた。床面は本遺構の所在した調査区域の南側は谷地状の地形になっており、基本層序のⅤ層に類似した、締まった土で形成されていた。床面標高は129.50mに位置している。周溝、ピット等は確認されていない。又、中央部付近をD－20に破壊されていたため炉址も検出されなかった。

遺物出土状態　住居址覆土が少なかったので、遺物は殆ど床面直上からの出土であった。

遺　物　(Fig.42)　遺物は総数で24点のみであった。これらはいずれも接合され、土師器高坏の破片であった。遺物はこれのみであり、その所属時期から5世紀の中頃と推定される。本住居址のみがこの集落の中で時期を異にしている。

3．古　　墳

M－1号墳

本墳は前橋市西大室町2269及び2273－2番地に所在する。調査グリッドのE－7～14、F－7～15、G－6～16、H－6～16、I－6～16、J－6～16、K－6～16、L－7～15、M－8～15、N－9～13グリッドにあたる。1935年の調査を基に刊行された『上毛古墳綜覧』では、荒砥村大字西大室2273、2269番地に所在する古墳は第57号に比定され、大字は上縄引となっている。これは、現在までにこの区域の地番変更は行なわれていないことから、『綜覧』の記述が誤りで、字は下縄引であるらしい。墳形は円墳と記載され、現状は雑木林、開墾は1933年に行われ、地目は山林、面積61畝20歩、規模は直径115尺、高さ16尺、と記載されていた。なお、綜覧作成時にはすでに石室は盗掘されていたと推定される。試掘調査の結果、墳丘は梅畑によってかなり痛めつけられていたが、埴輪破片なども多量に出土し、基底部分は比較的良く残っていることが推定されるに至った。また墳形は円墳ではなく、西側に短い前方部を持つ帆立貝式古墳であることが明らかとなった。調査前の聞き取り調査では、まだ、盗掘しているのを見たという人が健在で、その年代については大体『綜覧』と符合しているようであった。しかし、副葬品については、全く明らかでなかった。本調査はまだ埴輪列の残っている可能性を考慮して、表土剥ぎから、人力によって行い、墳丘表面にある遺物はすべてドットマップにおさえた。試掘調査によって既に墳丘の一部が断ち割られていたため、将来保存されることも考えて、本調査では、最小限の断ち割りにとどめ、埋葬主体部掘り方の構造が不明確であったため、石室入口部分の試掘のみを行った。

墳　丘　(Fig.14、PL6)

既に試掘調査で東西方向に８本のトレンチが掘られていたので、その埋め戻し土の除去から調査を行い、新たに、墳丘主軸に直交する位置に２本のトレンチを設けた。周溝(Fig.15)はいずれもローム面も掘り込まれており、覆土はCP、FP混じりの黒色土を間層にはさんだあと浅間山B軽石が純層で堆積しており、部分的にB軽石アッシュの純堆積も認められた。墳丘は現在残っている面の大半は周りに堀を巡らせたことによって見掛け上高く見える基壇であり、純粋な盛土は埋葬主体部の付近の約50ｍのみであった。おそらく、埋葬主体部を被覆するのみの最小限のマウンドであったと推定される。調査が進むにつれ、墳丘東側では基壇上に円筒埴輪列が現位置に樹立していることが、明らかになった。しかし、その間隔は約３ｍと塚廻り古墳群や、保渡田八幡塚古墳などに比して粗いことが指摘できる。埋葬主体部は既に石材の殆どが動かされており、多くは焼けていた。さらに、焼土と炭化物がまとまって出土したことから、石材を抜き取った後に、炭窯のようなものに利用したものと推定された。聞き取り調査では、これらのことは確認されていなかったが、炭窯を構築するにあたり、一部分はすでに石室掘り方をも破壊していることが明らかになった。こうした攪乱土の中から現位置は動いているものの、副葬品の一部と思われる、鉄斧、鉗子、鉄鏃、小刀などが発見された。さらに石室入口部左側からは墓前祭りで供献されたと推定される土師器の坏が７個体現位置で出土した。また、埋葬主体部を取り囲むように大刀、盾、靫、翳などの器材埴輪群が配列されていた。くびれ部付近の調査では、現位置の円筒埴輪２個体とほぼ現位置の馬、家などをはじめとした多くの形象埴輪群が検出された。埴輪の出土はこのくびれ部付近と、前方部前面が最大量を示し、盾及び盾持ち人の埴輪、比較的珍しい帽子形埴輪、本古墳の被葬者と思われる冠帽を被った男子像の埴輪などはこの付近から出土している。墳丘は山寄せに構築されており、後円部北側、東側、埋葬主体部の前面にあたる後円部の南側の３箇所に周溝を掘り残した所謂、渡り状施設が設けられていた。完掘されたＭ－１号墳の墳丘規模は、主軸長35.2ｍ、後円部径26.4ｍ、高さ3.1ｍ前方部前幅17.8ｍ前方部主軸全長6.5ｍで、周溝の外側までを含めた総長は主軸部分で37.4ｍを測った。これに対し、埋葬主体部の主軸の延長で測った後円部の幅は28.6ｍで堀の外側まで含めると38.8ｍと主軸総長よりも長く、後円部は歪んだ円形を呈し南北に長いことがわかった。周溝を含めた平面積は1220ｍ²を測り、渡の部分を除いた墳丘平面積は693.5ｍ²に及んでいる。墳丘主軸方位はＮ－56°－Ｗにとる。

埋葬主体部　(Fig.16)

石室は前述したとおり、既にＫ－１により大半は破壊されていた。しかし、石材の抜かれた痕跡と、石室掘り方が調査されたことにより、大まかな構造は推測することができる。石材は一部残存していたものと、Ｋ－１覆土内に攪拌されて出土したものがあり、周辺で産出する輝石安山岩の割石が使用されていたらしい。

掘り方（Fig.17)は南北6.8ｍ×東西5.7ｍの規模を持つくずれた長方形で、主軸方位はＮ－25°－Ｅに持つ。深さは最も深い奥壁付近で1.5ｍ、入口付近では0.7ｍを測った。位置的に後円部のやや

南側に寄ることや、石室根石の抜き取られた痕跡に、框石に相当すると思われるものがあることから、構造は横穴式両袖型で、玄室部の規模はおよそ全長400cm×奥壁部幅250cmで、羨道部は長さ180cm×幅136cmと推定された。一部残存していた裏込めの埋め土にこの付近の岩盤近くでとれる赤色を呈す粘土が残っていた。これは裏込め石の隙間に充填して補強するもので、荒砥地区の横穴式石室にはよく見られるものである。また、このような構造の掘り方を持つ横穴式石室は赤城山南麓地帯には比較的多く認められるものであり、周辺地域の山寄せ古墳に通例的なものである。

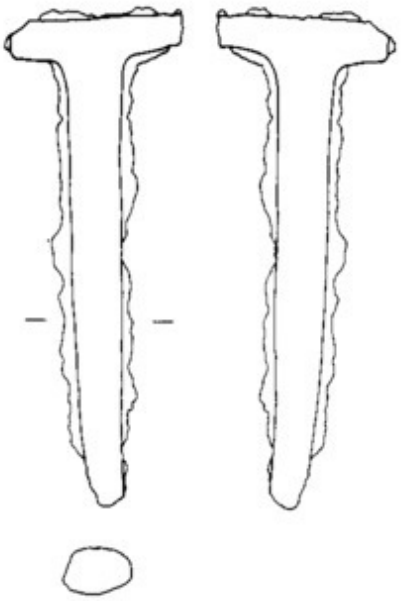
古墳の基盤層は昨年度試掘トレンチによると、盛土はCP、FP混じりの黒色土層上にのっており、FP降下以降であることは確実である。前庭部分から出土した土師器の年代観も6世紀の後半代を示しており、傍証することができる。

4．窯　　址

K－1号窯址　J－11,J－12,K－11,K－12グリッドに所在する。M－1号古墳の横穴式石室を破壊後、その跡を利用したもので、全長640cm最大幅568cmの楕円形を示し、主軸方位はN－26°－Eにとる。天井部はすでに全く崩落していた。壁面の焼けは奥壁付近が最大であり、外はさほどではなかった。床面はほぼ平坦な平窯である。煙道は奥壁の右隅下にトンネル状にあいており、56cmいったところで西側に大きく曲がりながら立ち上がっているので、上部から探査したが、大木の根による攪乱が著しく、検出されなかった。炭化物は底面の端に三角状に集積が認められた。壁面には若干の粘土を貼っていたらしく、それらが焼土化していた。掘り方はM－1号墳石室石材除去した状況で構築されており、一回り大きい相似形を呈している。構築年代は覆土の状況からはさほど古い様相は認められず、近代以降と思われる。『上毛古墳綜覧』記載の盗掘年が正しいとすれば、それ以降の可能性が高く、1920～30年代頃の築造が考えられる。出土遺物には明治以降と推定される陶磁器、石材を割るのに用いたと思われるのみ状の工具があった。なお、炭窯廃棄後付近の耕作土で人為的に埋められており、攪拌された多量の石材と一緒にM－1号墳の埴輪類が相当量あった。

K－2号窯址　O－18.O－19,P－18,P－19,Q－18,Q－19 グリッドに所在する。確認面はⅡ層を除去した段階で検出された。掘り込みの主軸長6.6m、炭化室全長4m、最大幅2m、残存壁高0.8m、前庭部の円形状の掘り込みの主軸長3.2m、幅3.7m、の規模を有す。床面はほぼ水平であり、主軸方位をN－2°－Eにとる。土層は殆ど水平堆積しており、比較的新しい覆土であった。壁面は非常に良く焼けており、焼土が多量に出土した。前庭部の掘り込み内からは、多量の礫が出土している。それらの中の西南隅部にあった巨石には、のみ状の工具痕が認められた。この石はK－1出土の石と同じM－1埋葬主体部用材の輝石安山岩であり、時期的に近いことが推定されるに至った。遺物は総数で98点出土しており、明治以降の陶磁器と、あるいは、耕作の際に集

め捨てられたと推定される多量の縄文土器が出土している。なお、巨石の工具痕に相当すると思われる古墳の盗掘に用いられたのみ状工具がK－1の攪乱土の中から出土している。



K－1出土　のみ状工具

5．土　　坑

土坑名	所在グリッド	規　模（m）	形　状	備　考
D－ 1	J－16	1.70×1.30		
D－ 2	F－11	1.56×1.05	長方形	
D－ 3	F－11、G－11	1.12×0.72	長方形	
D－ 4	G－12	1.15×1.00	正方形	
D－ 5	G－12、G－13	1.34×1.00	長方形	
D－ 6	G－13	0.94×(0.32)	長方形	
D－ 7	M－14	0.93×0.86	正方形	
D－ 8	M－14、M－15	0.44×0.45	正方形	
D－ 9	N－11	0.82×0.85	正方形	
D－ 10	N－11	1.05×0.68	隅丸長方形	
D－ 11	G－11	1.37×1.25	隅丸長方形	
D－ 12	K－6	1.18×0.87	長方形	
D－ 13	K－7、L－7	0.75×0.60	円形	
D－ 14	N－9、N－10	1.17×0.95	長方形	遺物4点
D－ 15	U－0、U－1・U－2	6.45×1.20	長方形	
D－ 16	V－1	不明×0.75	隅丸長方形	

D－17	V－2	不明×0.60	隅丸長方形	
D－18	V－2	0.40×不明	隅丸長方形	
D－19	U－3	0.67×0.63	円形	
D－20	R－2、R－3、S－2、S－3	2.07×1.37	隅丸長方形	遺物18点
D－21	R－2	1.03×0.70	楕円形	遺物2点
D－22	T－2、T－3	1.13×0.80	楕円形	
D－23	R－3	1.15×0.85	隅丸長方形	
D－24	V－3、V－4	1.06×0.96	円形	
D－25	U－4	0.77×0.72	円形	
D－26	U－4、U－5	1.50×1.15	楕円形	
D－27	S－5	1.18×0.75	楕円形	
D－28	T－6、U－6	1.21×0.70	隅丸長方形	
D－29	T－6、U－6	2.50×2.22	円形	
D－30	U－6、U－7、V－6、V－7	0.85×0.80	円形	
D－31	V－7	1.05×0.65	楕円形	
D－32	Q－1、Q－2	0.65×0.57	円形	
D－33	Q－2	1.70×1.10	隅丸長方形	
D－34	Q－2	0.80×0.65	楕円形	
D－35	P－3	1.30×1.02	楕円形	
D－36	Q－3	1.30×1.12	不定形	
D－37	P－3、P－4	0.70×0.43	隅丸長方形	
D－38	Q－4	0.73×0.59	円形	
D－39	Q－4	1.75×1.28	楕円形	
D－40	D－8	1.85×0.95	隅丸長方形	
D－41	B－5	1.00×不明	隅丸長方形	
D－42	B－6	1.00×0.80	楕円形	
D－43	A－6	0.75×0.62	楕円形	
D－44	B－6	1.45×1.00	隅丸長方形	
D－45	B－6	0.54×0.50	円形	
D－46	A－7	1.50×0.96	円形	
D－47	A－7、B－7	0.57×0.30	楕円形	
D－48	B－7	0.50×0.50	円形	
D－49	A－7	1.10×0.70	楕円形	
D－50	A－7	1.15×0.50	楕円形	

D－ 51	A－7	1.17×0.50	隅丸長方形	
D－ 52	A－7、A－8	0.85×1.15	楕円形	
D－ 53	A－7、A－8	1.30×0.87	楕円形	
D－ 54	A－7、B－7	0.97×0.50	楕円形	
D－ 55	B－7	0.45×0.35	楕円形	
D－ 56	B－7	0.70×0.45	楕円形	
D－ 57	B－7	0.90×0.60	隅丸長方形	
D－ 58	B－8	0.40×0.37	円形	
D－ 59	B－8	(1.05)×0.80	不定形	
D－ 60	B－8	0.25×0.15	隅丸長方形	
D－ 61	B－8	0.40×0.30	楕円形	
D－ 62	B－8	1.10×0.95	円形	
D－ 63	A－8、B－7、B－8	1.75×(0.60)	不定形	
D－ 64	A－8	0.30×0.30	円形	
D－ 65	A－8	0.65×0.50	隅丸長方形	
D－ 66	A－8	0.43×0.37	円形	
D－ 67	A－8	0.60×0.57	円形	
D－ 68	A－8	0.72×0.45	隅丸長方形	
D－ 69	A－8、A－9	0.60×0.45	隅丸長方形	
D－ 70	A－8	0.95×0.51	楕円形	
D－ 71	B－8、B－9	1.30×1.05	長方形	
D－ 72	A－9	0.37×0.35	円形	
D－ 73	A－9	0.80×0.60	楕円形	
D－ 74	B－9	0.75×0.65	円形	
D－ 75	B－9	1.50×0.95	長方形	
D－ 76	A－9	(0.70)×0.70	円形	
D－ 77	A－9、B－9	0.37×0.34	円形	
D－ 78	A－10、B－10	0.67×0.50	隅丸長方形	
D－ 79	A－10	0.50×0.45	円形	
D－ 80	A－10	0.35×0.32	円形	
D－ 81	A－10	1.05×0.85	隅丸長方形	
D－ 82	B－10	0.44×0.37	楕円形	
D－ 83	B－9	0.45×0.45	正方形	
D－ 84	B－10	(0.62)×0.49	隅丸長方形	

D－ 85	B－10	(0.60)×0.72	楕円形	
D－ 86	B－ 5	0.86×0.90	不定形	
D－ 87	B－ 8	0.85×0.50	不定形	
D－ 88	A－10	(0.77)×0.70	隅丸方形	
D－ 89	A－11	0.75×0.62	隅丸方形	
D－ 90	A－10、B－10	0.50×0.42	隅丸長方形	
D－ 91	A－ 9	0.65×(0.55)	隅丸方形	
D－ 92	B－10	0.45×0.43	隅丸方形	
D－ 93	B－10	0.40×0.25	楕円形	
D－ 94	B－10	0.50×(0.43)	円形	
D－ 95	B－11	1.20×1.20	隅丸方形	
D－ 96	B－11	0.75×0.73	円形	
D－ 97	B－11	0.69×0.59	円形	
D－ 98	B－11	0.70×0.43	楕円形	
D－ 99	A－11	0.97×0.62	長方形	
D－100	A－11	1.05×0.52	楕円形	
D－101	A－11	0.45×0.37	円形	
D－102	B－11	0.47×0.45	円形	
D－103	B－11	0.55×0.45	円形	
D－104	A－11	0.55×0.55	円形	
D－105	A－11	0.40×0.30	隋円形	
D－106	A－12	0.75×0.70	隅丸方形	
D－107	B－11	0.35×0.27	楕円形	
D－108	B－11	0.18×0.18	隅丸方形	
D－109	A－12	1.85×1.85	楕円形	
D－110	A－12	(0.60)×0.50	不定形	
D－111	A－12	0.70×0.45	隅丸長方形	
D－112	B－11、B－12	0.90×0.60	隅丸長方形	
D－113	B－12	0.50×0.50	円形	
D－114	B－11	0.40×0.28	楕円形	
D－115	A－ 5	0.40×0.40	円形	
D－116	A－ 5	0.60×0.48	楕円形	
D－117	A－ 5	0.57×0.55	円形	
D－118	A－5、B－5	0.55×0.52	円形	

D－119	A－5	0.50×0.45	円形	
D－120	A－5、A－6	1.07×0.70	不定形	
D－121	B－5	(0.40)×0.40	円形	
D－122	B－5	0.60×(0.45)	隅丸方形	
D－123	B－5	0.55×0.45	円形	
D－124	A－6、B－6	0.55×0.55	円形	
D－125	A－6	0.80×0.60	楕円形	
D－126	A－6	0.54×0.54	円形	
D－127	B－7	0.65×0.65	円形	
D－128	B－7	(0.63)×0.78	円形	
D－129	B－7	0.70×0.60	円形	
D－130	A－7、B－8	0.40×0.30	楕円形	
D－131	A－5	1.65×1.05	長方形	
D－132	B－7	1.24×0.87	隅丸長方形	
D－133	A－9	0.47×0.47	円形	
D－134	A－9	0.45×0.42	隅丸方形	
D－135	A－9、B－9	0.73×0.56	隅丸方形	
D－136	B－9	0.55×0.45	楕円形	
D－137	A－10	0.66×0.55	不定形	
D－138	A－10	0.72×0.49	円形	
D－139	A－10	0.42×0.42	円形	
D－140	B－10	0.35×0.35	円形	
D－141	A－11	0.95×0.52	楕円形	
D－142	A－10	0.33×0.33	円形	
D－143	A－10	0.31×0.23	円形	
D－144	A－11	0.45×0.45	円形	
D－145	A－11	0.29×0.32	円形	
D－146	B－11	0.60×0.30	長方形	
D－147	B－12	0.35×0.30	楕円形	
D－148	B－12	0.28×0.25	円形	
D－149	B－12	(0.70)×0.70	不定形	
D－150	B－12	(0.60)×0.50	不定形	
D－151	A－12	0.62×0.50	楕円形	
D－152	A－12	0.23×0.18	楕円形	

D－153	A－12	0.48×0.40	楕円形	
D－154	A－12、B－12	0.45×0.45	円形	
D－155	A－12、B－12	0.75×0.80	円形	遺物1点
D－156	B－12	0.27×0.25	円形	
D－157	B－12	0.25×0.25	円形	
D－158	B－12	0.37×0.30	楕円形	
D－159	B－12	0.70×0.55	楕円形	
D－160	B－12	0.77×0.57	隅丸長方形	
D－161	B－12	1.25×1.35	不定形	
D－162	B－12、B－13	1.36×0.42	隅丸長方形	遺物1点
D－163	B－13	0.35×0.32	円形	
D－164	B－13	0.25×0.24	円形	
D－165	B－13	0.95×0.50	楕円形	
D－166	B－13	0.47×0.47	円形	
D－167	B－13	0.47×0.35	隅丸長方形	
D－168	B－13	0.45×0.30	楕円形	
D－169	B－13	0.25×0.22	円形	
D－170	A－13	0.32×0.30	円形	遺物1点
D－171	A－13	0.67×0.55	楕円形	遺物3点
D－172	A－13	0.47×0.27	隅丸長方形	
D－173	A－13	0.60×0.35	楕円形	
D－174	C－13	0.78×0.30	楕円形	
D－175	B－13	0.28×0.28	円形	
D－176	B－13	0.28×0.29	円形	
D－177	B－13	0.30×0.28	円形	
D－178	B－13	0.30×0.25	楕円形	
D－179	B－13	0.25×0.25	円形	
D－180	B－13	0.27×0.23	楕円形	
D－181	B－14	(0.43)×0.30	隅丸長方形	遺物1点
D－182	B－14	(1.03)×0.70	不定形	
D－183	B－14	1.30×1.30	円形	
D－184	B－14	0.25×0.23	円形	
D－185	B－14	0.30×0.27	円形	
D－186	C－14	0.38×0.30	隅丸長方形	

D－187	C－14	0.70×0.45	楕円形	
D－188	C－14	0.45×0.43	隅丸方形	
D－189	C－14	0.35×0.35	円形	
D－190	C－14、C－15	0.55×0.40	隅丸長方形	
D－191	B－14、B－15	0.90×0.64	楕円形	
D－192	B－15	0.82×0.65	隅丸長方形	
D－193	B－15	0.35×0.30	楕円形	
D－194	A－15、B－15	1.40×1.05	隅丸長方形	遺物1点
D－195	A－15	1.00×0.87	不定形	
D－196	A－15	1.40×1.18	不定形	遺物2点
D－197	A－15	0.50×0.35	楕円形	
D－198	B－14	0.65×0.34	楕円形	
D－199	C－15	0.65×0.34	楕円形	
D－200	C－15	0.75×0.45	楕円形	
D 201	B－15	0.35×0.30	楕円形	
D 202	B－15、C－15	0.55×0.50	円形	
D 203	C－15	0.35×0.28	隅丸長方形	
D 204	C－15	0.30×0.20	隅丸長方形	
D 205	B－15	0.91×0.60	隅丸長方形	
D 206	B－15	1.05×0.75	隅丸長方形	
D 207	B－15	1.34×1.15	不定形	
D 208	B－15	0.8×(0.8)	不定形	遺物2点
D 209	B－15、B－16	1.15×0.73	長方形	
D 210	B－15、B－16	1.15×0.80	長方形	遺物1点
D 211	C－15	0.85×0.30	楕円形	
D 212	C－15	0.80×0.40	隅丸長方形	
D 213	B－16	0.40×0.37	円形	
D 214	B－16	0.85×0.50	楕円形	遺物2点
D 215	B－16	0.80×0.25	隅丸長方形	遺物1点
D 216	B－16	0.67×0.58	長方形	
D 217	B－16	0.40×0.35	楕円形	
D 218	B－16	0.40×0.40	円形	
D 219	B－16	0.38×0.32	円形	
D 220	B－16	0.35×0.32	円形	

D 221	B－16	(0.38)×0.43	隅丸長方形	
D 222	B－16	(0.35)×0.32	不定形	
D 223	B－16	0.55×0.36	隅丸長方形	
D 224	B－16	0.34×(0.25)	長方形	
D 225	B－16	0.40×0.32	隅丸長方形	
D 226	A－16、B－16	0.37×0.38	円形	
D 227	A－15、A－16	0.25×0.25	円形	
D 228	A－15	0.28×0.29	円形	
D 229	A－16	0.55×0.42	楕円形	
D 230	A－16	0.52×0.47	円形	
D 231	A－16	0.32×0.30	円形	
D 232	C－17	0.70×0.43	隅丸長方形	
D 233	C－16、C－17	0.65×0.35	楕円形	
D 234	C－16、D－16	1.05×0.40	楕円形	
D 235	C－5	1.10×0.75	隅丸長方形	
D－236	C－4、C－5	0.97×0.78	楕円形	
D－237	C－5	0.50×0.50	円形	遺物2点
D－238	D－4、D－5	1.45×0.85	楕円形	
D－239	D－5	1.30×1.20	隅丸方形	
D－240	C－7、C－8	2.10×1.00	長方形	
D－241	D－6	(1.35)×1.30	円形	
D－242	D－7	0.80×0.68	円形	
D－243	D－6	(0.78)×0.40	隅丸長方形	
D－244	E－6	1.05×0.90	円形	遺物1点
D－245	E－6	1.00×0.55	楕円形	
D－246	E－6	0.97×0.68	楕円形	
D－247	E－6	0.33×0.35	円形	
D－248	E－7	(0.75)×0.40	楕円形	遺物1点
D－249	E－7	(0.80)×0.55	楕円形	
D－250	D－7	(0.95)×0.70	楕円形	
D－251	E－7	0.55×0.55	隅丸方形	
D－252	E－7、E－8	1.10×0.80	楕円形	
D－253	E－7	0.65×0.50	楕円形	
D－254	E－7	0.65×0.48	楕円形	

D－255	E－7、E－8	0.35×0.36	円形	
D－256	D－8、E－8	0.57×0.50	円形	
D－257	D－8	1.03×0.66	隅丸長方形	
D－258	B－5	1.20×1.10	不定形	
D－259	B－5、C－5	2.15×1.45	長方形	
D－260	F－5	1.18×0.96	隅丸方形	遺物1点
D－261				
D－262	F－6	0.40×0.35	円形	
D－263	F－6	0.95×0.85	円形	
D－264	F－3、6	1.85×1.08	隅丸長方形	
D－265	F－5	0.40×0.35	円形	
D－266	Q－5、R－5、F－6	1.15×0.95	楕円形	遺物1点
D－267	G－1、R－2	1.40×1.65	長方形	
D－268	P－1	不明×1.65	隅丸長方形	
D 269	R－2	0.93×0.65	隅丸長方形	
D－270	S－7	1.50×0.80	楕円形	
D－271	R－4、S－4	1.10×0.55	隅丸長方形	
D－272	R－4、S－5	0.55×0.45	円形	
D－273	T－7	0.80×0.65	円形	
D－274	T－7	不明×0.65	楕円形	
D－275	S－7	0.26×0.25	円形	
D－276	S－7	0.40×0.30	楕円形	
D－277	S－9、S－10、T－9、T－10	1.15×0.82	隅丸長方形	
D－278	R－9	0.90×0.43	楕円形	
D－279	R－9、R－10、S－9、S－10	1.18×0.91	楕円形	
D－280	S－8、S－9	2.05×0.78	楕円形	
D－281	S－9、T－9	1.25×1.15	円形	
D－282	S－9、T－10、T－10	1.08×0.78	隅丸長方形	
D－283	T－8、U－8	1.80×1.00	隅丸長方形	
D－284	U－8、V－8	0.75×0.60	隅丸長方形	
D－285	U－8	0.75×0.76	円形	
D－286	U－8	0.65×(0.57)	隅丸長方形	
D－287	T－7、T－8、U－7、U－8	1.30×0.90	楕円形	
D－288	U－7	0.62×0.65	円形	

D－289	O－2、O－3、P－2、P－3	1.87×1.80	隅丸方形	
D－290	T－8	0.33×0.30	円形	
D－291	P－7	0.45×0.40	隅丸方形	
D－292	O－6	1.38×1.13	隅丸長方形	
D－293	R－15、R－16	2.70×0.85	長方形	遺物4点
D－294	R－15、R－16	2.50×0.90	長方形	遺物6点
D－295	I－20、I－21	1.87×1.07	長方形	遺物1点
D－296	I－20、I－21、J－20、J－21	2.32×1.05	長方形	
D－297	J－20	1.28×0.94	長方形	
D－298	J－20	(0.62)×0.58	円形	
D－299	J－20、J－21、K－20、K－21	1.46×1.46	円形	
D－300	K－20	0.38×0.25	不定形	遺物2点
D－301	M－19、M－20、N－19	1.95×1.80	隅丸方形	
D－302	K－21、K－22	0.58×0.55	円形	
D－303	I－19	1.30×1.50	隅丸長方形	遺物1点
D－304	J－19	2.37×1.35	隅丸長方形	
D－305	I－25、I－26	2.34×1.10	楕円形	
D－306	I－24	1.05×0.83	隅丸長方形	
D－307	I－24、I－25	0.85×0.70	楕円形	
D－308	M－18、M－19、N－18、N－19	2.05×1.52	隅丸長方形	
D－309	I－21	1.20×0.87	隅丸長方形	遺物6点
D－310	H－19	1.40×0.90	長方形	
D－311	G－19	0.80×0.45	楕円形	
D－312	G－19、H－19	0.55×0.30	隅丸長方形	
D－313	H－20	0.50×0.42	隅丸長方形	
D－314	I－25	1.00×0.90	円形	遺物13点
D－315	G－20	0.51×0.30	隅丸長方形	遺物1点
D－316	G－20	0.80×0.55	楕円形	
D－317	H－27	0.55×0.50	不定形	
D－318	K－29、K－30、L－29、L－30	0.85×0.42	長方形	遺物3点
D－319	M－29	0.50×0.45	正方形	遺物19点
D－320	G－20、G－21	0.50×0.40	円形	
D－321	F－20	0.80×0.40	楕円形	
D－322	R－13	2.20×2.10	円形	

D－323	J－24、J－25	1.25×1.00	長方形	
D－324	J－25、J－26	4.05×0.80	長方形	
D－325	F－19、F－20	0.85×0.45	楕円形	
D－326	F－19	0.50×0.40	円形	
D－327	E－19、F－19	2.10×0.60	楕円形	
D－328	F－19	0.70×0.45	楕円形	
D－329	F－19	0.95×0.50	楕円形	
D－330	F－17、F－18	0.65×0.40	隅丸長方形	
D－331	F－17	0.65×0.35	隅丸長方形	
D－332	F－17	0.65×0.40	隅丸長方形	
D－333	F－17	0.70×0.55	隅丸長方形	
D－334	F－17	0.50×0.40	隅丸方形	
D－335	F－17	0.60×0.50	隅丸方形	
D－336	F－16、F－17	0.45×0.42	円形	
D－337	F－16	0.45×0.40	円形	
D－338	F－16、F－17	0.40×0.35	隅丸方形	
D－339	E－16、F－16	0.65×0.40	隅丸長方形	
D－340	E－18	0.45×0.35	円形	
D－341	E－18、E－19	0.85×0.50	隅丸長方形	
D－342	D－18	0.70×0.53	隅丸長方形	
D－343	E－17	0.45×0.40	隅丸方形	
D－344	D－17、E－17	2.80×0.68	楕円形	
D－345	E－16	0.60×0.40	楕円形	
D－346	D－16	0.60×0.55	円形	
D－347	E－16	1.00×0.60	隅丸長方形	
D－348	D－15、E－15	0.85×0.70	円形	
D－349	D－15、D－16	0.60×0.40	楕円形	
D－350	D－16	0.85×0.30	楕円形	
D－351	D－15	0.60×0.30	楕円形	
D－352	C－15	0.65×0.45	隅丸長方形	
D－353	D－15	0.70×0.35	楕円形	
D－354	D－15	0.70×0.40	隅丸長方形	
D－355	D－15	0.55×0.45	隅丸長方形	
D－356	D－15	0.75×0.50	隅丸長方形	

D－357	D－15	0.55×0.55	円形	
D－358	D－15	0.35×0.25	隅丸長方形	
D－359	D－15	0.50×0.30	隅丸長方形	
D－360	D－14　E－14	0.55×0.50	不定形	
D－361	D－14、D－15	0.45×0.40	円形	
D－362	C－14、C－15	0.50×0.30	隅丸長方形	
D－363	C－14	1.00×0.30	楕円形	
D－364	C－14	1.20×0.45	楕円形	
D－365	D－14	0.50×0.30	楕円形	
D－366	D－14	0.30×0.30	円形	
D－367	C－14	0.40×0.25	楕円形	
D－368	D－13	0.40×0.25	楕円形	
D－369	D－13	0.50×0.30	隅丸長方形	
D－370	D－13	0.30×0.25	円形	
D－371	C－13	0.30×0.20	楕円形	
D－372	D－13	0.30×0.30	円形	
D－373	C－13、D－13	0.50×0.20	楕円形	
D－374	D－13	0.60×0.25	隅丸長方形	
D－375	D－13	0.40×0.20	隅丸長方形	
D－376	D－12	0.70×0.45	隅丸長方形	
D－377	D－12	0.40×0.25	隅丸長方形	
D－378	D－12	0.70×0.30	楕円形	
D－379	D－12	0.40×0.35	円形	
D－380	D－12	0.45×0.35	円形	
D－381	D－12	0.50×0.35	隅丸長方形	
D－382	D－12	0.70×0.40	隅丸長方形	
D－383	D－12	0.50×0.40	楕円形	
D－384	D－12	0.85×0.60	隅丸長方形	
D－385	D－12	0.56×0.45	隅丸方形	
D－386	C－12	0.60×0.40	隅丸方形	
D－387	C－11	0.50×0.30	楕円形	
D－388	C－11	0.70×0.45	隅丸長方形	
D－389	C－11、C－12	0.70×0.40	楕円形	
D－390	D－11	0.60×0.35	楕円形	

D－391	D－11	0.50×0.35	隅丸長方形	
D－392	C－11	0.65×0.40	隅丸長方形	
D－393	D－11	0.85×0.60	隅丸長方形	
D－394	C－11、D－11	1.00×0.35	楕円形	
D－395	C－11	1.45×0.63	楕円形	
D－396	D－11	1.60×1.10	長方形	
D－397	D－10、D－11	1.05×1.23	不定形	
D－398	B－19、C－19	2.25×1.45	長方形	
D－399	B－19、C－19	1.20×1.05	正方形	
D－400	C－19	1.70×0.95	長方形	
D－401	C－19、C－20	1.30×0.85	長方形	
D－402	C－19、D－19	1.50×1.00	長方形	
D－403	C－19、D－19	1.00×0.40	長方形	
D－404	C－19、C－20、D－19、D－20	0.70×0.40	長方形	
D－405	B－20、B－21、C－21	1.80×0.92	長方形	
D－406	B－20	1.50×0.80	長方形	
D－407	B－21	0.65×0.60	正方形	
D－408	B－21	1.10×0.62	長方形	
D－409	C－20、C－21	2.50×1.50	長方形	
D－410	I－15	1.00×0.90	円形	
D－411	H－15、H－16、I－15、I－1	64.20×1.40	楕円形	

6．溝　　址

W－1号溝　M－11～15、N－3～9、11～13、O－8～11グリッドに所在する。調査区のほぼ中央部を横断する。M－1号墳の南裾部を破壊しているが、同古墳の南側波状張り出し部のところで地形的な制約を受け、ほぼ直角に南へ曲がり、張り出し部を避けるようにして、再び曲がって西側に向かっている。おそらく調査区よりも西に続いているものと推定されるが、西側は現地表の浸食が激しく、耕作土が薄いため掘り込まれている部分はすでに破壊されており、検出できなかった。この溝の所属時期自体、埋め土の観察結果から近世のおそらく耕作に伴うものと推定され、表土の厚い調査区中央部分が偶然掘り込み面を残していたのであろう。遺物は総数で3点のみであった。切り合い関係はD－7、8、9、10のいずれよりも古い。

W－2号溝　M－11～15グリッドに所在する。調査区域の中央部分をW－1の北側に平行するように掘り込まれていた。D－7、8、9、10、に破壊されている。W－1に地形的な制約を受

けていると思われ、それに伴うものか、若干後出するものと推定される。遺物は総数で1点のみであった。

W－3号溝　N－11～14グリッドに所在する。W－1を破壊して掘り込まれている。W－4、5とは平行しており、同時期のものと考えられ、埋め土から近世以降の耕作に伴うものと推定される。

W－4号溝　N－11～13グリッドに所在する。W－3、5と平行しており、W－1を破壊して掘り込まれている。覆土から近世以降の耕作にともなうものと推定される。

W－5号溝　N－12～15グリッドに所在する。W－3、4と平行しており、W－1を破壊して掘り込まれている。覆土から近世以降の耕作に伴うものと推定される。

W－6号溝　調査区西南隅部のU－2～4、V－3～6グリッドに所在する。西側をD－15に破壊され、東側は調査区域外へと続いている。現在の地割りとは若干、方向性が異なるものであり、W－7と平行関係にある。覆土の所見から、近世以降の耕作に伴うものと推定される。遺物は総数で4点のみであった。

W－7号溝　調査区域の西南隅部付近、S－23、T－3～5グリッドにW－6の北側に平行して所在する。方向性や覆土の所見から、W－6と同時期のものと思われる。

W－8号溝　R－4、5、S－4、5、6グリッド所在する。W－7の北側で、若干方向性を異にして存在する。確認面から浅く、東側、西側ともに破壊消滅していた。覆土の所見から近世以降の所産と推定される。遺物は総数で3点出土している。

W－9号溝　西側を調査区域外へ置き、O－1、2、3、T－2～7、Q－6～10、R－10、S－10、T－10、U－10、V－10、W－10グリッドで直角に曲がって調査区南へと続いている。切り合い関係はD－35とD－289を破壊している。W－6、7、8とはいずれも方向性を異にしており、それらに先行する可能性を持つ。しかし、上限はやはり近世頃までであろう。遺物は総数で9点出土している。

W－10号溝　R－2、Q－1～3 グリッドに所在する。北側はすでに破壊消滅しており、西側は調査区域外へと続いている。D－289、33に破壊されており、覆土の所見から、近世以降の所産と推定される。遺物は総数で1点のみであった。

W－11号溝　調査区の南側S－7、8、T－7、8、U－7、V－6、7グリッドに所在する。大半は調査区域の南へと続いている。D－287に破壊されており、北側もすでに破壊消滅していた。遺物は総数で1点のみであった。

W－12号溝　P－3～9、Q－8～10グリッドに所在する。W－9の北側をW－13と平行して走行する。W－9を破壊しており、覆土の所見から、近世以降の所産と考えられる。遺物は1点のみであった。

W－13号溝　T－5～10グリッドに所在する。W－12の北側を平行して走行する。近世以降の所産と推定される。遺物は総数で2点のみである。

W－14号溝　A－9、B－8、9グリッドに所在する。調査区の北西隅部に位置しており、北側は調査区域外へ続いている。D－71を破壊しており、近現代の耕作痕に南側を破壊されている。

W－15号溝　L－20～30、M－20、21、N－20、21、O－20、P－19、20、Q－19、20、R－19、S－19、T－18、19、U－18、19、V－18、19 グリッドに所在する。調査区東側から走行してきており、中央部でほぼ直角に曲がって調査区域南へと続いている。重複関係は、H－3、16、17 よりも新しく、D－311、317よりも古い。出土遺物は107点あり、殆どが付近の赤井戸期集落の混入物で古い物であったが、98の渥美焼大甕破片のように、12世紀の所産と考えられる貴重なものも出土しており、本溝の所属時期も古代の末期に比定されるものと考えられる。

W－16号溝　O－18、19、P－18、19、Q－18、19、R－18、S－18、T－18、U－18、V－18グリッドに所在し、調査区域の中央部分を北南方向に縦断している。北側は表土の削平が著しかったため、すでに消滅しており、調査区のほぼ中央付近から確認されている。南は調査区域外へとのびていく。本遺跡の試掘に入る前まではこの溝に一致して道が作られており、本遺構は道の側溝にあたる位置にあることから、その性格も推定されよう。表土剥ぎの段階では道路の下部に相当する位置は堅く締まった土が検出されているが、遺存度が悪かったため、平面的にとらえるまでは至っていない。覆土から近世以降の所産であろう。D－304、308に破壊されている。

W－17号溝　調査区域の東側グリッドに所在する。H－14に相似形でめぐっており、それらとの関連性でとらえられよう。出土遺物や覆土も類似しており、住居址の上屋構造の区画に関連したものではなかろうか。遺物は総数22点出土しており、すべてH－14と同時期であった。

W－18号溝　B－25、C－25、D－25、26、E－26グリッドに所在する。調査区域の東北側に位置する。北側も東側も調査区域外へと続いているため完掘はできなかった。住居址を破壊して掘り込まれていた。遺物は総数26点出土しており、すべて古墳時代の土器片であった。

7．地　割　れ

X－1　F～K－15～29グリッドに所在する。確認面は基本層序のⅣ層中である。丘陵の末端部を取り巻くように、クラックが走っている。調査区域内では約53mにわたっており、西側はM－1号古墳の周溝を切って墳丘部分で止まっている。亀裂は最大で幅5.5cmに及んでおり、深さはプレ試掘6グリッドの断面で3.3mを測る。亀裂により、約50cm陥没しており、八崎軽石層で止まっていた。下に軽石層があるため、所謂、液状化現象はおきていない。おそらく、大規模な地震によって形成されたものであろう。この災害の時期は、M－1号古墳の周溝を破壊しており、完全に埋没しきった段階で浅間山B軽石の純層が堆積している。

これらの中からは1011点に及ぶ遺物が出土しているが、殆どは周辺集落の4世紀代の遺物であった。埋没過程である程度の時間が経過した段階で、16の須恵器高台埦が出土している。下限を示す重要な史料であると言える。

8．埋　　甕

U－1　　T－19グリッドで検出された。土坑内に正位に埋設されていた深鉢１個体で堀之内Ｉ期に比定されるものである。土坑の規模は、0.46ｍ×0.38ｍで深さ25cmであつた。

U－2　　S－21、22 グリッドで検出された。土坑内に埋設された樽式土器の甕の口縁部である。遺物は横位または伏せてあったと推定される。土坑は1.68ｍ×0.92ｍの規模で、深さ36cmであった。

9．落ち込み

O－1　　K－７グリッドに所在する。2.0ｍ×1.9ｍの規模の不定形を有しており、深さ38cmであった。遺物は無かった。

O－2　　O-10グリッドに所在する。1,65×1.42ｍの規模の隅丸長方形を有しており、深さ24cmであった。遺物は無かった。

O－3　　Ｉ－12、Ｊ－12グリッドに所在する。古墳の頂上部分であり、Ｋ－１の煙道部分を破壊している。本落ち込みは、ほかの遺構と違って、木は倒れておらず、立ちぐされをしたか、人為的に抜かれたものと推定される。調査時点で、腐りかかった松の根や枝が出土しており、以前、古墳頂部に松の大木があったことが推定される。規模は4.25×1.00mの不定形を呈す。深さは1m以上に及び、さらにトンネル状に地中深く続いている。

O－4　　P－24、Q－24グリッドに所在しており、2.90×2.25ｍの楕円形を呈す。ふかさは112cmであった。

O－5　　R－3、S－3グリッドに所在する。規模は2.90×2.90mの隅丸三角形を呈しており、深さは１ｍ以上になると思われるが、湧水のために完掘できなかったが、

Ⅵ　成果と問題点

1．　プレ～縄文時代の調査

先土器時代の調査　縄文時代の包含層から有舌尖頭器の破片が出土したため、付近を４ｍ×４ｍのグリッドで掘り下げ、あわせて、調査地内の数箇所にトレンチをもうけて、先土器時代の遺構および遺物の検出に努めた。深掘の総面積は約１００ｍ²に及び、これは遺跡調査総面積の１％に当たるものである。その結果調査地域内の洪積世火山堆積物は層序説明の所で述べた通りの状況であったが、良好な状況なのは八崎軽石層のみであった。北部では礫層が八崎軽石層の下で確認されたが、人工的なものではないことが確認された。このグリッドの西側で八崎軽石層の直上からチャート製の礫器状のものが検出されたが、人工品かどうか疑問なものである。

縄文時代の遺物には草創期の有舌尖頭器、早期末の条痕文系土器、後期称名寺式、堀之内式、加曽利E式土器等が出土しているが、遺構としては堀之内Ⅰ式土器の埋甕が１基（U－１）検出されたのみである。

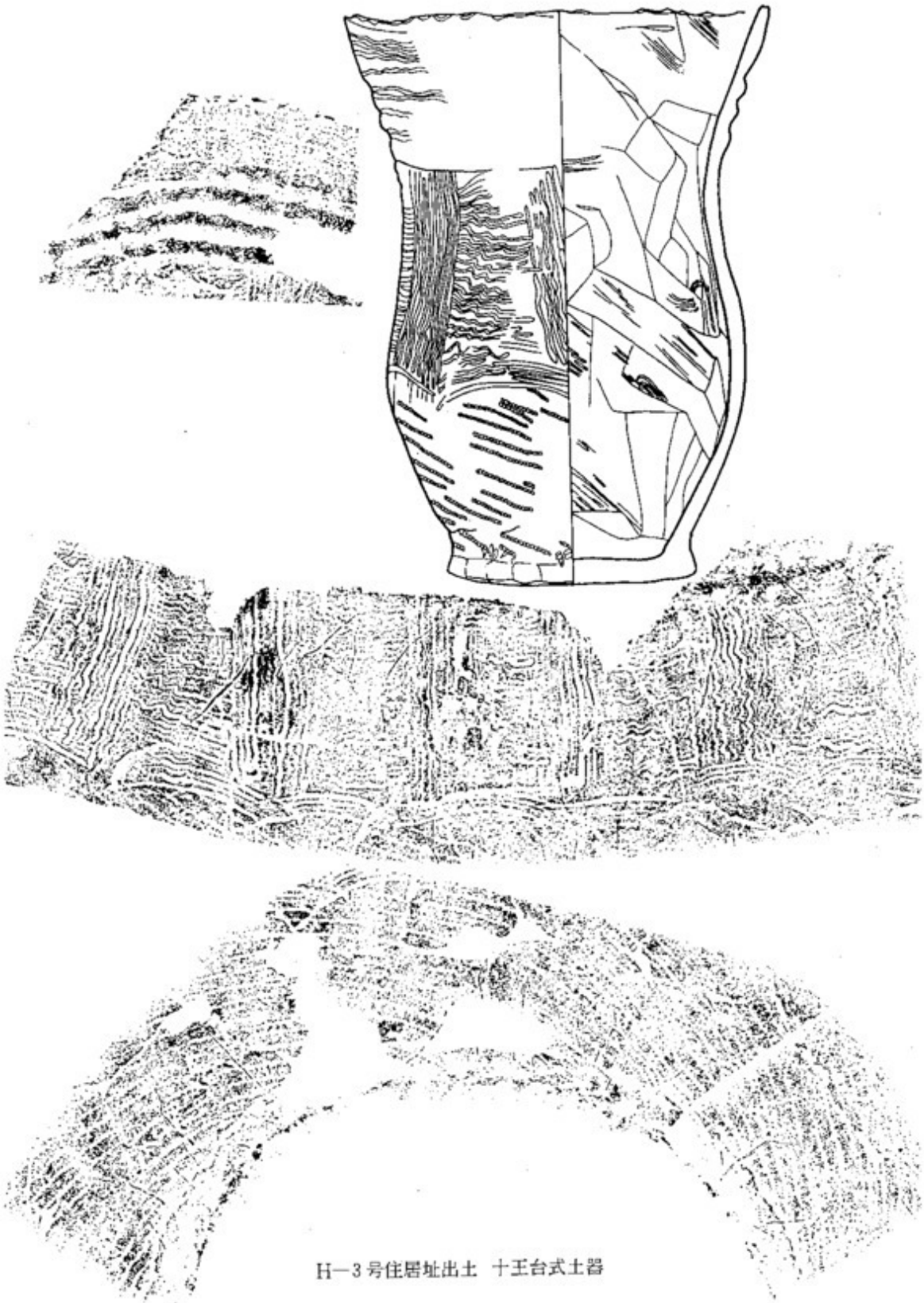
２．集落の調査

浅間山Ｃ軽石層をはさんで前後する時期の集落が検出され調査された。出土した土器から１９８０年に本遺跡の北西の台地上で検出された上縄引遺跡の周溝墓群に対応する集落であることが確認された。８０年当時はこれらが弥生時代終末期の土器様相であると考えられていたが、近年の研究成果ではこれらはすべて、古墳時代に位置付けることが常識化しているのは周知の通りである。 遺物の出かたは、Ｃ軽石の入る住居址と入らない住居址では明らかに異なっている。Ｃ軽石の入る住居址は一般的にはテフラ層で遺物を被覆されるのであるから、却って残り具合がよさそうであるが、殆ど小破片のみであり、量も少ない。それに比して、Ｃ軽石の入らない住居址はわずか数*cm*しか覆土が無いにも拘わらず、比較的図示できるものが多かった。即ちH－１のように、Ｃ軽石堆積住居址では、軽石堆積後間層をあけて一括廃棄されているため、上部が取り払われてしまうと遺物の廃棄されていた層も一緒に失われてしまうと考えられる。それに比べて、軽石の堆積が無い住居址は比較的床面上もしくは床面近くに遺物が多いためにこのような現象が起こり得るのであろう。

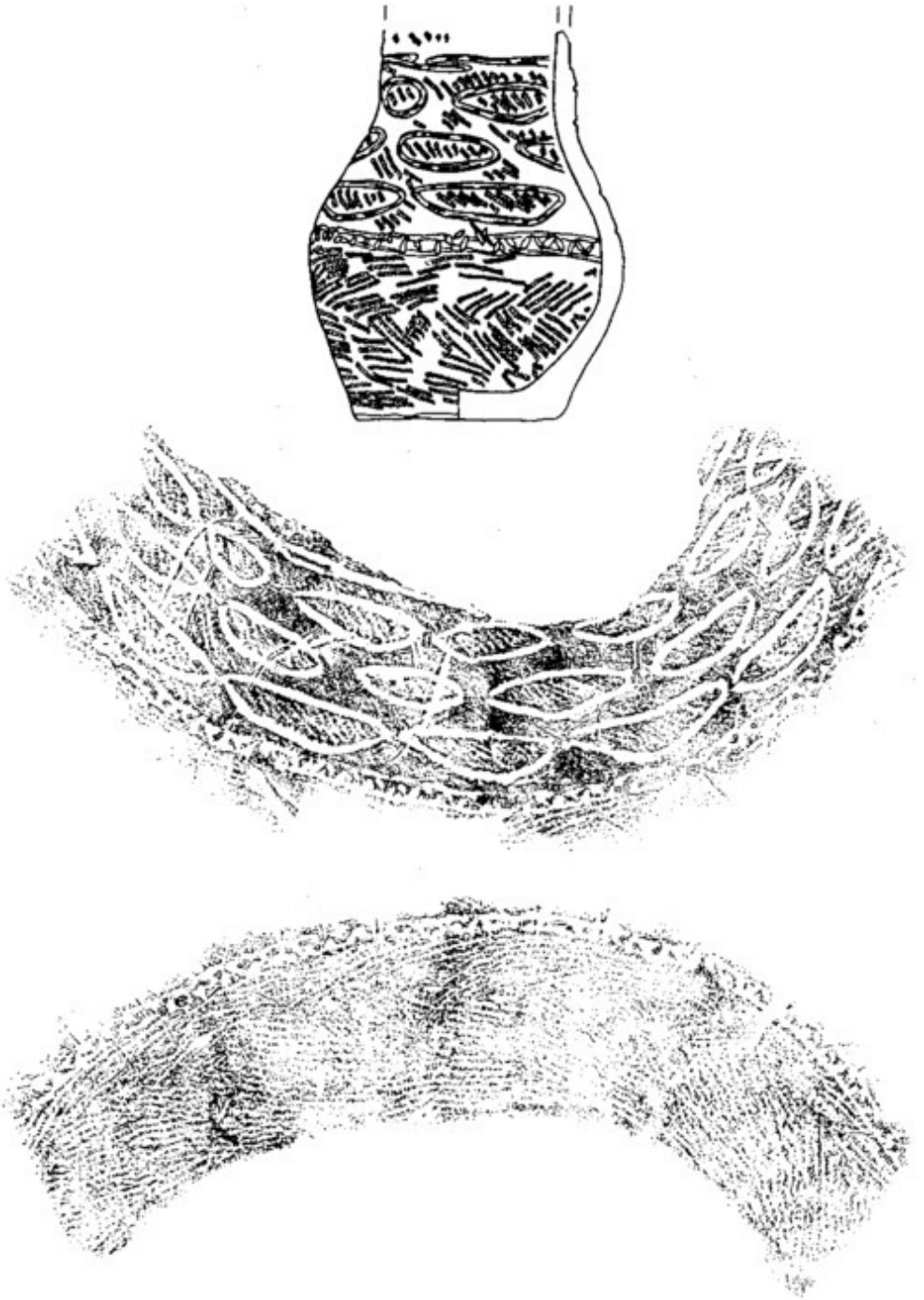
ところで、本集落は独立丘陵上に占地しているが、北側は未発掘であるので、これを以て全容を述べるのは時期早尚であるとも言えるが、敢えて調査の成果をまとめてみると、検出した住居址数は浅間山Ｃ軽石降下前が６軒、降下後が12軒、後出する５世紀代の住居址１軒を除くとして、総数18軒の集落であった。これに対して、道路を隔てて北西側で調査されている上縄引遺跡では、降下前の周溝墓が６基、降下後の周溝墓が５基であった。上縄引遺跡も果たして墓域を全面発掘しているかというと疑問なものであり、両者の数は今後増えこそすれ減ることは絶対ないといえる。これらの数をもとに両者の関係を試算してみると、降下前は１軒に１基、降下後は２軒に１基の割合である。平均すると、大体1.5軒に１基の割合で墓が築かれていることになる。この数は従来言われているような周溝墓が特権階級の墓という規定概念からはあまりにもかけはなれた状況を想定させる結果になった。これらついては、ここでは問題提起にとどめ、今後の調査で解明されることに期待したい。

３．外来系土器について

H－12及びH－３で出土している十王台式土器は、標識の土器よりも崩れたものであり、太田市上遺跡ではS字状口縁の新しい段階のものとの共伴例がしられているから、おそらく、４世紀も後半代に比定されるものと思われる。H－３やH－12で共伴例のある小型精製土器も、古墳時代の遺物であることを示している。又、H－14では甕壺が出土しているは甕壺が出土している。口残っており、くずれていない。H－15では東北地方の影響下にあると思われる土器や、北陸系の



H—3号住居址出土　十王台式土器



H—15号住居址出土
天王山式土器

月影式と思われる土器も出土している。共伴に畿内系ｂ類の小型高坏があり、古墳時代の所産であることは間違いない。

H－３出土の十王台式土器の施文方法

地文に、Lの単軸絡條帯Ⅰ類をころがす。→横方向櫛描き波状文（４単位）。→縦方向スリット（５箇所）。→口縁部の隆帯をはりつける。→口唇部、縄押圧による刻み。→体部連弧文（時計回り）。→１箇所だけ縦方向スリット。→隆帯の施文

H－15出土の天王山式土器の施文方法（頸部より上は欠損していたため除く）

地文にLの単軸絡條帯Ⅰ類を施文する。（下半部は矢羽状を呈す。）→上半部模様帯を区画する。（頸部との境界は竹管のはらを用いて。体部の中央は半截竹管による平行沈線）→胴上半部に楕円形の沈線文を竹管の腹を使って施す。→体部平行沈線を竹管を使って交互刺突。→楕円形部分を除いて赤彩。→上半部をナデる。楕円形部分を残して、地文を消す。（よく消されておらず、非常に形式的である。）

４．M－１号墳と出土遺物

帆立貝式古墳であることから竪穴系の石室を想定していた。埋葬主体部は破壊されていたため明らかでなかった。しかし、その位置が後円部のやや南側によること、前面に渡り状の施設があること、掘り方の石材抜き取り痕などから横穴式両袖型石室であることが妥当であると思われる。

さらに、墳輪や前庭部分で出土した土師器の年代観も横穴式石室であることを肯定している。墳頂部から出土した須恵器の大甕は横穴式古墳的な要素である。その須恵器は太田金山窯址群の製品である。

副葬遺物は殆ど盗掘されていた。僅かに、鉄斧、鉄鏃、鉗子、小刀等が残存していた。

鉄鏃は１は広鋒丸凹長三角形式に類似する。２は棘篦被鏃の茎部断片である。

鉄斧は袋状を呈し、全長14.4㎝、刃部幅5.8㎝を測る大型のものである。県内で古墳出土の鉄斧には、前橋天神山古墳をはじめ、柴崎蟹沢古墳、軍配山古墳等、初期古墳で出土している短冊形鉄斧が知られている。これに対して本墳で出土している袋状鉄斧は現在までに、20数例確認されており、時期的には朝倉２号墳の５世紀初頭が初源であり、後出することは確実である。しかし、赤堀茶臼山古墳、達磨山古墳、厳手塚古墳、石ノ塔古墳等、竪穴系の埋葬主体部からの出土例も際立っており、５世紀代にひとつのピークを迎える。６世紀前半代にあまり出土例が無いが、横穴式古墳でも、観音塚古墳、玉村荻塚古墳、をはじめ、御部入５号墳のような群集墳からの出土例もあり、形態的に後代に受け継がれているはずであるから、今後間を埋める史料が増加するであろう。又、鉗子は一般的には製鉄関連の遺跡から出土するものであり、被葬者の性格を言及するうえで実に興味深い史料である。前橋市の東部から伊勢崎市、赤堀町にかけては鉗子を出土する古墳が比較的知られている。今後、この時期の製鉄遺跡が発見される可能性は大きいと言えよう。

5．M－1号墳出土の形象埴輪

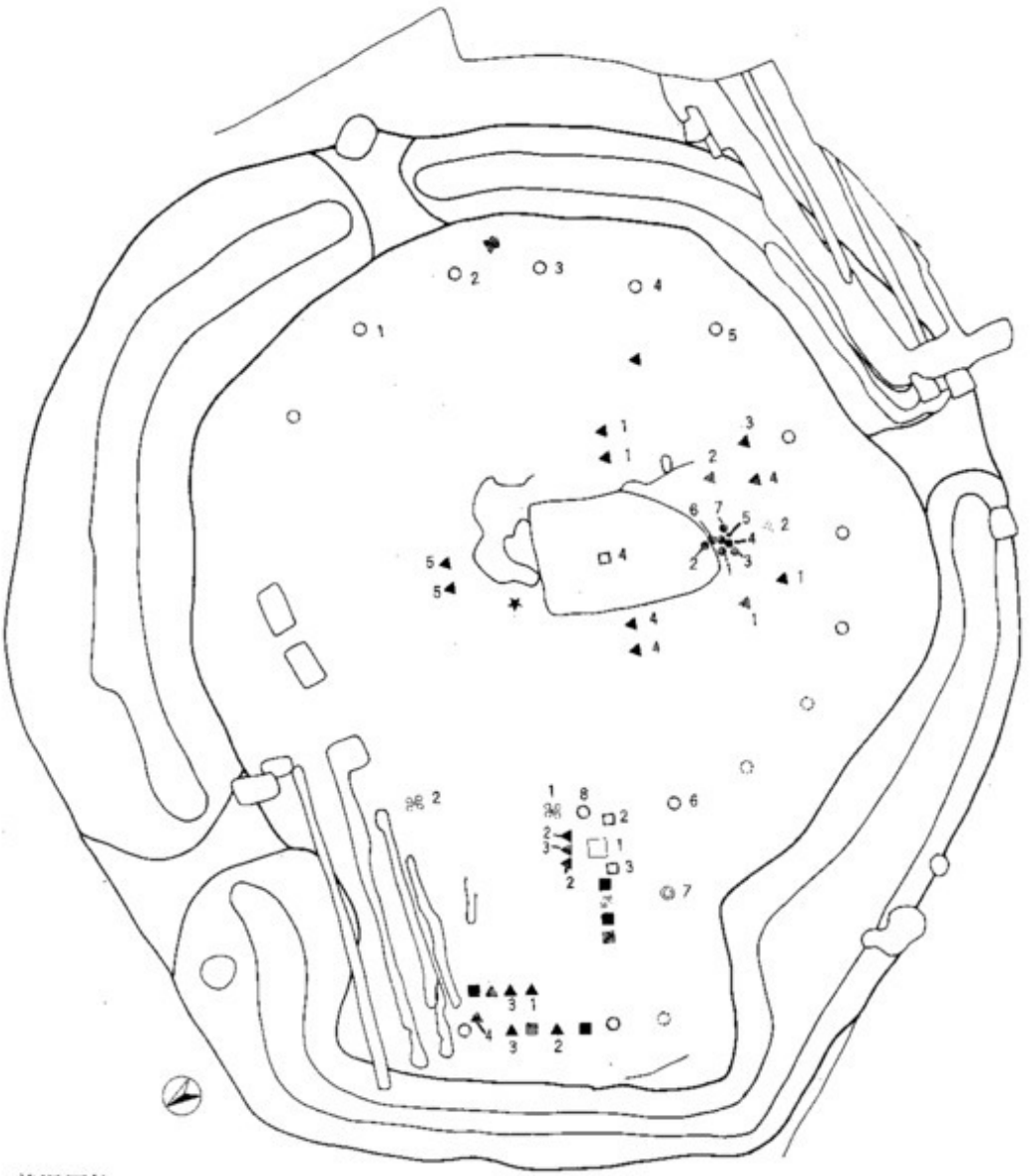
本墳で特筆されるのは、埴輪総数の中に占める形象埴輪の割合が高いことである。特に器財埴輪は多種にわたって、多量の出土が見られ、その配列は一つの物語りを形作っているものと推定される。複数ある器種にはそれぞれ個々の顔つきがあり、さらに分類が可能なものも含まれていた。盾1は鋸歯文をモチーフにしているのに対し、2では方形の区画が認められ、白色塗彩されていた。化学的な分析等を試みていないため、古墳に配列されていた当時この色であったかどうかは明らかでないが、現在見えるこの色の塗彩は本墳では比較的多く認められている。家1の鋸歯文や、人物女子像のスカート部分、鞆2の鹿の子模様、靫3の羽根の円形模様、家3の格子部分、さらには、朝顔形埴輪の外面などである。一般的な埴輪の塗彩は「赤」であり、本古墳の場合は希有な例であると言える。これらのうち、鞆2の斑点状鹿の子模様は鞆の材質が鹿の革であったことを裏付ける重要な発見であった。靫に表現されている鉄鏃の器種は、靫1では先端を欠損していて解らないが、3では片刃箭鏃であることが読み取れる。又、馬の埴輪に表現されている馬具の形式は馬1，2ともに素環の環状鏡板付き轡であった。埋葬主体部の付近で出土した大刀形埴輪は3種類に大別された。a類は一般的な玉纏大刀であり、b類は近年その存在が証明された、鈴纏大刀と呼ばれるものである。その類例としは桑57号墳、と時代は下がるが伊勢神宮の神宝に実例が知られており、大刀形埴輪では、藤岡本郷埴輪窯址、太田市高林出土品、横浜市瀬戸ケ谷古墳出土埴輪にその表現例がある。本墳出土品は瀬戸ケ谷古墳例に酷似しており、大橋分類の1類に相当する。c類は塚廻り3号墳の大刀形埴輪に類例のある円形飾金具の表現されているものである。実例としては、奈良石光山46号墳の出土が知られている。このほか、管見では、帽子形埴輪の出土例は吉井町蛇塚古墳例、伊勢崎市今宮4号墳例が知られており、鉾形埴輪の出土例は本墳の周辺の荒砥村341号墳、本郷埴輪窯址にある。

6．形象埴輪の配列復元

形象埴輪は大きく3つのブロックに別れて配列されていた。これらを仮に東からA群、B群、C群と呼称して、それぞれの群構成について概観してみたい。

A群は埋葬主体部周辺とその入り口部付近から出土したもので、靫、翳、太刀、盾、矛、などの器材群のみと石室上におかれていたと推定される家形埴輪によって構成される。盾は最低3個体あり、大刀も4個体以上はあると考えられる。

B群はくびれ部に配列されていたものとその南側周溝内に崩落していたもので、母屋と推定される堅魚木をもつ家形埴輪とその副屋を中心に馬と、翳、鞆、靫らの器材群、さらにその西側には農夫、男子像、みこと思われる女子像らの最低3人の人物群がおかれていた。周溝内に崩落していたものは、本来は前方部上に配列していたことも考えられるが、落ちている方向からある程度のまとまりを形成していたことは伺えることから、C群とは分類した。



○ 普通円筒
◎ 朝顔型円筒
▲ 盾
▲ 靫
▲ 甲冑
▲ 鏃
▲ 帽子
▲ 矛
▲ 大刀a
▲ 大刀b
▲ 大刀c

□ 家
馬
■ 冠帽をかぶる男子像
■ 女子像
武人？
■ 男子像
農夫
盾持ち人１
■ 盾持ち人２
樽式土器
★ 須恵器大甕
● 供献土器

M－１号墳埴輪配置復元図

C群は前方部前面に配列されたものとその西側周溝内に崩落していたもので、首長と考えられる冠帽をかぶる男子像を中心に盾２、盾持ち人２が交互に並び、帽子、靫、翳、靱、馬が配列されていた。前方部前面に盾及び盾持ち人が配列される例は太田市塚廻り古墳群をはじめとして、各地で認められている。これに対して、首長がいる部分に家が無く、また首長以外の人物がいないことが特筆される。さらに、A群には人物像が全く認められないこともひとつの特徴となっている。埋葬主体部の回りが器財群のみで構成される例は竪穴系の埋葬主体部に多いものであり、その点本墳の配列法は古式な様相を残していると言うことは指摘できよう。

これらが形作っている埴輪祭式を考えて見ると、首長とおぼしき王者が家から少し離れた地点において、何かの儀式を行っているか、あるいは狩りをしていると考えられる。靱、靫などの器材群があること、一般に言われる王位継承にあたって用いられる大刀がいずれもA群にしか無いことなどから儀式の特異性も伺える。従者たちはいずれも家の近くに揃って待機しておりB群とC群はそれぞれ関連性のある物語り、あるいはひとつの舞台配置をなしていると考えられる。これにたいし、A群の器材類や、家は直接おこなわれている儀式に伴うものではなく、古墳（埋葬主体部）を警護するための武器類の配置でしかない。それは物語りを進行する人物像がA群には認められず、配列も埋葬主体部を囲繞するように配列されていたことからも伺える。

翳はA～C群いずれにもありA群には２個体は確実に存在していた。A群に配列されていた大刀は西側からｃ類、ｂ類、ａ類、ａ類の順でならんでいた。

円筒埴輪列は、後円部東側に現位置を保って、直立していたものが５本、くびれ部に２本認められたが、このほかにも、８本分の所在が推定できる個体が認められた。古墳は山寄せに作られているため、北側は削平されやすい条件にあり、事実、墳丘はかなり削平されていたが、それにしても、周濠内に埴輪片の流れ込みが少なかったことから推定しても、その配列は全周はせず、北側には配列されなかったと思われる。西側は前方部北西のコーナー付近までは配列されていたと思われる。母屋の置かれたくびれ部付近では、円筒６の内側、即ち、墳形と相似形に巡る列にたいして円筒６を角に直交する方向に円筒埴輪が認められており、家を取り囲むように配列されていた可能性を持つ。

須恵器の大甕は石室奥壁北の古墳最頂部に配置されていたと推定される。これは横穴式古墳的な要素のひとつといえる。

なお、後円部東側の、円筒３の外側すぐ近くの位置に、東の集落で使用されていたと推定される樽式土器が埴輪列とともに配列されていた。底部が残っていたことから、直立していたことはあきらかであり、その性格が興味を引く。

７．大規模な地震災害の痕跡

調査区域の中央部を長さ53ｍにわたってクラックが走っていた。時期はＭ－１号墳の東側周溝を一部破壊していることから少なくとも６世紀の後半代よりは新しいことは明らかである。殆ど

埋没した段階においてB軽石が堆積していることが明らかとなっている。ある程度埋没した段階において混入したと考えられる須恵器の高台付き埦は底径８ｍの比較的口径の大きい器形であり、その年代観から９世紀の中頃という時間軸を設定することができる。大地震により活断層が形成され、ある程度の時間が経過した段階の時期がこの年代であり、地震の時期は９世紀前半代という『類聚国史』巻171、異災部の記述にある弘仁九年（818)は妥当な線であろう。

こうした大規模な活断層は本遺跡だけでなく、荒砥地区さらには、大胡町、粕川村、新里村、笠懸村等でも発見されており、その被害地震の規模の大きさも推定できよう。

８．炭窯について

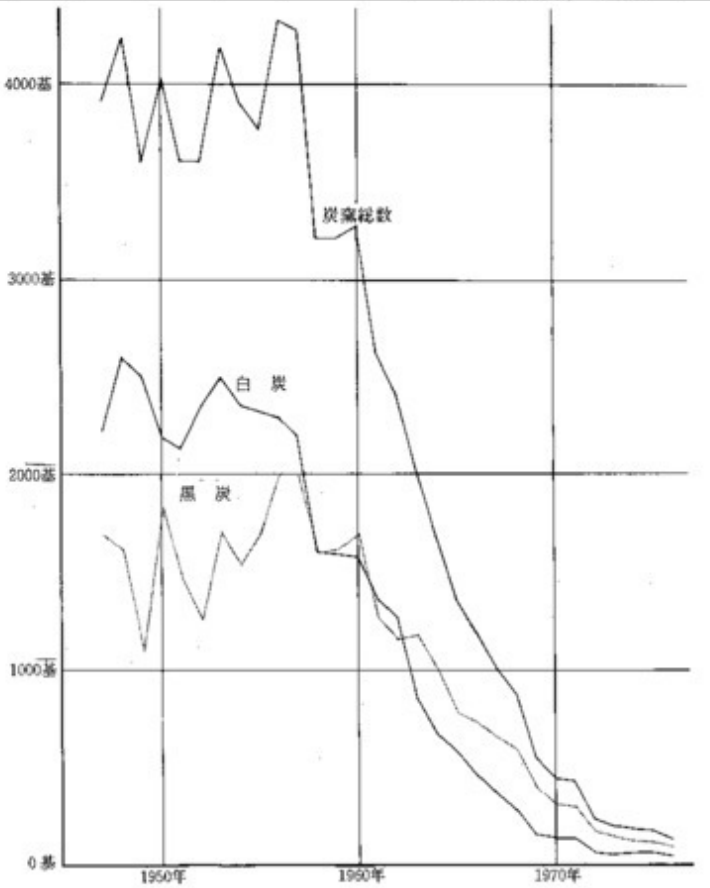
本調査では２基検出している。石材の出土状況や、出土遺物の陶磁器、覆土の状況、構造等は全く異なるが、２基の窯址がほぼ同時期の所産であることは間違いあるまい。

赤城山南麓地帯ではこの種の遺構は比較的多く検出されている。既に発掘調査されたものだけでも50基は下らないと思われる。それらの中には、古代にまでさかのぼる新里村十三塚遺跡や大胡町八ケ峰遺跡もあるが、大半は本遺跡と同時期の近世以降の所産である。荒砥地区でも、西大室遺跡群、柳久保Ⅵ遺跡、柳久保諏訪遺跡 、柳久保Ⅲ遺跡、小稲荷遺跡等で調査されている。

本遺跡の場合おそらく、その構築年代は20世紀に入ってからと思われるが、その構造から稼働していたのは白炭窯である。近代以降の木炭生産はすでに記録類からの調査も可能となっている。参考にあげたのは、群馬県下における木炭の生産量と炭窯の数の推移を表にしたものである。この表からわかるように、木炭の生産量は戦前のピーク1940年を境にして戦局が悪化してくるため降下をたどる。戦後一度盛り返すが、やがて60年代前半からの燃料革命で石油に取って変わり衰退の一途をたどる。本遺跡の炭窯がこれらの数に含まれているかどうかは知る術も無いが、消滅していく近代農村の伝統産業を復原するひとつの史料となりうるであろう。

群馬県における炭窯数の変遷（非稼働窯を含む）

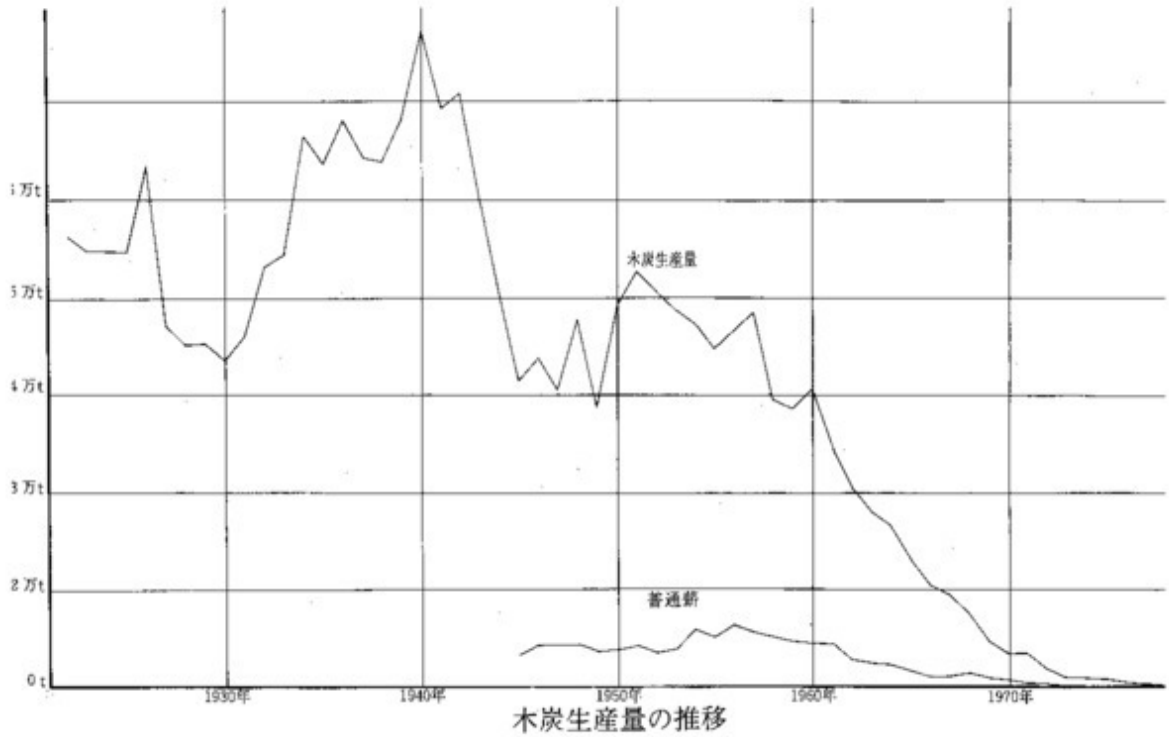
年度	総数(基)	黒炭(基)	白炭(基)	年度	総数(基)	黒炭(基)	白炭(基)
1947年	3,914	1,690	2,224	1962年	2,428	1,158	1,270
1948年	4,237	1,616	2,621	1963年	2,034	1,178	856
1949年	3,605	1,100	2,505	1964年	1,684	1,015	669
1950年	4,036	1,839	2,197	1965年	1,357	776	581
1951年	3,604	1,470	2,134	1966年	1,186	727	459
1952年	3,606	1,262	2,344	1967年	1,019	653	366
1953年	4,199	1,700	2,499	1968年	874	593	281
1954年	3,900	1,541	2,359	1969年	542	392	150
1955年	3,762	1,704	2,058	1970年	440	309	131
1956年	4,324	2,025	2,299	1971年	428	298	130
1957年	4,273	2,072	2,201	1972年	230	170	60
1958年	3,211	1,599	1,612	1973年	191	143	48
1959年	3,212	1,620	1,592	1974年	180	120	60
1960年	3,270	1,695	1,575	1975年	175	114	61
1961年	2,630	1,269	1,361	1976年	131	89	42



群馬県における炭窯数の変遷（非稼働窯を含む）

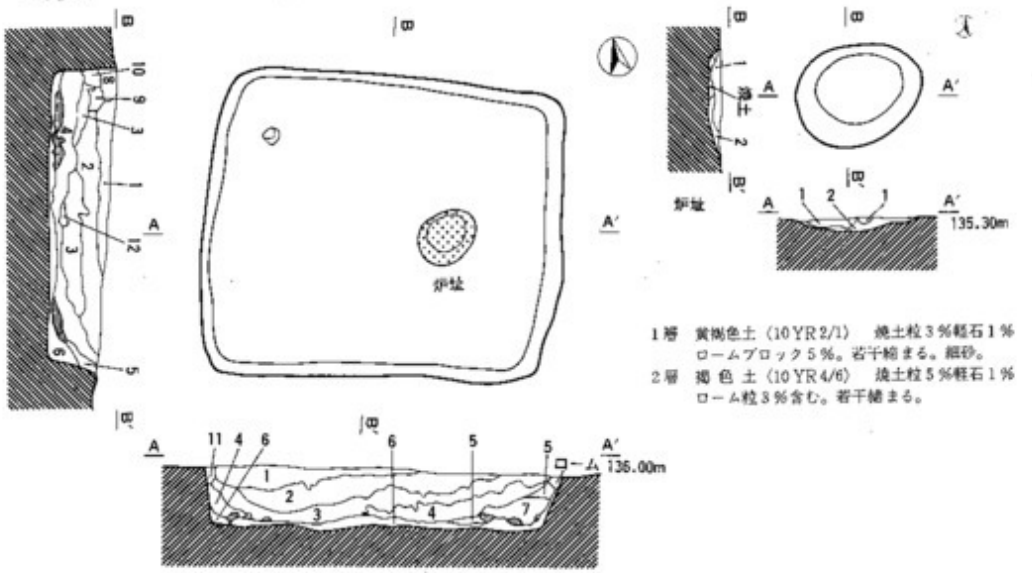
木炭生産の推移

年度	木炭生産量(kg)	普通薪(kg)	年度	木炭生産量(kg)	普通薪(kg)
1922 年	46,263,000		1952 年	40,615,185	3,527,323
1923 年	44,802,540		1953 年	38,784,090	3,751,519
1924 年	44,837,355		1954 年	37,369,110	5,922,950
1925 年	47,264,580		1955 年	34,766,895	5,148,561
1926 年	53,637,915		1956 年	36,635,025	6,325,614
1927 年	37,094,520		1957 年	38,499,660	5,623,071
1928 年	35,220,585		1958 年	29,407,095	5,115,648
1929 年	35,352,885		1959 年	28,656,195	4,607,762
1930 年	33,631,425		1960 年	30,675,765	4,540,246
1931 年	36,031,425		1961 年	24,677,805	4,365,930
1932 年	43,196,490		1962 年	20,557,005	2,729,364
1933 年	44,303,250		1963 年	18,062,999	2,526,750
1934 年	56,540,205		1964 年	16,600,497	2,229,350
1935 年	53,717,670		1965 年	13,115,136	1,595,250
1936 年	58,189,560		1966 年	10,306,082	1,110,150
1937 年	54,377,070		1967 年	9,454,602	1,102,545
1938 年	53,891,055		1968 年	7,563,070	1,385,010
1939 年	58,207,230		1969 年	4,664,020	753,450
1940 年	67,206,285		1970 年	3,480,266	729,200
1941 年	59,353,740		1971 年	3,538,309	415,000
1942 年	60,766,470		1972 年	1,982,305	285,350
1943 年	50,328,015		1973 年	895,258	84,100
1944 年	40,623,165		1974 年	984,011	38,400
1945 年	31,280,850	3,296,713	1975 年	806,315	19,400
1946 年	33,785,310	4,165,713	1976 年	517,439	23,800
1947 年	30,449,340	4,192,425	1977 年	383,667	19,700
1948 年	37,779,210	4,259,963	1978 年	344,000	29,000
1949 年	28,618,140	3,632,350	1979 年	313	3,800
1950 年	39,032,460	3,766,960	1980 年	365	600
1951 年	42,700,065	4,176,220			


木炭生産量
普通薪
6万t
5万t
4万t
3万t
2万t
0t
1930年
1940年
1950年
1960年
1970年

木炭生産量の推移

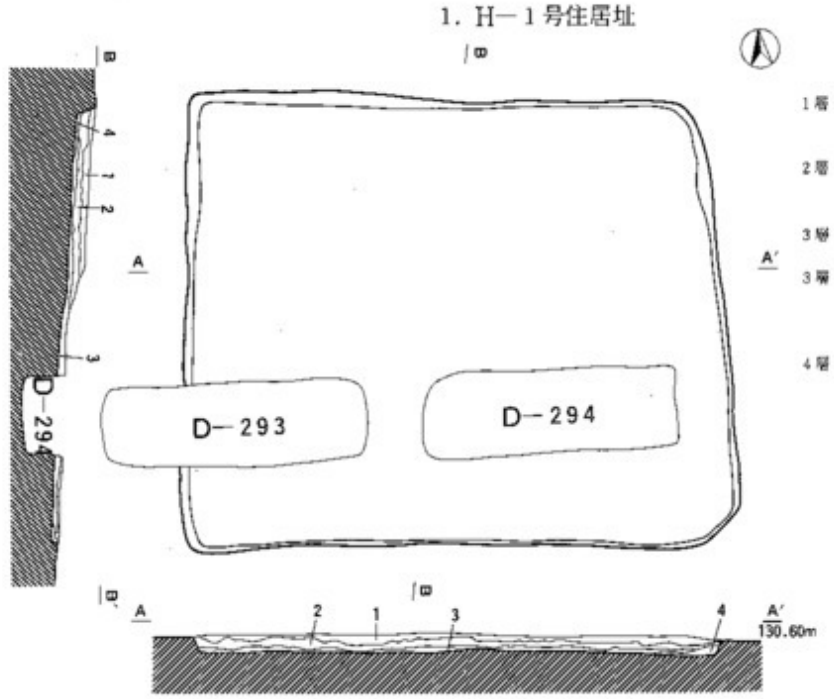
Fig. 1



1層　黄褐色土（10YR2/1）　焼土粒3%軽石1%
　　ロームブロック5%。若干締まる。細砂。
2層　褐色土（10YR4/6）　焼土粒5%軽石1%
　　ローム粒3%含む。若干締まる。

1層　黒色土（10YR2/1）　CP3%FP2%ローム粒1%含む。細砂。
2層　黒色土（7.5YR2/1）　CP5%FP1%ローム粒2%炭化物粒1%含む。細砂。
3層　暗褐色土（10YR3/4）　CP2%ローム粒1%炭化物粒2%含む。若干締まる。細砂。
4層　暗褐色土（10YR3/4）　CP30%ローム粒1%炭化物粒1%含む。若干締まる。粘性有り。
5層　褐色土（10YR4/6）　細砂。
6層　黄褐色土（10YR5/6）　二次的なローム。締まりなくやわらかい。CPなし。
7層　褐色土（10YR4/6）　CP80%ローム粒20%含む。部分的にCP純層を含む。（スクリーントーン部）
8層　1層＋ローム
9層　2層＋ローム
10層　3層＋ローム
11層　3層＋4層＋ローム
12層　3層＋CP

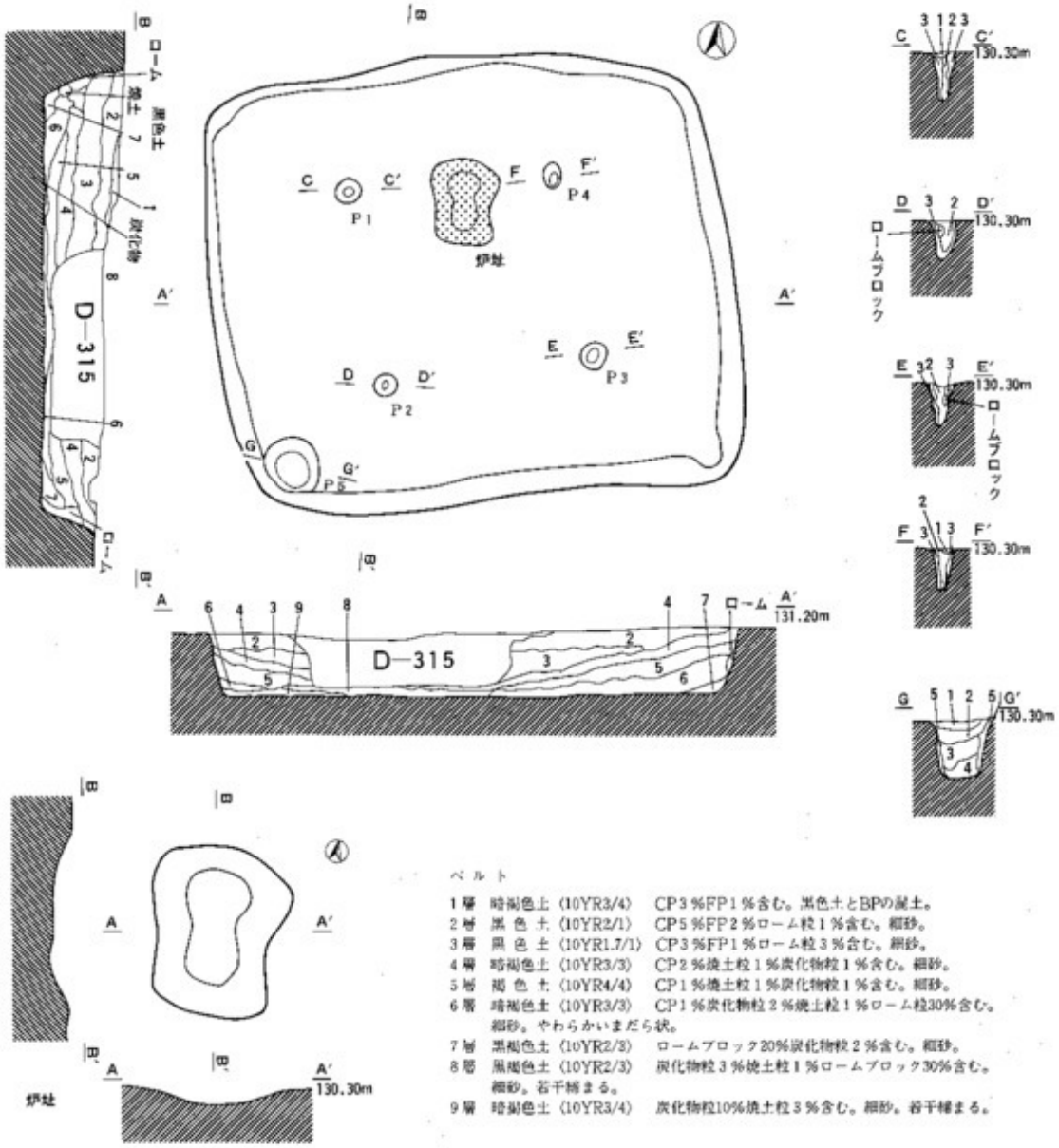
1．H－1号住居址



1層　黒色土（10YR2/1）　CPロームブロック5%含む。細砂。固く締まる。
2層　黒褐色土（10YR3/2）　CP2%ロームブロック10%含む。細砂。若干締まる。粘性有り。
3層　暗褐色土（10YR3/3）　CP2%ロームブロック60%含む。
3層　暗褐色土（10YR3/3）　CP2%ロームブロック60% 焼土粒3%炭化物粒1%含む。細砂。若干締まる。
4層　暗褐色土（10YR3/4）　CP1%ロームブロック80%含む。細砂。若干締まる。粘性大。

2．H－2号住居址

Fig. 2



ベルト

1層	暗褐色土	(10YR3/4)	CP3％FP1％含む。黒色土とBPの混土。
2層	黒色土	(10YR2/1)	CP5％FP2％ローム粒1％含む。細砂。
3層	黒色土	(10YR1.7/1)	CP3％FP1％ローム粒3％含む。細砂。
4層	暗褐色土	(10YR3/3)	CP2％焼土粒1％炭化物粒1％含む。細砂。
5層	褐色土	(10YR4/4)	CP1％焼土粒1％炭化物粒1％含む。細砂。
6層	暗褐色土	(10YR3/3)	CP1％炭化物粒2％焼土粒1％ローム粒30％含む。細砂。やわらかいまだら状。
7層	黒褐色土	(10YR2/3)	ロームブロック20％炭化物粒2％含む。細砂。
8層	黒褐色土	(10YR2/3)	炭化物粒3％焼土粒1％ロームブロック30％含む。細砂。若干締まる。
9層	暗褐色土	(10YR3/4)	炭化物粒10％焼土粒3％含む。細砂。若干締まる。

P1～4

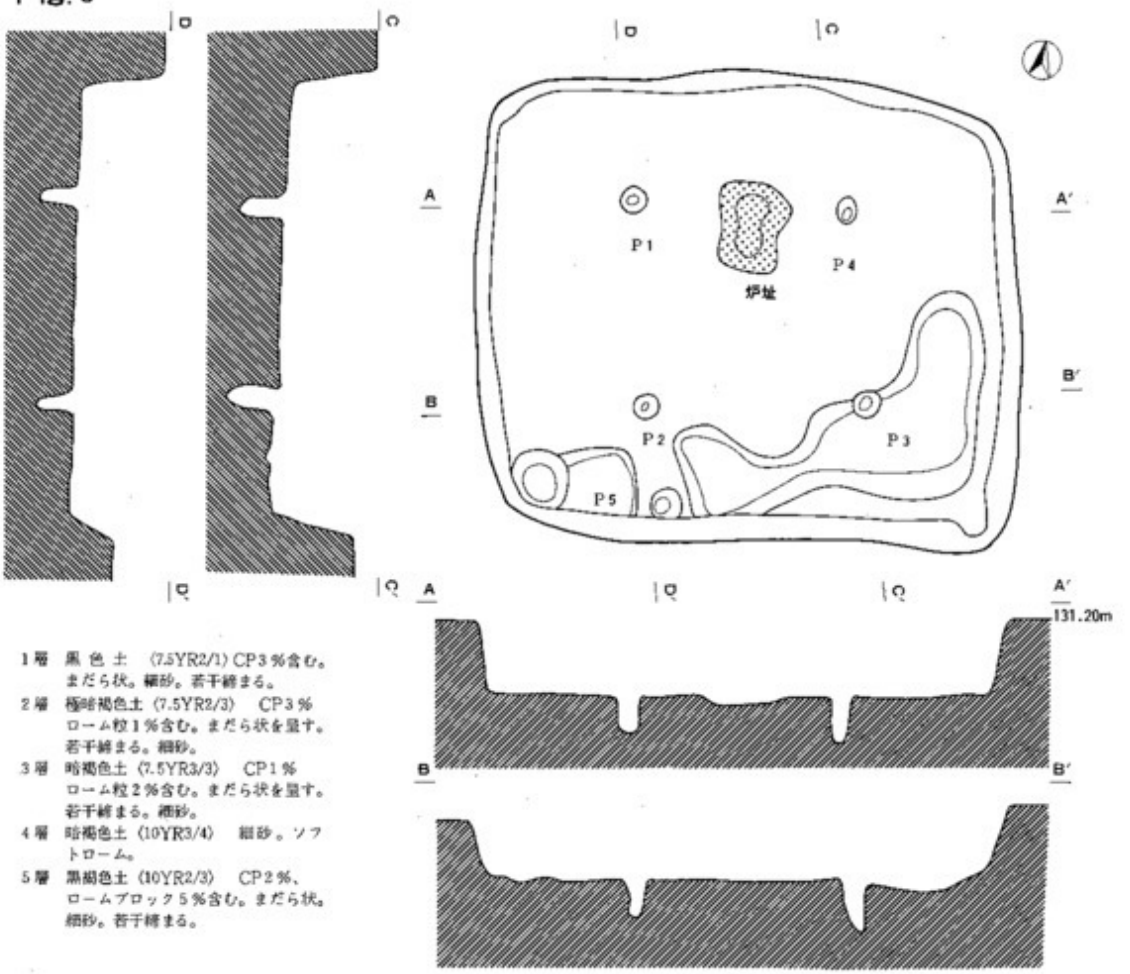
1層	暗褐色土	(10YR3/4)	軽石2％ローム粒5％含む。細砂。若干締まる。
2層	褐色土	(10YR4/6)	軽石1％ローム粒10％含む。細砂。締まりなくやわらかい。柱痕。
3層	黄褐色土	(10YR5/8)	細砂。二次的なローム。粘性を有す。

P5

1層	黒褐色土	(10YR2/2)	細砂。軽石3％焼土粒2％炭化物粒1％含む。締まりなくやわらかい。
2層	暗褐色土	(10YR3/3)	細砂。焼土粒3％軽石2％炭化物粒1％含む。締まりなくやわらかい。
3層	暗褐色土	(10YR3/3)	細砂。焼土粒5％軽石1％ローム粒3％炭化物粒1％含む。締まりなくやわらかい。
4層	黒褐色土	(10YR3/2)	細砂。炭化物粒2％焼土粒を2％軽石1％含む。締まりなくやわらかい。
5層	褐色土	(10YR4/4)	細砂。ローム粒30％軽石2％含む。締まりなくやわらかい。

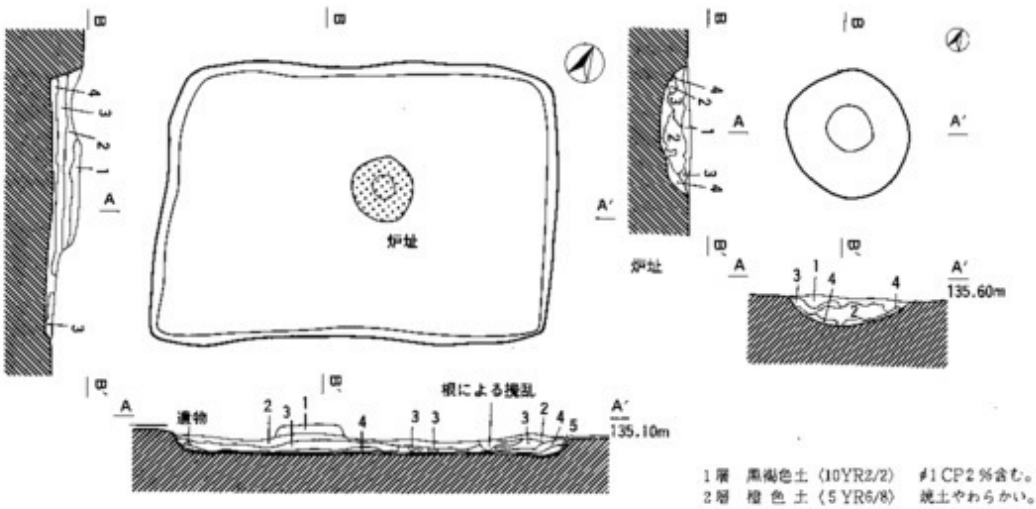
1．H—3号住居址

Fig. 3



1層　黒色土　(7.5YR2/1) CP3%含む。まだら状。細砂。若干締まる。
2層　極暗褐色土 (7.5YR2/3)　CP3%ローム粒1%含む。まだら状を呈す。若干締まる。細砂。
3層　暗褐色土 (7.5YR3/3)　CP1%ローム粒2%含む。まだら状を呈す。若干締まる。細砂。
4層　暗褐色土 (10YR3/4)　細砂。ソフトローム。
5層　黒褐色土 (10YR2/3)　CP2%、ロームブロック5%含む。まだら状。細砂。若干締まる。

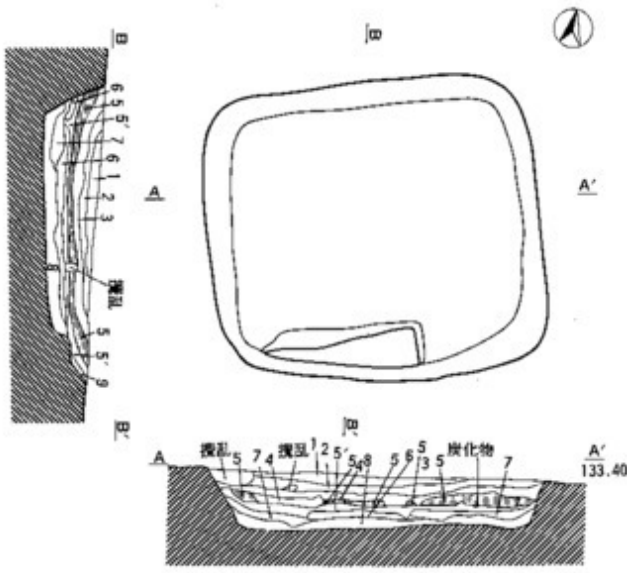
1. H－3号住居址掘り方



1層　黒褐色土 (10YR2/2)　φ1 CP2%含む。
2層　橙色土 (5YR6/8)　焼土やわらかい。
3層　橙色土 (5YR6/6)　焼土一層まじる。
4層　褐色土 (7.5YR4/4)　ソフトローム(砂質) 焼土がまじる。

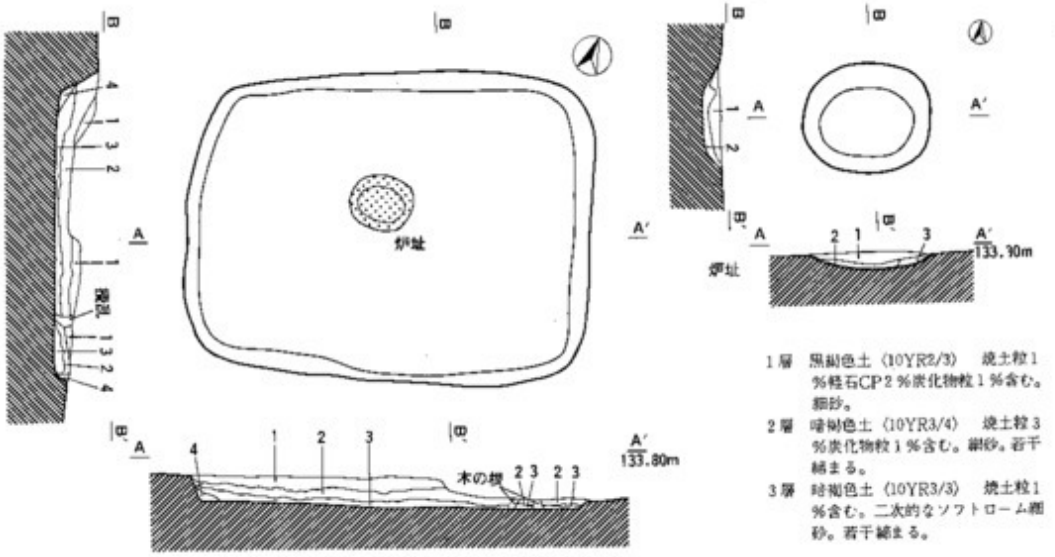
2. H－4号住居址

Fig. 4



1層　黒褐色土（10YR2/2）　CP3％ 炭化物粒2％ローム粒2％含む。細砂。
2層　黒褐色土（7.5YR2/2）　CP5％ 炭化物粒1％ローム粒1％含む。細砂。若干しまる。
3層　黒褐色土（7.5YR2/2）　CP10％ ローム粒3％含む。細砂。
4層　黒褐色土（10YR2/3）　CP5％ ローム粒5％炭化物粒1％含む。細砂。
5層　にぶい黄褐色土（10YR5/3）　プライマリーなCP純層。
5'層　黒褐色土（10YR2/2）　φ1－3CP 7％含む。細砂。
6層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒2％含む。細砂。軽石なし。
7層　暗褐色土（10YR3/3）　ソフトロームと6層混土。軽石なし。
8層　黒褐色土（10YR2/3）　φ10～50ローム粒20％含む。細砂。
9層　褐色土（10YR4/6）　ソフトロームφ1～3CP少量含む。

1．H－5号住居址

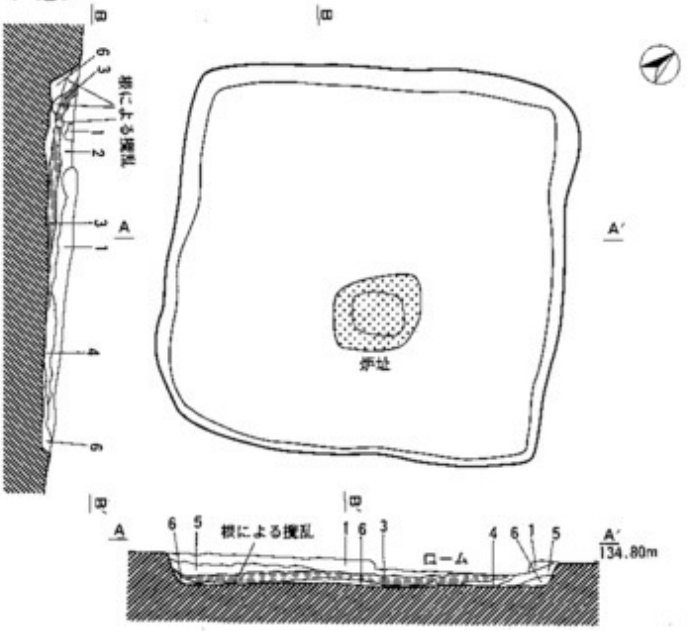


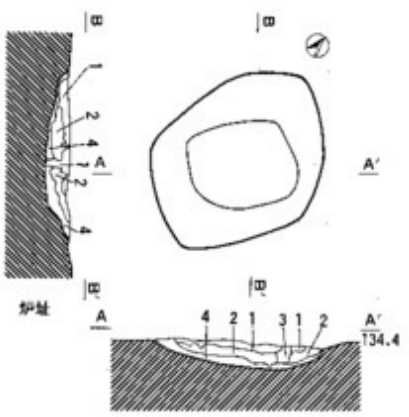
1層　黒褐色土（10YR2/3）　焼土粒1％軽石CP2％炭化物粒1％含む。細砂。
2層　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒3％炭化物粒1％含む。細砂。若干締まる。
3層　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒1％含む。二次的なソフトローム細砂。若干締まる。

1層　黒色土（7.5YR2/1）　二次的なCP10％ シルトブロック3％含む。細砂。若干締まる。
2層　黒色土（10YR2/1）　CP3％炭化物粒1％シルトブロック5％含む。細砂。若干締まる。
3層　黒褐色土（10YR2/2）　CP1％、炭化物粒1％、ロームブロック30％含む。細砂。
4層　暗褐色土（10YR3/3）　黒色土ブロック含む。二次的なローム。細砂。やわらかい。

2．H－6号住居址

Fig. 5

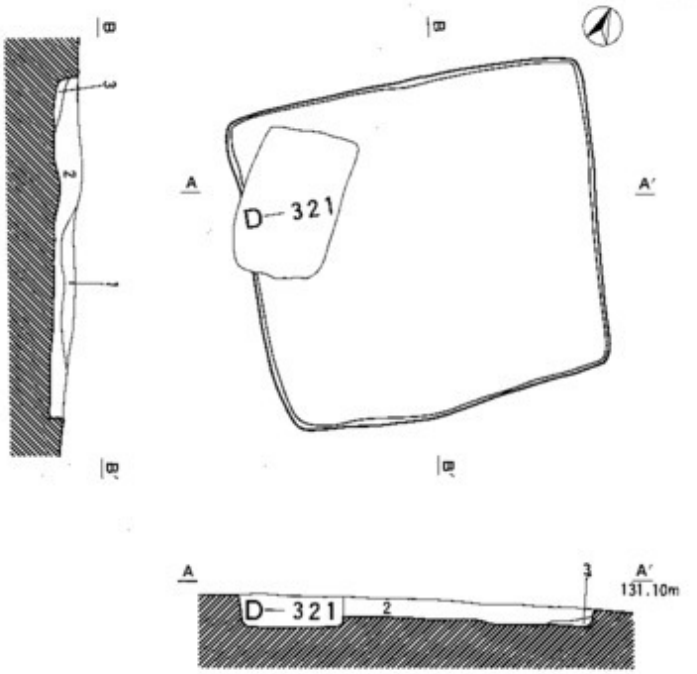




1層　黒褐色土（10YR2/2）　CP3％含む。細砂。
2層　橙色土（5YR6/8）　焼土。かたい。
3層　4＋2 φ5焼土ブロック3％。木の根による攪乱土。
4層　褐色土（7.5YR4/4）　砂質。ソフトローム。焼土含む。（均質）

1層　黒色土（10YR2/1）　CP3％炭化物粒1％含む。細砂。若干締まる。
2層　暗褐色土10YR3/4）
2層　暗褐色土（10YR3/4）　プライマリーなCP80％炭化物粒2％含む。粗砂。やわらかい。
3層　褐色土（10YR4/4）　純層に近いCP。部分的に黒色土ブロックを含む。粗砂。
4層　黒褐色土（7.5YR3/2）　CP2％炭化物粒1％ローム粒3％含む。細砂。
5層　黒褐色土（7.5YR2/2）　CP3％炭化物粒1％焼土粒1％含む。細砂。若干締まる。
6層　褐色土（10YR4/6）　ローム土。CP1％含む。細砂。若干締まる。

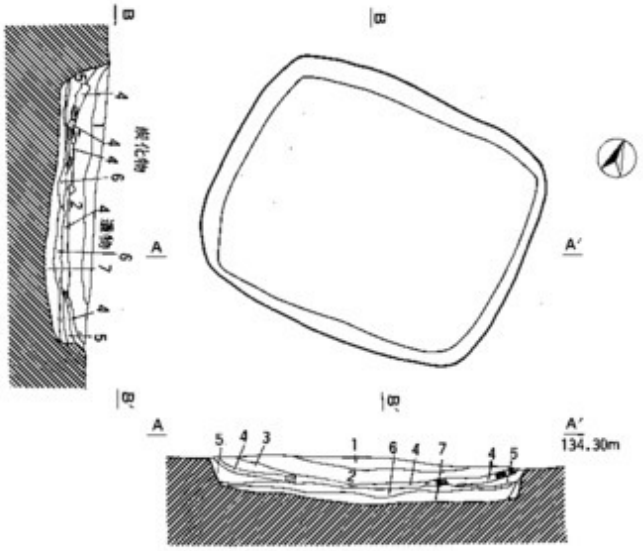
1．H－7号住居址



1層　黒褐色土（10YR2/2）　CP10％ローム粒2％含む。細砂。若干締まる。
2層　黒褐色土（10YR3/1）　CP30％ローム粒5％含む。細砂。若干締まる。
3層　暗褐色土（10YR3/3）　CP5％ローム粒1％含む。細砂。若干締まる。

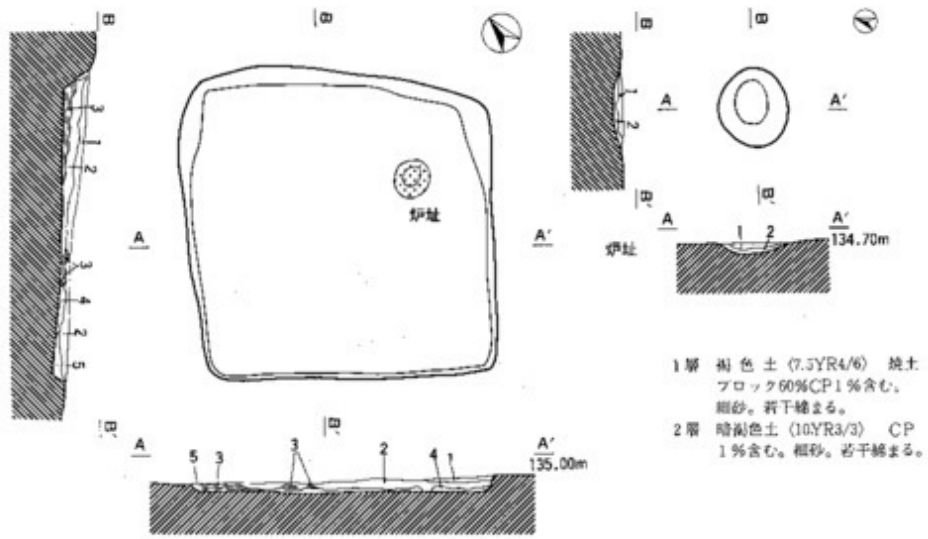
2．H－8号住居址

Fig. 6



1. H－9号住居址

1層　黒 色 土（10YR1.7/1）　CP3％炭化物粒1％含む。細砂。FPは入らない。
2層　黒 色 土（10YR2/1）　CP10％ローム粒2％、炭化物粒3％含む。細砂。
3層　黒褐色土（10YR2/3）　CP30％、炭化物粒1％ローム粒1％含む。細砂。
4層　黒褐色土（10YR3/2）　CP80％含む。部分的に純層有り。（スクリーントーン部）
5層　黒褐色土（10YR2/2）　ローム粒3％含む。細砂。若干粘性有り。軽石なし。
6層　暗褐色土（10YR3/3）　ソフトロームと5層の混土。粘性大。軽石なし。
7層　明黄褐色土（10YR6/8）　ローム粒。締まり有り。

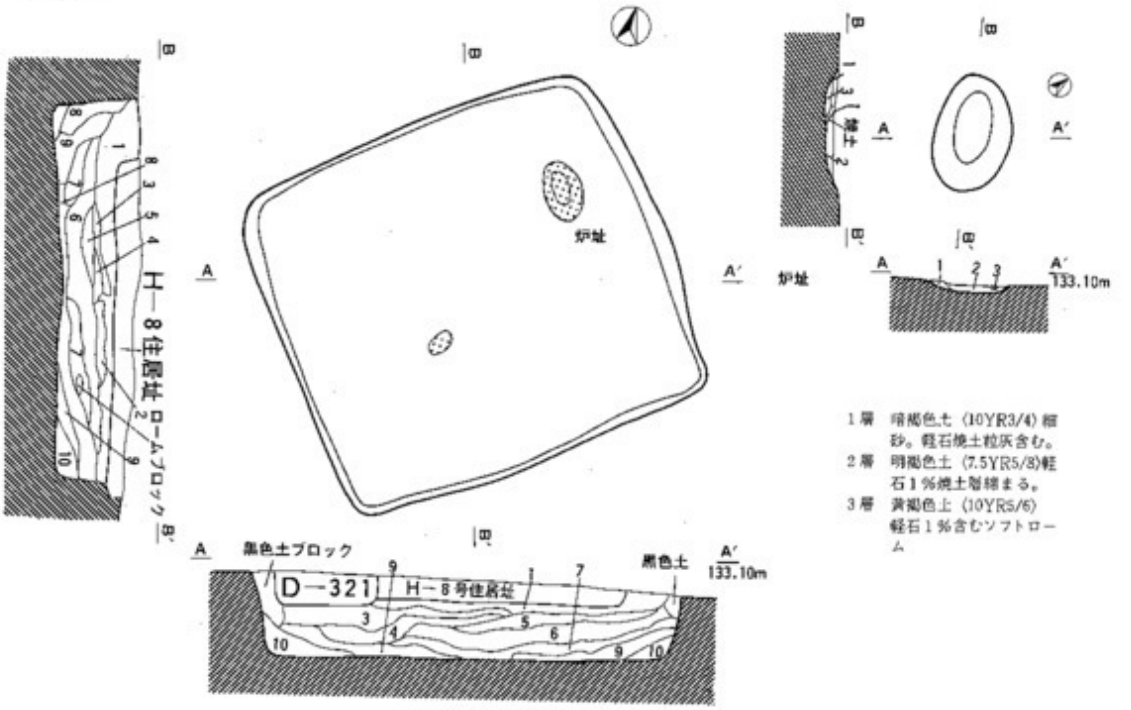


1層　褐 色 土（7.5YR4/6）　焼土ブロック60％CP1％含む。細砂。若干締まる。
2層　暗褐色土（10YR3/3）　CP1％含む。細砂。若干締まる。

1層　黒褐色土（7.5YR3/1）　CP2％ローム粒1％含む。細砂。若干締まる。
2層　黒褐色土（7.5YR2/2）　CP5％炭化物粒1％含む。細砂。若干締まる。
3層　褐 色 土（10YR4/4）　CP純層。粗砂部分的に木根状炭。
4層　暗褐色土（10YR3/4）　ソフトローム。CP1％炭化物粒1％含む。細砂。
5層　黒褐色土（7.5YR2/2）　CP1％炭化物粒1％含む。細砂。

2. H－10号住居址

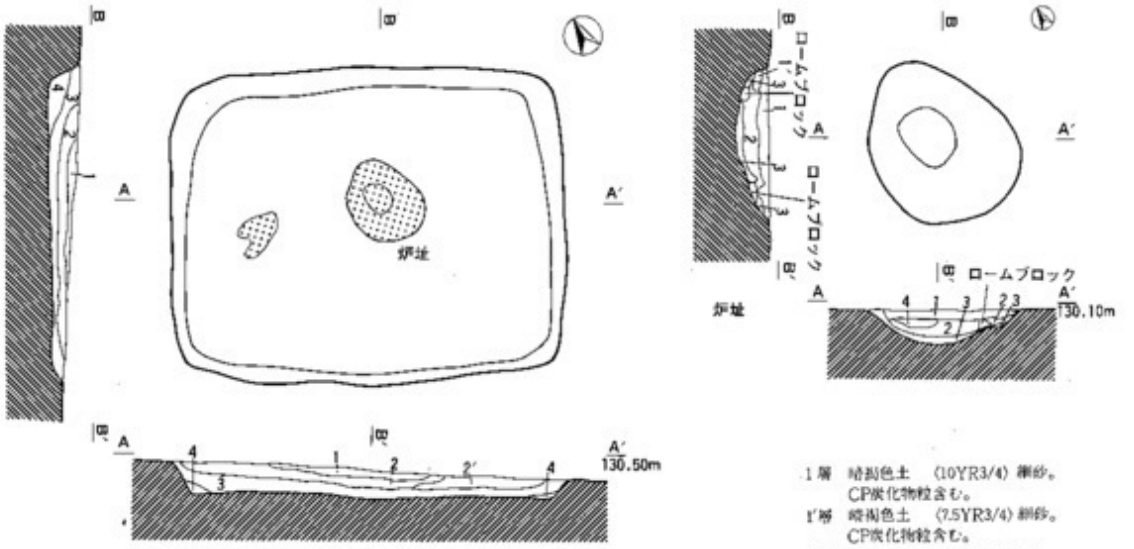
Fig. 7



1層 暗褐色土 (10YR3/4) 細砂。軽石焼土粒炭含む。
2層 明褐色土 (7.5YR5/8)軽石1%焼土粒縞まる。
3層 黄褐色土 (10YR5/6) 軽石1%含むソフトローム

1層 暗褐色土 (10YR3/3) 細砂。CP30%焼土粒2%含む。
2層 褐色土 (10YR4/4) 細砂。CP5%ローム粒60%含む。
3層 暗褐色土 (10YR3/3) 細砂。CP80%ローム粒含む。
4層 黒褐色土 (10YR2/3) 細砂。CP30%含む。
5層 黒褐色土 (10YR3/2) 細砂。CP10%ローム粒3%。
6層 黒褐色土 (10YR2/1) 細砂。CP10%ローム粒3%含む。
7層 黒褐色土 (10YR2/2) 細砂。CP2%ローム粒2%含む。
8層 黒褐色土 (10YR2/3) 細砂。CP3%ローム粒30%含む。
9層 黒色土 (10YR3/4) 細砂。CP3%ローム粒10%含む。
10層 暗褐色土 (10YR3/3) 細砂。CP5%ローム粒30%含む。
11層 暗褐色土 (10YR2/1) 細砂。CP2%ローム粒5%含む。

1. H—11号住居址

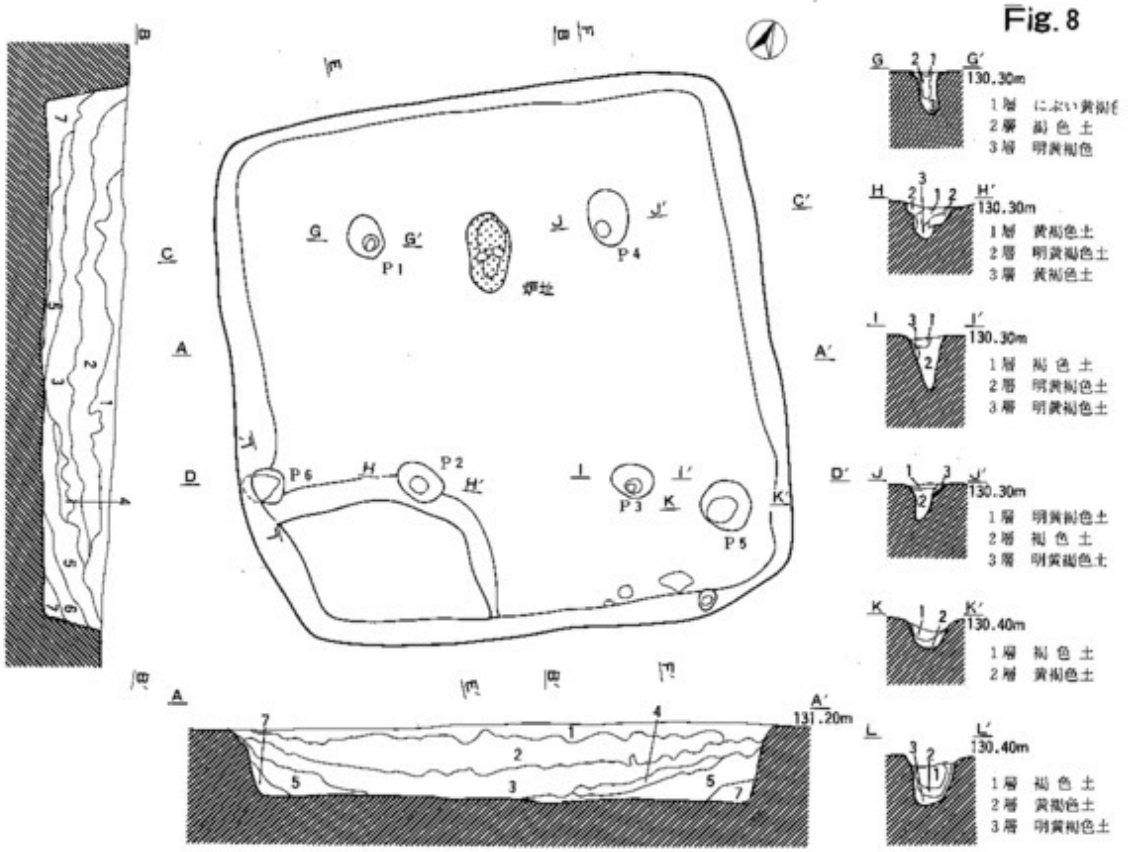


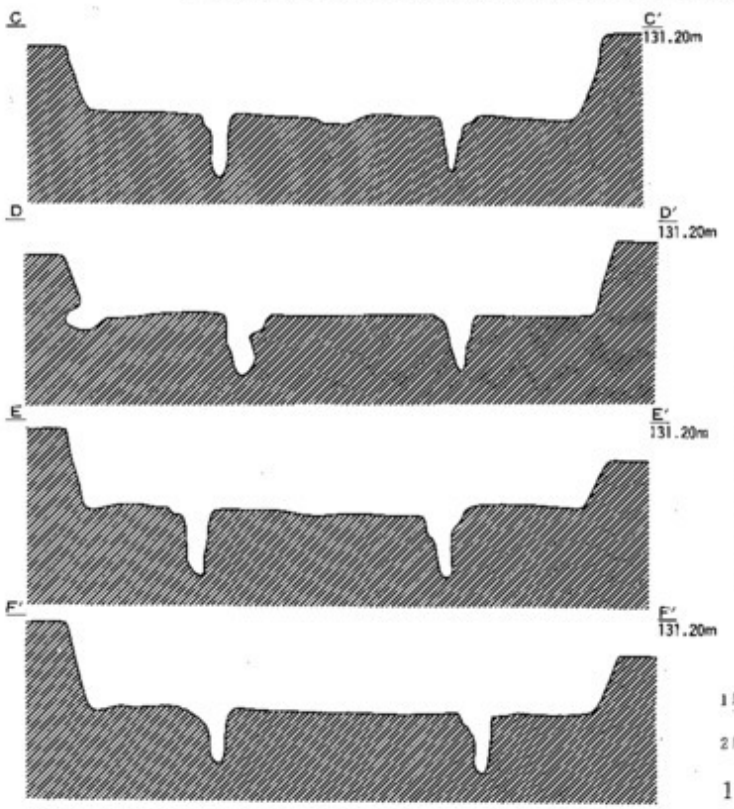
1層 黒褐色土 (10YR2/3) 細砂。CP3%ローム粒3%含む。
2層 暗褐色土 (10YR3/3) 細砂。CP5%ローム粒焼土粒炭化物粒含む。
2′層 黒褐色土 (10YR2/3) 細砂。CP5%ローム粒2%焼土粒1%含む。
3層 黒褐色土 (10YR2/3) 細砂。CP5%ローム粒焼土粒炭化物粒含む。
4層 黒褐色土 (7.5YR2/2) 細砂。CP2%炭化物粒5%焼土粒1%含む。

1層 暗褐色土 (10YR3/4) 細砂。CP炭化物粒含む。
1′層 暗褐色土 (7.5YR3/4) 細砂。CP炭化物粒含む。
2層 褐色土 (7.5YR4/6) 細砂。焼土層。炭化物粒含む。
3層 褐色土 (10YR4/4) 二次的なソフトローム。
4層 褐色土 (7.5YR4/6) 細砂。CP炭化物粒含む。

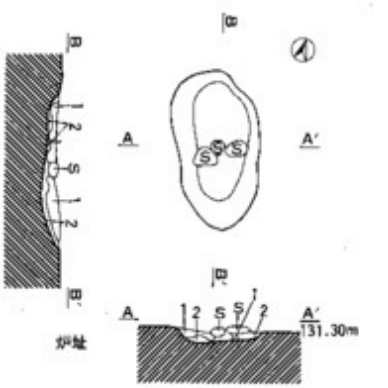
2. H—12号住居址

Fig. 8





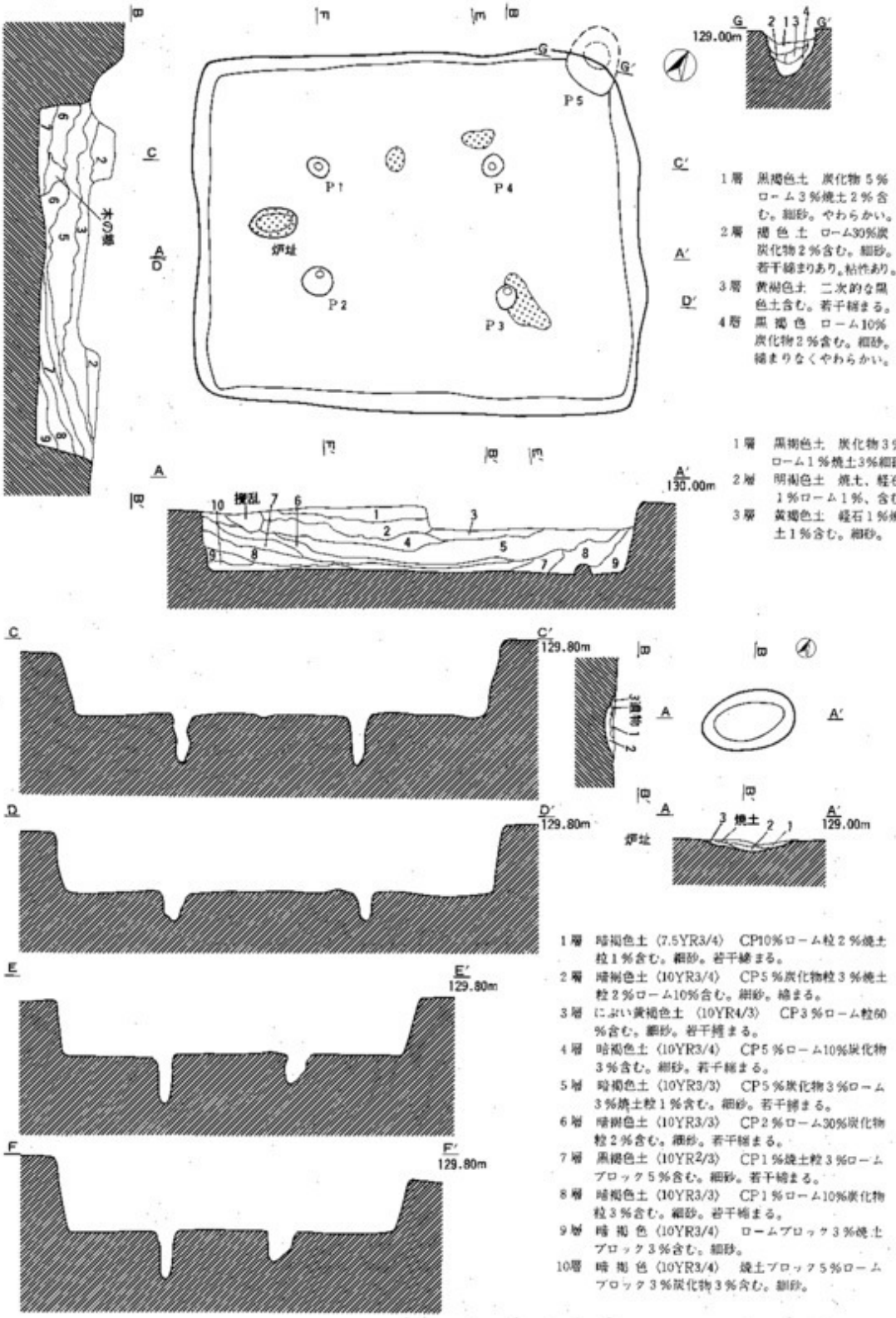
1層 黒褐色土 (10YR2/2) 細砂。CP2%
2層 赤黒色土 (2.5YR1 7/1) 細砂。CP3%
3層 褐色土 (10YR4/4) 細砂。CP2% ソフトロームを含む。
4層 黄橙色土 (10YR7/8) ローム混りの細砂。
5層 黄褐色土 (10YR5/6) 細砂。ソフトローム。軽石混入せず。
6層 黒褐色土 (10YR3/2) 焼土ブロック混りの細砂。
7層 黄褐色土 (10YR5/6) ローム混りの細砂。



1層 褐色土 (10YR4/4) 細砂。軽石2%焼土粒2%含む。若干締まる。
2層 明褐色土 (7.5YR5/8) 焼土。固く締まる。

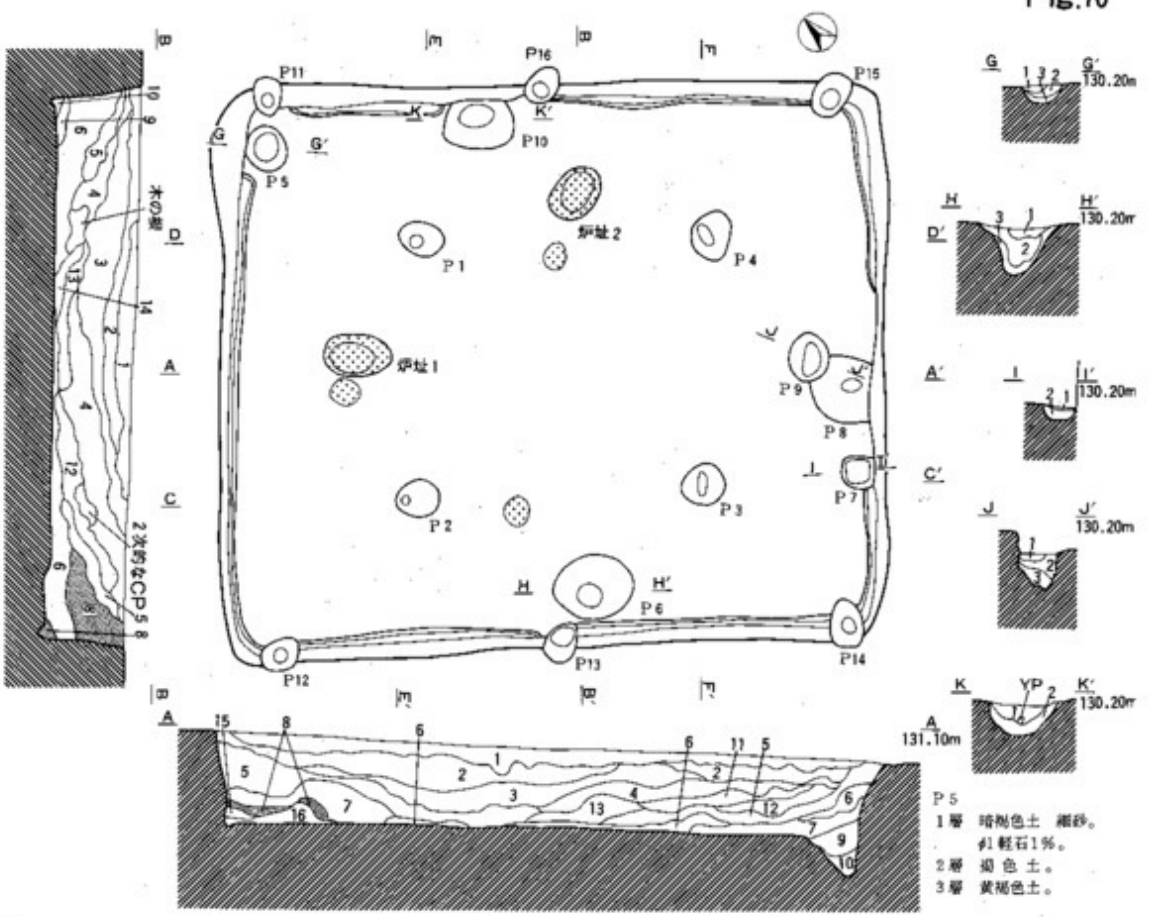
1. H—13号住居址

Fig. 9



1. H−14号住居址

Fig.10



P5
1層 暗褐色土 細砂。
φ1軽石1%。
2層 褐色土。
3層 黄褐色土。

P6
1層 黄褐色土 ハードローム粒。
2層 ハードローム粒と1層の混土。
3層 ロームと同色土。

P7
1層 黄褐色土 ソフトローム。
2層 明黄褐色土 ハードローム。

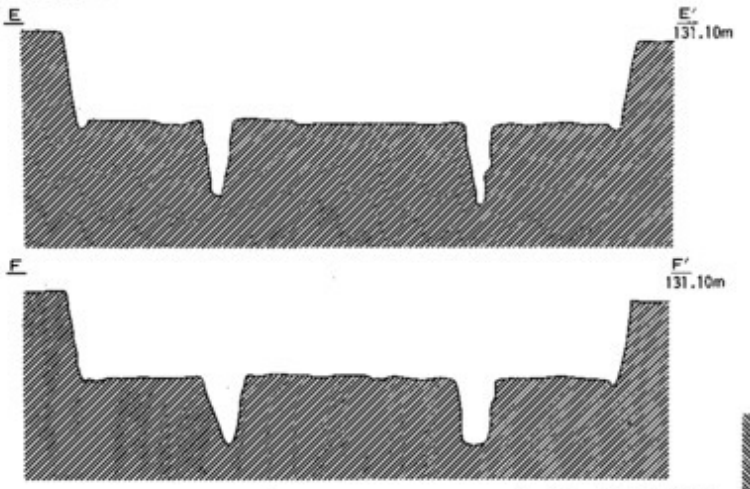
P9
1層 褐色土 細砂。ソフトローム。
2層 褐色土 ソフトローム。
3層 明黄褐色土 ローム土。

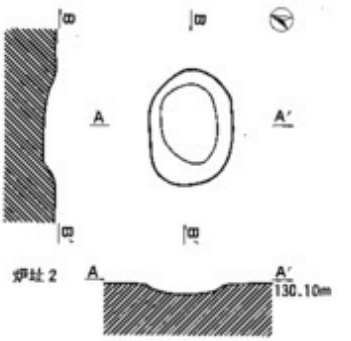
P10
1層 黒褐色土 細砂。締まりあり。
2層 黄褐色土 ソフトローム。YP。

1層 黒褐色土(10YR2/3) CP5%炭化物粒2%ローム粒10%混入。細砂。
2層 暗褐色土(10YR3/3) CP10%炭化物粒1%ローム粒30%混入。細砂。
3層 褐色土(10YR4/4) CP5%炭化物粒5%ローム粒30%混入。細砂。
4層 暗褐色土(10YR3/3) CP10%炭化物粒1%ローム粒30%混入。細砂。
5層 褐色土(10YR4/6) CP3%炭化物粒2%ローム粒3%混入。細砂。
6層 黒褐色土(10YR3/2) CP30%ローム粒10%混入。やわらかい。
7層 褐色土(10YR4/4) CP3%炭化物粒1%ローム粒80%混入。細砂。
8層 CP純層
9層 暗褐色土(10YR3/3) CP3%炭化物粒2%ローム粒5%混入。きわめてやわらかい。
10層 黄褐色土(10YR5/8) セカンダリーロームCP1%含む。細砂。
11層 黒褐色土(10YR2/3) CP5%炭化物粒2%ローム粒10%混入。細砂。
12層 黒褐色土(10YR2/3) CP2%炭化物粒2%ローム粒30%焼土粒1%混入。細砂。
13層 暗褐色土(10YR3/4) CP5%炭化物粒2%ローム粒2%混入。きわめてやわらかい。
14層 暗褐色土(10YR3/3) CP30%ローム粒2%混入。細砂。きわめてやわらかい。
15層 暗褐色土(10YR3/4) CP60%炭化物粒2%ローム粒5%混入。粗砂。
16層 黒褐色土(10YR2/3) CP30%炭化物粒2%ローム粒5%混入。粗砂。

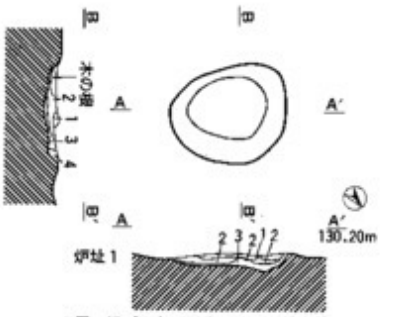
1. H—15号住居址

Fig.11





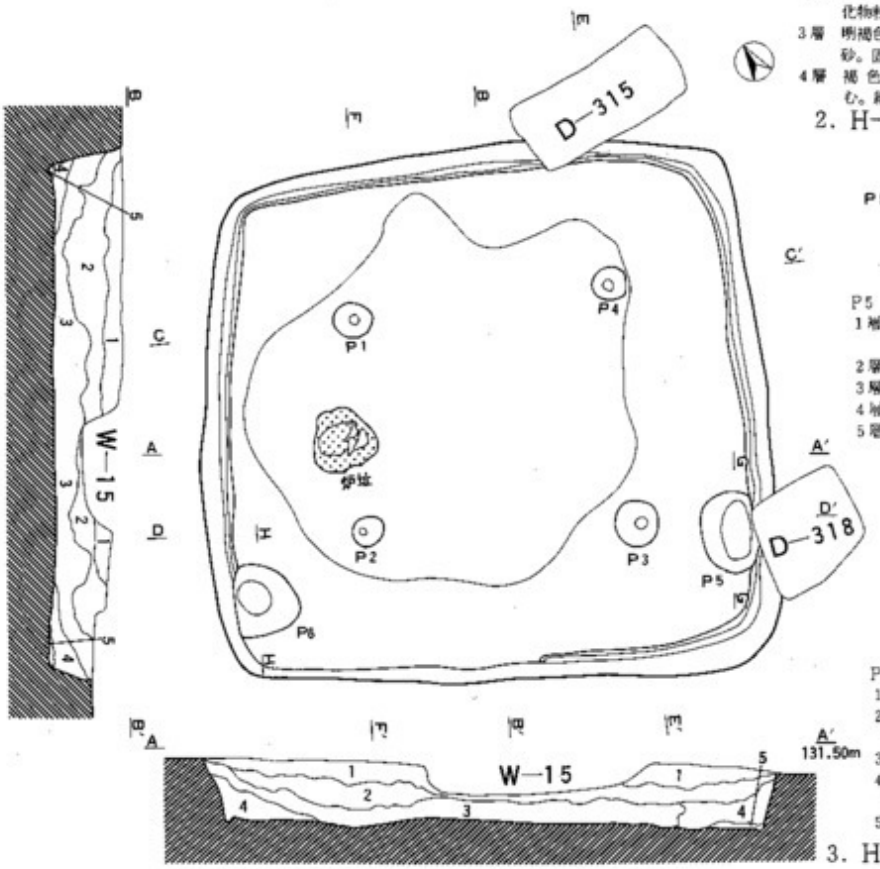
1．H—15号住居址

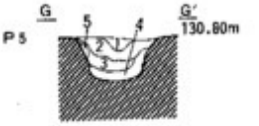


1層　黒褐色土（7.5YR2/1）　φ1～3CP2％φ4～20、FP少量含む。細砂。
2層　褐色土（10YR4/6）　φ1～3CP1％含む。締まりあり。細砂。
3層　褐色土（10YR4/6）　φ10～30、ローム粒10％含む。軽石ごく少量、締まりあり。
4層　暗褐色土（10YR3/3）　φ1CP1％含む。締まりあり。
5層　黄褐色土（10YR5/8）　ローム粒、締まりあり、粘性あり。

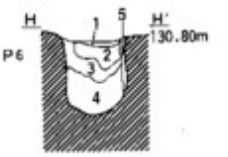
1層　褐色土　細砂、CP10％焼土粒3％含む。若干締まる。
2層　褐色土　CP3％焼土粒1％炭化物粒5％含む。細砂。
3層　明褐色土　焼土CP3％含む。細砂。固く締まる。
4層　褐色土　CP1％焼土粒1％含む。細砂。若干締まる。

2．H—15号住居址炉址





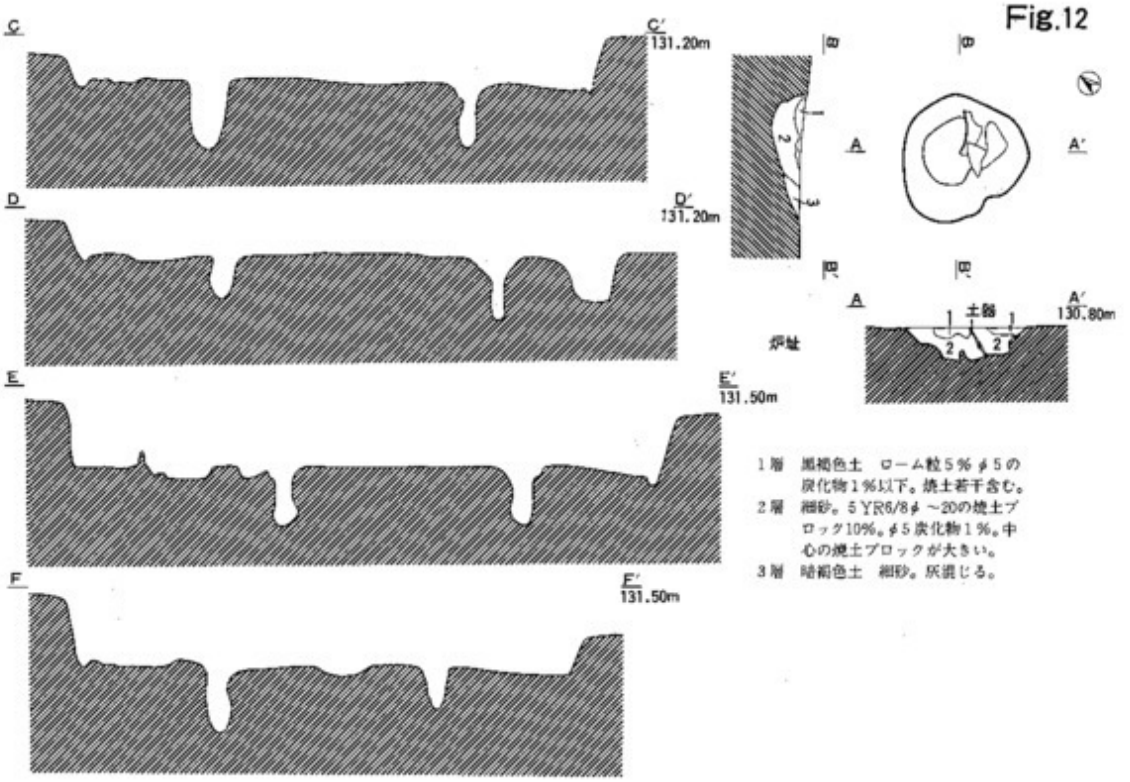
P5
1層　暗褐色土　φ0.5軽石1％を含む。締まりあり。
2層　黒褐色土　締まりなし。
3層　褐色土　φ1軽石含む。
4層　褐色土　ハードローム。
5層　明黄褐色土　YP少量。



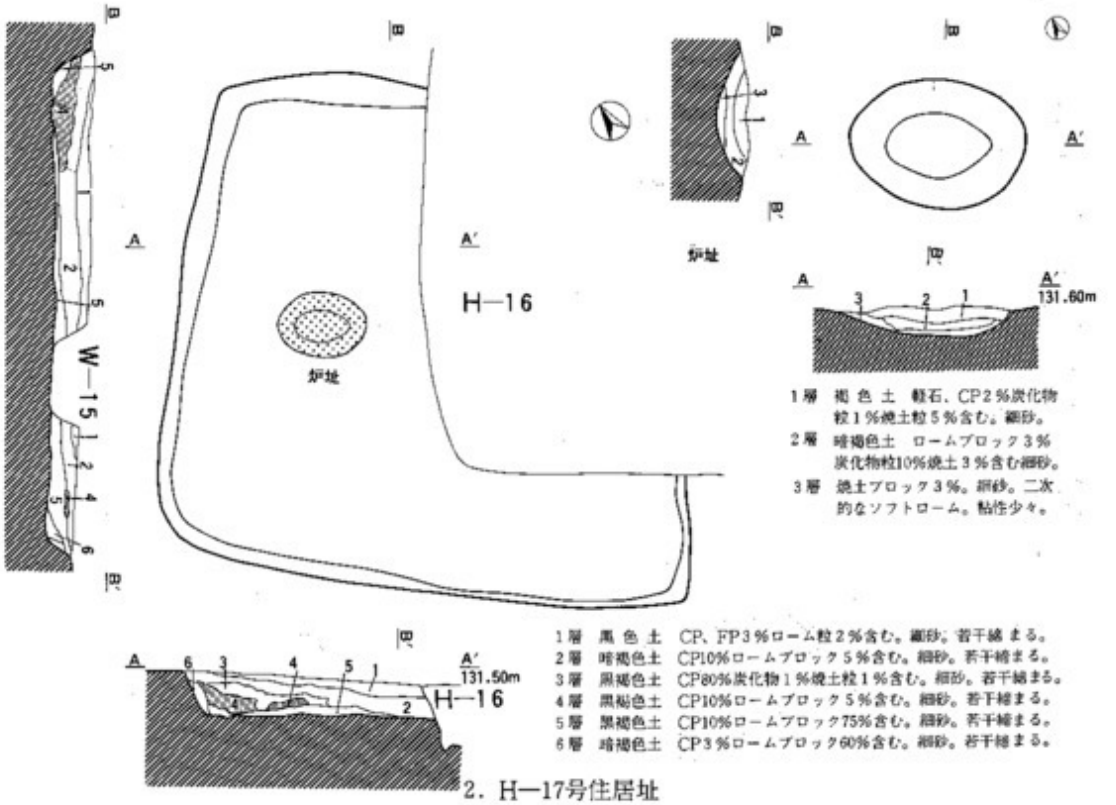
P6
1層　P5の1層と同じ。
2層　黒褐色土　細砂。やわらく締まりあり。
3層　暗褐色土　細砂。
4層　黒褐色土　細砂。φ1ローム1％含む。締まりなし。
5層　黄色土　細砂。

3．H—16号住居址

Fig.12

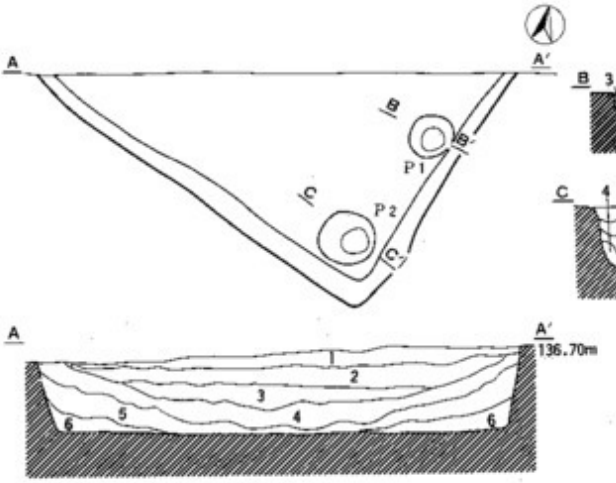


1．H—16号住居址



2．H—17号住居址

Fig.13

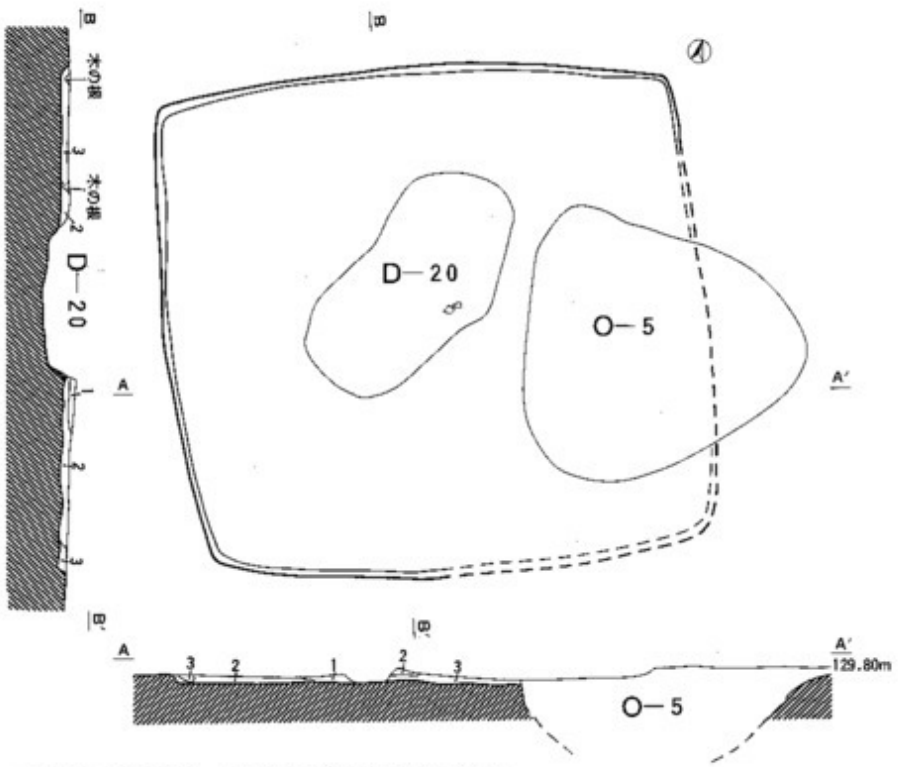


1層　褐色土　ローム粒2%。細砂。若干締まる。
2層　暗褐色土　ローム粒5%。細砂。若干締まる。
3層　黄褐色土　二次的なローム。細砂。若干締まる。粘性有り。

1層　暗褐色土　軽石1%ローム粒2%。細砂。
2層　暗褐色土　軽石3%ローム粒3%。細砂。
3層　褐色土　軽石1%ローム粒10%。細砂。
4層　黄褐色土　軽石1%含む。二次的なソフトローム。やわらかく締まりなし。粘性有り。

1層　にぶい黄褐色土〈10YR5/3〉粗砂多量。砂質で固い。締まり有り。
2層　暗褐色土〈10YR2/3〉CP3% φ30位のFPごく少量。やや固め。締まり有り。
3層　黒褐色土〈10YR2/3〉φ1～5CP5% φ10～20FP1%以上。やや、やわらかい(弾力性有り)。細砂。締まり有り。
4層　黒褐色土〈10YR2/2〉φ1～5CP7%。やや、やわらかい(弾力性有り)。細砂。締まり有り。粘性やや有り。
5層　暗褐色土〈10YR3/4〉φ1～10CP1% φ2～20ローム粒1%。4層にローム混じる。やや、やわらかい(弾力性有り)。粘性やや有り。
6層　黄褐色土〈10YR5/8〉ソフトローム。粘性やや有り。

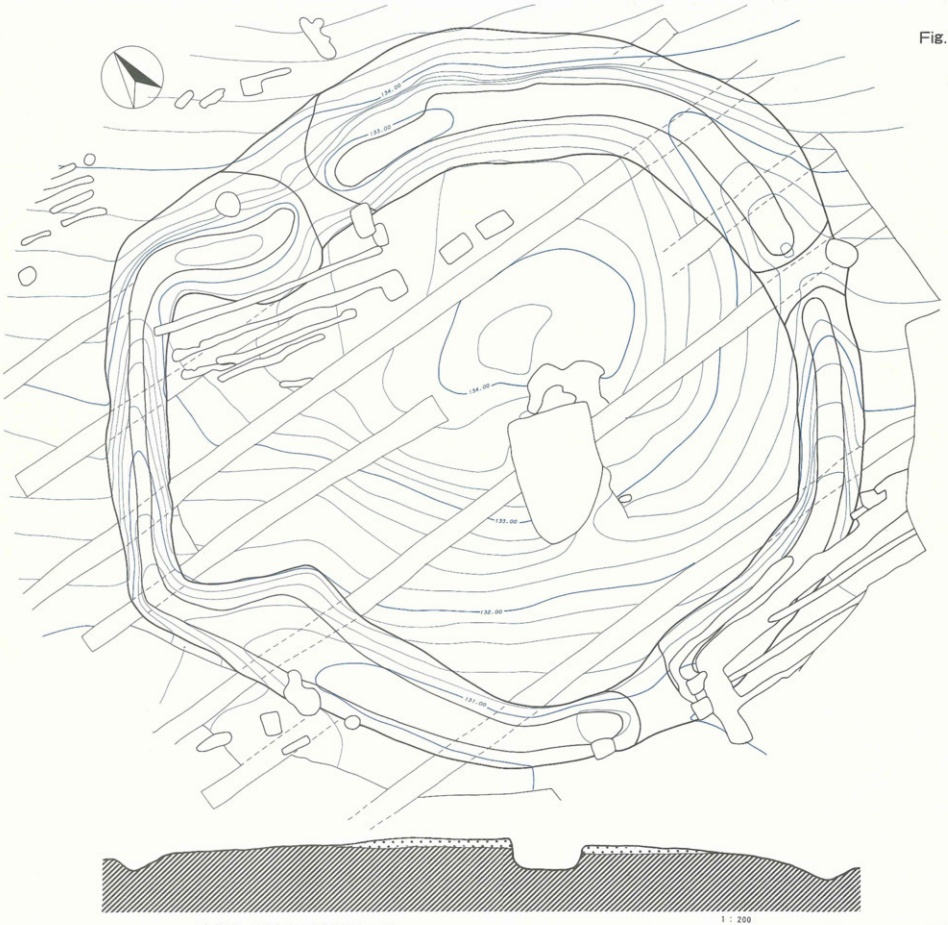
1.H—18号住居址



1層　黒色土〈10YR2/1〉　軽石。CP、FP3%含む。細砂。粘性大。
2層　黒褐色土〈10YR2/3〉　軽石。CP、FP1%ローム粒1%含む。細砂。粘性大。
3層　暗褐色土〈10YR3/4〉　軽石。CP、FP5%ローム粒3%含む。細砂。粘性大。

2.H—19号住居址

Fig.14

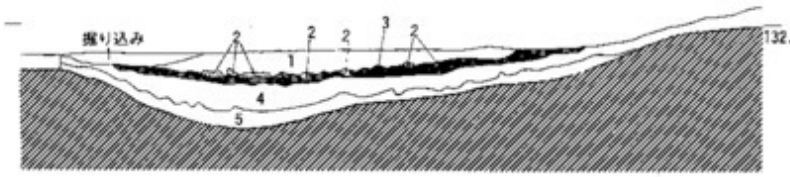


内堀M－1号墳平面図.断面図(1/200)

1：200

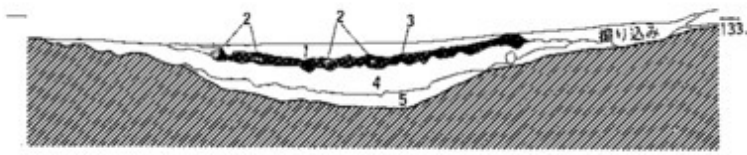
0　5　10　15　20m

Fig.15



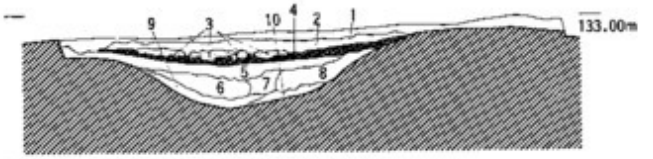
1層　黒褐色土（10YR2/2）　粗砂。ローリングされたBP60%含む。締まりなくやわらかい。
2層　暗赤褐色土（5YR3/2）　BPアッシュ純層。
3層　黒褐色土（2.5YR3/2）　BP純層。
4層　黒色土（10YR1.7/1）　φ2CP、φ5～1のFP3%含む。若干締まり粘性有り。部分的にロームブロック含む。
5層　暗褐色土（10YR3/4）　ロームブロック30%まだら状に含む。細砂。粘性大。

くびれ部南



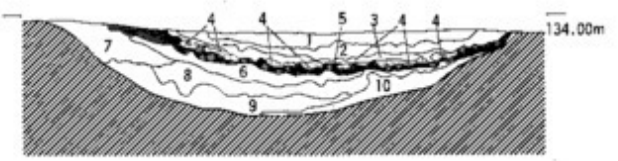
1層　黒褐色土（10YR2/2）　細砂。ローリングされたBP60%含む。締まりなくやわらかい。
2層　暗赤褐色土（5YR3/2）　BPアッシュ純層。
3層　黒褐色土（2.5YR3/2）　BP純層。
4層　黒色土（10Y1.7/1）　φ2CP、φ5～1のFP3%含む。粘性有り。
5層　暗褐色土（10YR3/4）　ロームブロック30%まだら状に含む。

東部



1層　黒褐色土　粗砂。締まりなくやわらかい。
2層　東部の1層と同じ。
3層　東部の2層と同じ。
4層　東部の3層と同じ。
5層　暗赤褐色土　BPアッシュ純層。
6層　東部の4層と同じ。
7層　黒褐色土　BP純層
8層　黒色土　CP、FP3%含む。
9層　暗褐色土　細砂。粘性大。
10層　東部の5層と同じ。

前方部主軸



1層　黒色土（10YR2/1）　二次的なBP。
2層　黒褐色土（10YR3/1）　二次的なBP。
3層　黒褐色土（2.5Y 3/2）　BP純層。
4層　Bアッシュ純層。
5層　Bスコリア純層。
6層　黒褐色土（10YR3/1）　CP.FP3%。
7層　褐色土（10YR4/4）　地山の流れ込み。
8層　黒色土（10YR11/1）φ2CP、φ5～1のFP3%含む。
9層　黒色土（2.5Y2/1）　ロームブロックをまだら状に含む。粘性強い。
10層　暗褐色土（10YR3/4）　ロームブロック30%まだら状に含む。細砂。粘性大。水溜りの痕跡はない。

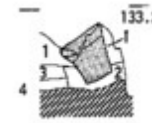
北部

1．M－1号墳周溝地断（1/80）

円筒埴輪1

1層　黒色土　細砂。
2層　黒褐色土　細砂。

円筒埴輪2

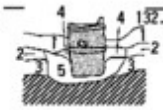


1層　黒色土　細砂。
2層　暗褐色土　細砂。
3層　黒色土　細砂。地山。
4層　黒褐色土　ソフトローム。

円筒埴輪3

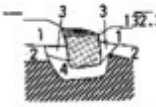
1層　黒褐色土　細砂。
2層　黒褐色土　細砂。

円筒埴輪4



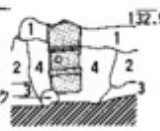
1層　黒褐色土　細砂。
2層　黒褐色土　細砂。
3層　暗褐色土ソフトローム。
4層　黒褐色土　細砂。
5層　黒褐色土　細砂。

円筒埴輪5



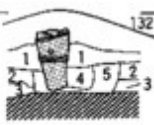
1層と2層は埴輪4に同じ。
3層　黒褐色土　細砂。
4層　暗褐色土　細砂。

円筒埴輪6



1層　黒褐色土　細砂。
2層　黒褐色土　細砂。
3層　暗褐色土　細砂。
4層　黒褐色土　細砂。

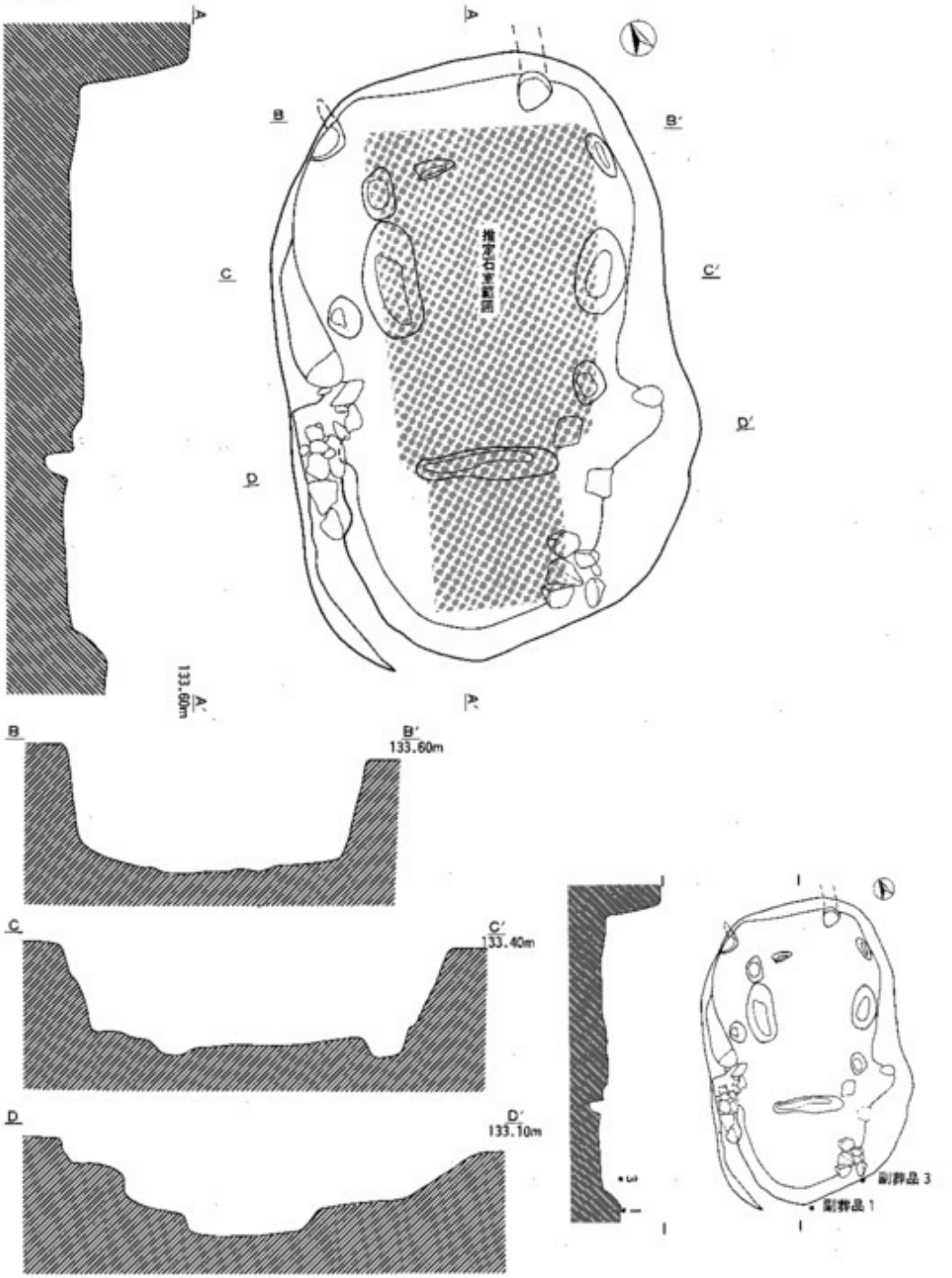
円筒埴輪7



1層　暗褐色土　細砂。
2層　黒褐色土　細砂。
3層　暗褐色土　細砂。
4層　暗褐色土　細砂。
5層　黒褐色土　細砂。

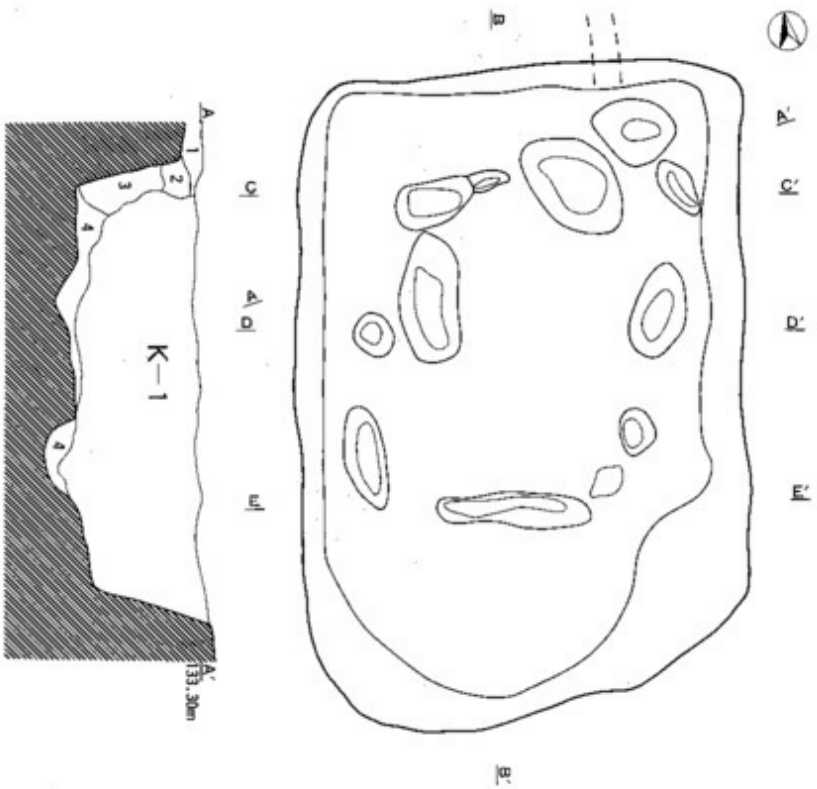
2．M－1号墳埴輪出土状況（1/80）

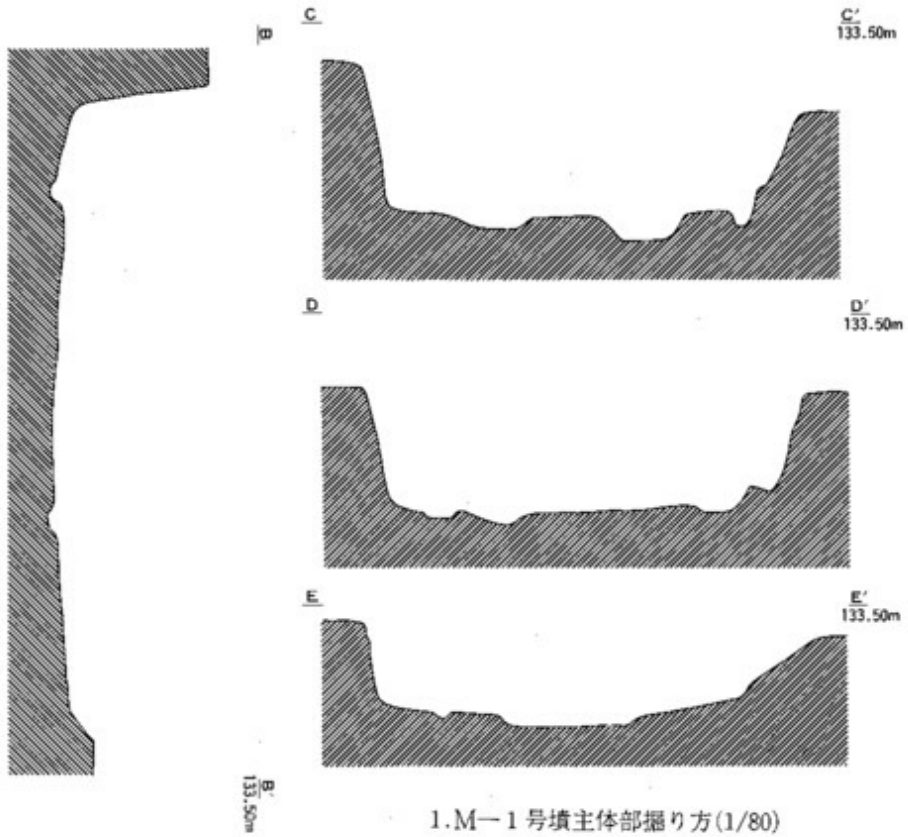
Fig.16



1.M－1号墳主体部及び遺物分布図(1/80)(1/160)

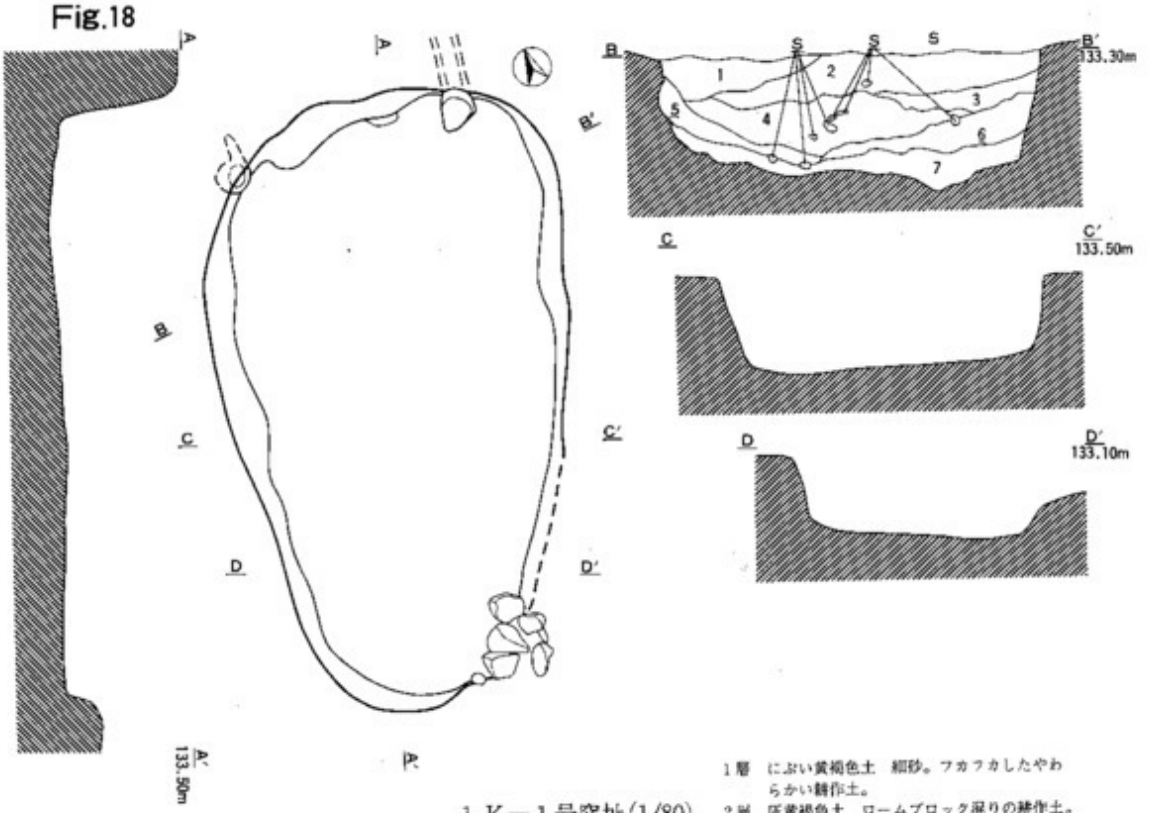
Fig.17





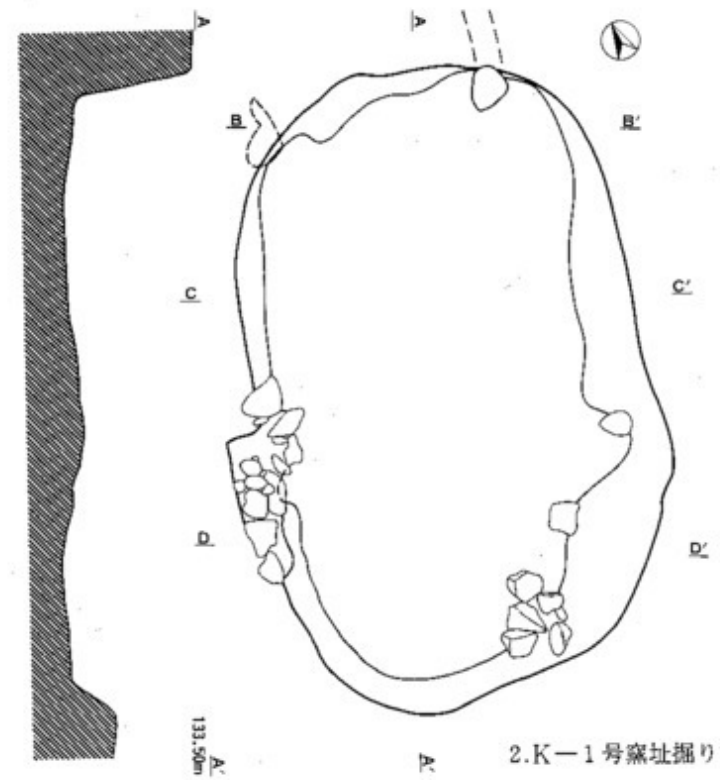
1.M—1号墳主体部掘り方(1/80)

Fig.18



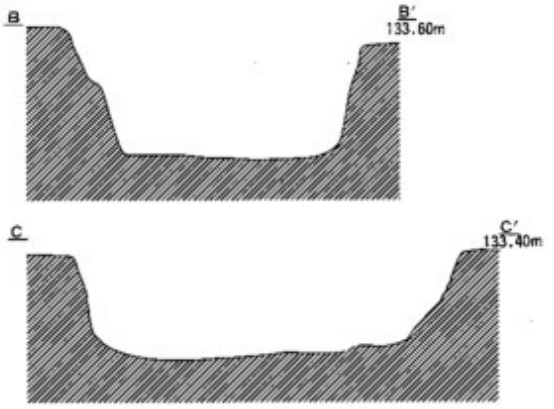
1.K－1号竪址(1/80)

1層　にぶい黄褐色土　細砂。フカフカしたやわらかい耕作土。
2層　灰黄褐色土　ロームブロック混りの耕作土。やわらかく締まりなし。
3層　オリーブ褐色土　ロームブロック混りの耕作土。やわらかい。
4層　にぶい黄褐色土　ロームブロックを多く混入する耕作土。やわらかい。
5層　暗灰黄色土　炭化物を多く含む耕作土。
6層　にぶい黄褐色土　フカフカしたやわらかい耕作土。
7層　黒褐色土　黒色土を基調とする耕作土。石を多く含む。

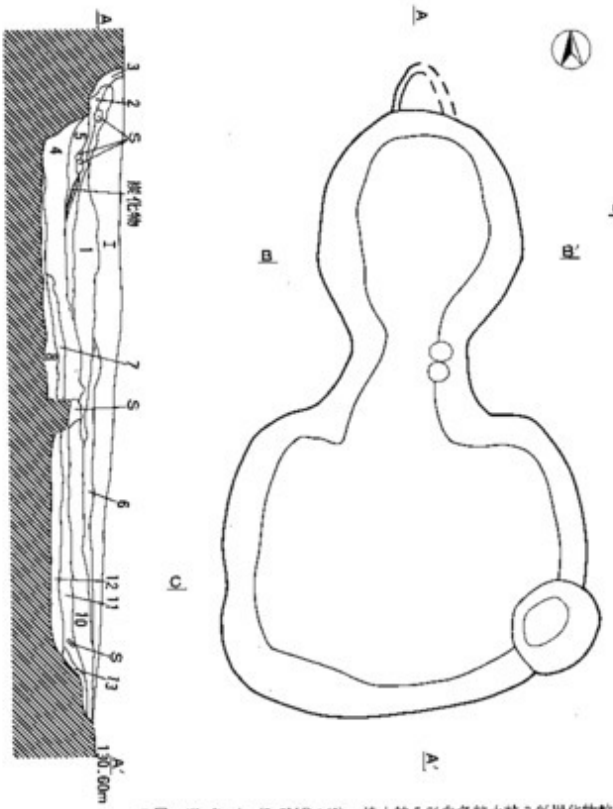


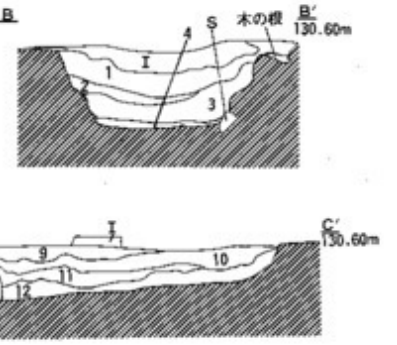
2.K－1号竪址掘り方(1/80)

Fig.19



1.K－1号窯址掘り方エレベーション(1/80)

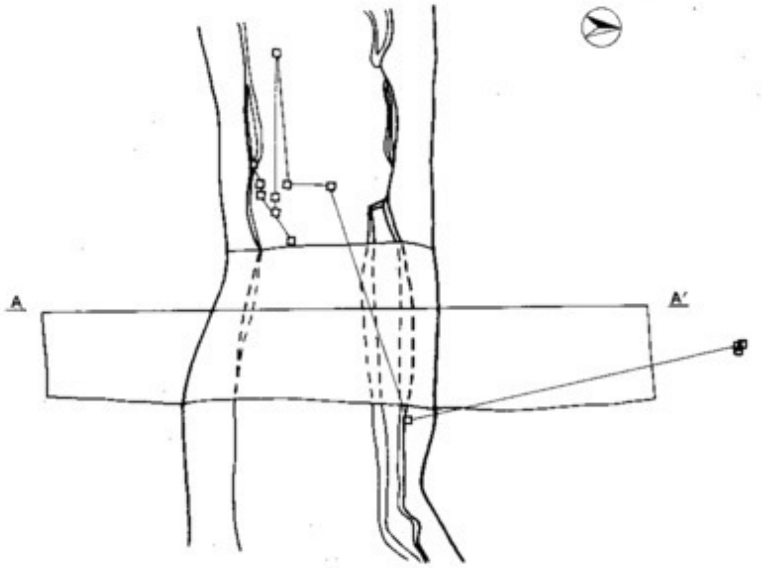


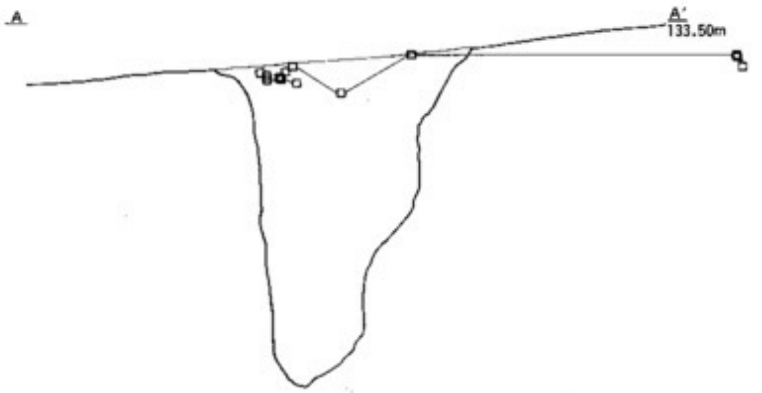


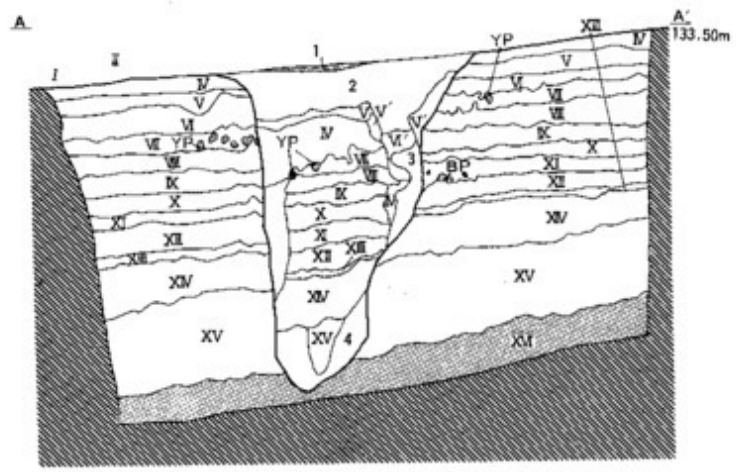
Ⅰ層　暗褐色土〈10YR3/4〉　耕作土。粘性なし。締まりなし。
1層　褐色土〈10YR4/6〉　焼土粒60%灰粒10%軽石3%白色粘土粒3%炭化物粒1%。細砂。
2層　暗褐色土〈7.5YR3/3〉　炭層。白色粘土粒10%土粒5%炭化物粒3%含む。
3層　黄灰色土〈2.5Y5/1〉　炭層。焼土粒と炭粒の混土。炭化物粒3%軽石1%含む。固く締まる。
4層　にぶい黄橙色土〈10YR6/4〉　細砂。白色粒土。80%粘土粒5%礫を含む。固く締まる。
5層　明黄褐色土〈10YR7/6〉焼けた白色粘土60%焼土粒20%灰粒5%軽石1%。天井部崩落層。
6層　褐色土〈7.5YR4/6〉　白色粘土粒5%含む灰層。下手にはラミナ5～6枚。
7層　褐色土〈7.5YR4/6〉　焼土粒5%白色粒土粒3%炭化物粒2%含む灰層。
8層　暗褐色土〈10YR3/3〉　細砂。焼土粒3%炭化物粒5%白色粘土粒5%含む。若干締まる。
9層　黒褐色土〈10YR2/2〉　細砂。FP1%焼土粒2%白色粘土粒5%炭化物粒60%含む。若干締まる。ラミナ状を呈す。
10層　褐色土〈7.5YR4/6〉　白色粘土粒30%焼土粒5%炭化物粒3%含む。細砂。締まりなくやわらかい。
11層　褐色土〈7.5YR4/4〉　白色粘土10%焼土粒5%炭化物粒3%含む。細砂。若干締まる。
12層　黒褐色土〈5YR2/1〉　細砂。灰粒3%炭化物粒5%ローム粒3%焼土粒1%含む。締まりなし。
13層　暗褐色土〈10YR3/4〉　細砂。焼土粒3%炭化物粒2%軽石3%灰5%含む。固く締まる。
14層　褐色土〈10YR4/4〉　細砂。焼土粒3%軽石2%炭化物粒1%含む。若干締まる。
15層　褐色土〈10YR4/6〉　細砂。焼土粒5%炭化物粒5%軽石1%含む。若干締まる。
16層　暗褐色土〈10YR3/4〉　細砂。焼土粒1%灰3%含む。締まりなくやわらかい。

2.K－2号窯址(1/80)

Fig.20

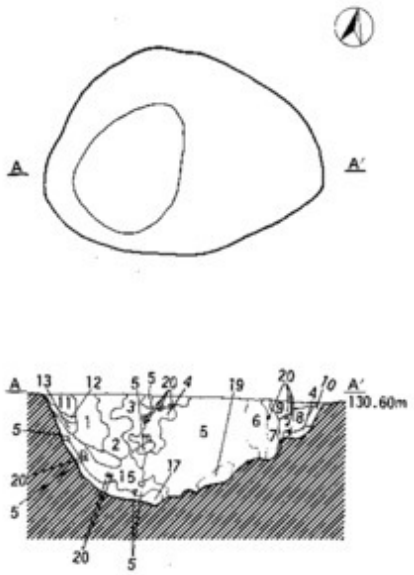






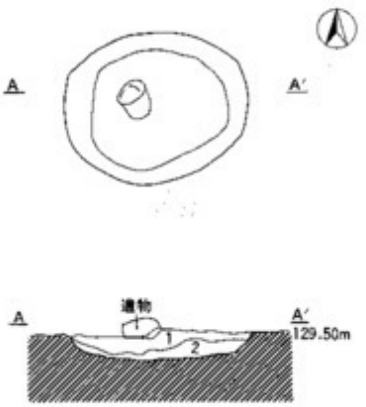
Ⅳ層　黒 色 土〈7.5YR2/1〉　CF 3％含む。若干締まる。
Ⅴ層　暗褐色土〈10YR3/4〉　軽石1％含む。細砂。
Ⅵ層　褐 色 土〈7.5YR4/4〉　軽石1％含む。細砂。ソフトローム。
Ⅶ層　黄褐色土〈10YR5/8〉　YP1％含む。固く締まる。
Ⅷ層　明黄褐色土〈10YR6/8〉　粘性有り。固く締まる。細砂。
Ⅸ層　黄褐色土〈10YR5/8〉
Ⅹ層　褐 色 土〈10YR4/6〉　SPを含む。
Ⅺ層　黄褐色土〈10YR5/6〉　下部にBPブロックを含む。
Ⅻ層　褐 色 土〈10YR4/6〉　ロームブロック。
XIII層　にぶい黄褐色土〈10YR5/3〉 AT の最大層序。
XIV層　暗褐色土〈10YR3/3〉　暗色帯。
XV層　褐 色 土〈10YR4/6〉　HP粒子含む。
XVI層　明黄褐色土〈10YR6/8〉　HP純層。
Ⅴ'層　Ⅴ層の流れ込み土。
Ⅵ'層　Ⅵ層の流れ込み土。
Ⅶ'層　Ⅶ層の流れ込み土。
1層　灰赤色土〈2.5YR6/2〉　B軽石の純層。
2層　黒 色 土〈7.5YR2/1〉　CP.FP5％含む。若干締まる。
3層　暗褐色土〈10YR3/4〉　YP1％含む。
4層　黄褐色土〈10YR5/8〉　HP1％含む。

X－1号地割れ



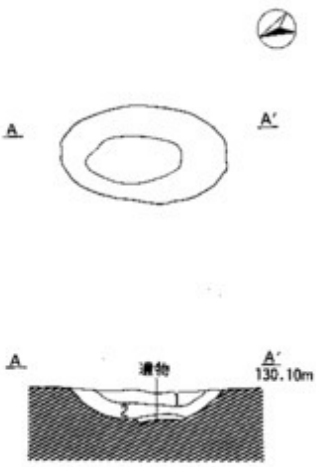
1.O－4号風倒木痕(1/80)

1層　暗褐色土〈10YR3/3〉　細砂。φ40程のしみ状。
2層　褐色土〈10Y4/6〉　細砂。φ40程のしみ状。
3層　黄褐色土〈10YR5/6〉　細砂。φ1軽石7%含む。
4層　明黄褐色土〈10YR6/6〉　細砂。締まりあり。
5層　明黄褐色土〈10YR6/8〉　ハードローム。
6層　明黄褐色土〈10YR6/8〉　5よりやや締まりなし。
7層　黄褐色土〈10YR5/6〉　8層と同じだが桑根の影響で変色。締まりややなし。
8層　褐色土〈10YR4/6〉　細砂。φ1軽石2%含む。
9層　暗褐色土〈10YR3/4〉　細砂。φ1軽石1%含む。
10層　褐色土〈10YR4/4〉　細砂。φ3軽石少々含む。
11層　にぶい黄褐色土〈10YR4/3〉細砂。φ1軽石1%以下含む。
12層　褐色土〈10YR4/6〉　細砂。φ1軽石1%含む。
13層　暗褐色土〈10YR3/4〉　細砂。φ1軽石1%φ5ローム粒ごくわずか含む。
14層　暗褐色土〈10YR3/3〉　細砂。φ1軽石少量含む。
15層　暗褐色土〈10YR3/4〉　細砂。ソフトロームと黒色土YPローム粒含む。
17層　明黄褐色土　〈10YR6/8〉ハードローム。
19層　黄褐色土〈10YR5/6〉　φ1～30ローム粒50%含む。
20層　YPブロック



1層　暗褐色土〈10YR3/4〉軽石2%炭化物粒1%ロームブロック5%混入する細砂。若干締まる。
2層　褐色土〈10YR4/4〉軽石1%ロームブロック5%混入する細砂。若干締まり粘性有り。

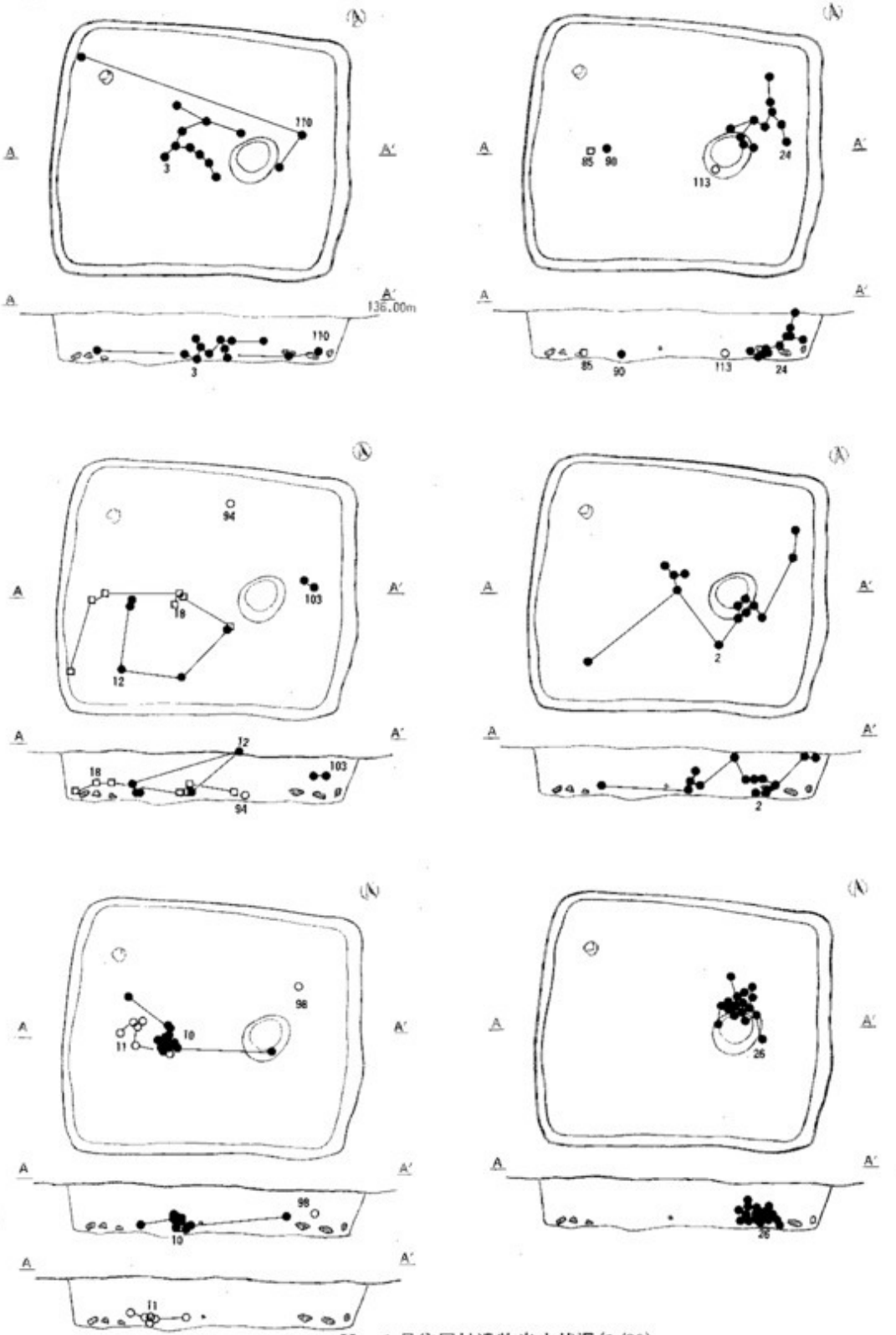
2.U－1(1/40)



1層　黒褐色土〈10YR2/3〉CP2%、ローム粒1%混入する細砂。若干締まる。
2層　暗褐色土〈10YR3/3〉CP3%混入する細砂。若干締まる。

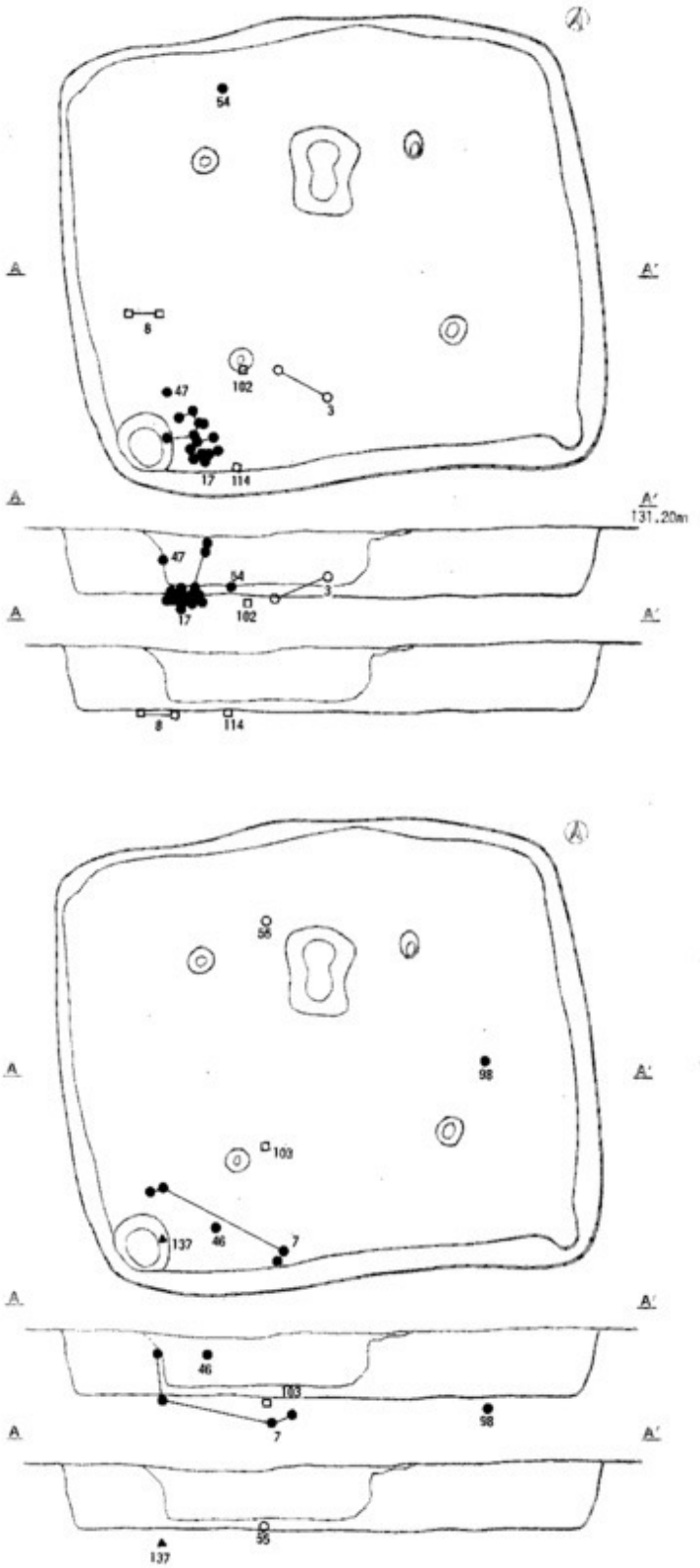
3.U－2(1/40)

Fig.22



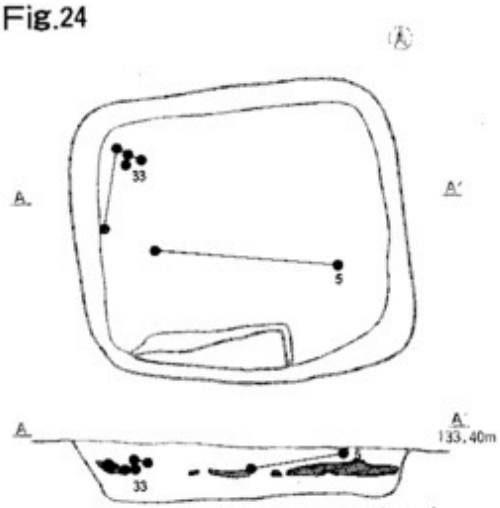
1．H－1号住居址遺物出土状況(1/80)

Fig.23

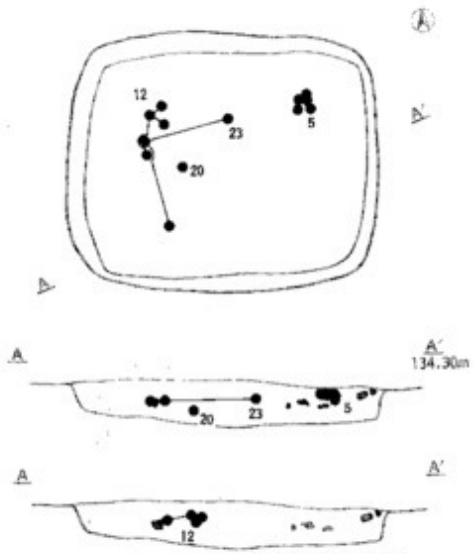


1．H－3号住居址遺物出土状況(1/80)

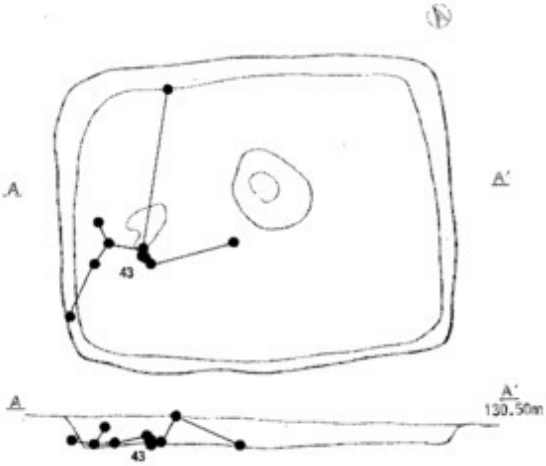
Fig.24

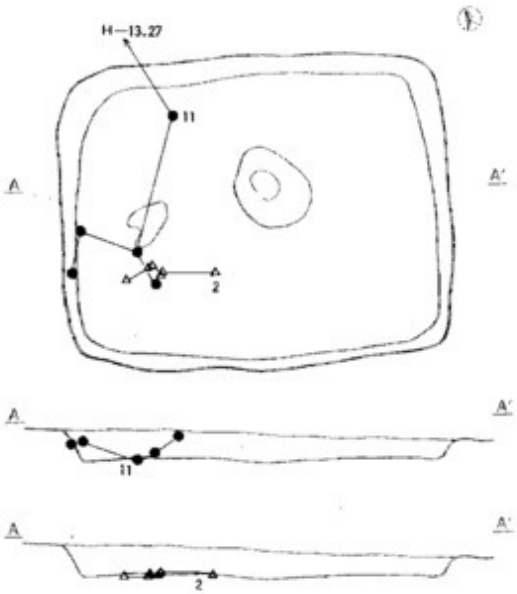


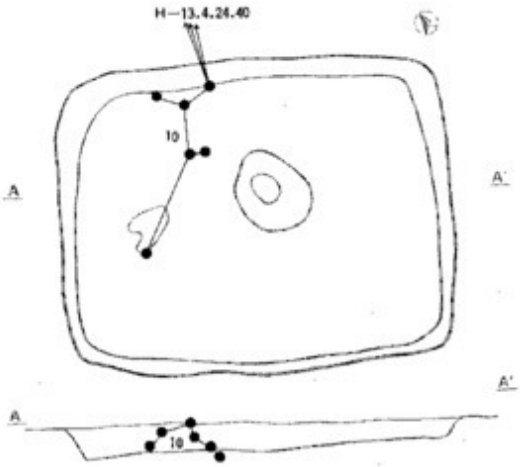
1．H－5号住居址遺物出土状況(1/80)



2．H－9号住居址遺物出土状況(1/80)

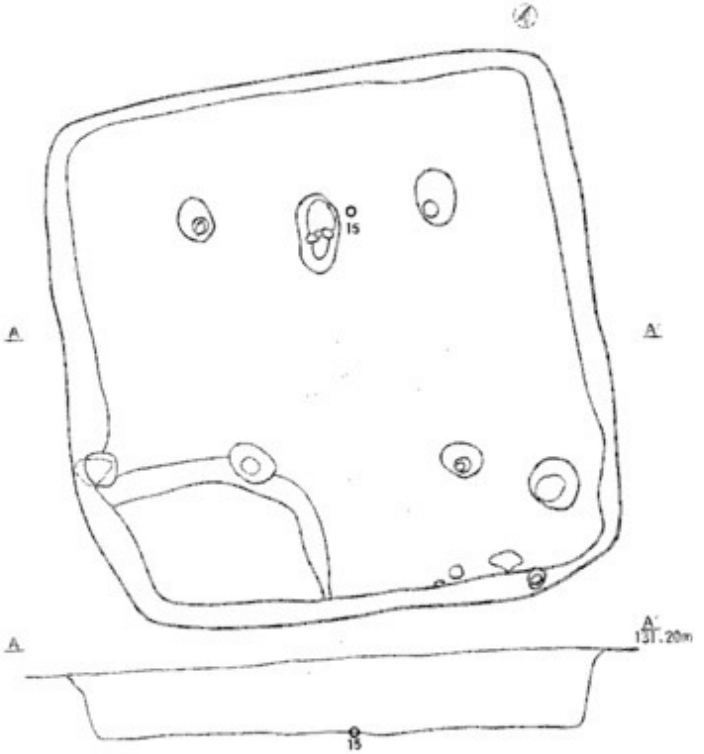




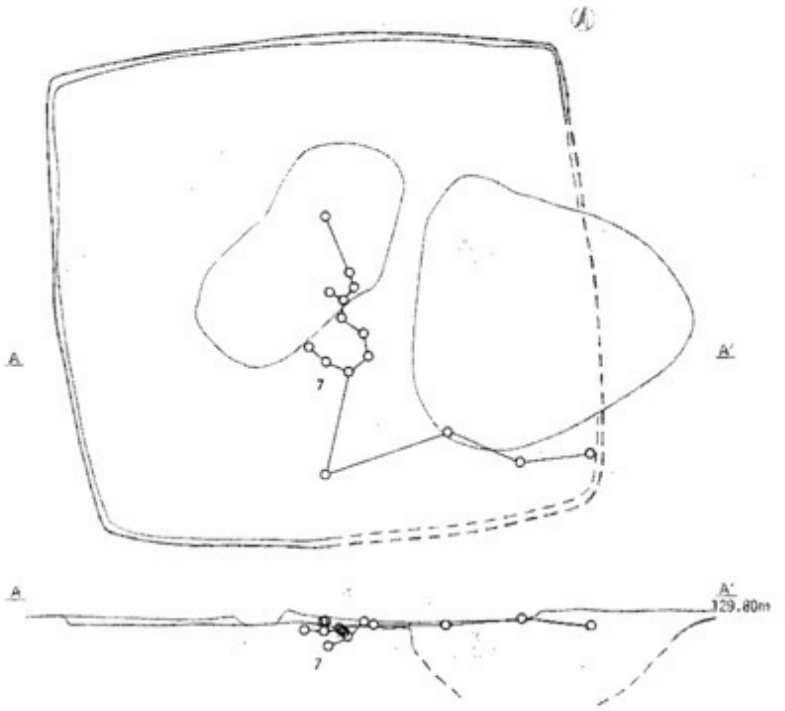


3．H－12号住居址遺物出土状況(1/80)

Fig.25

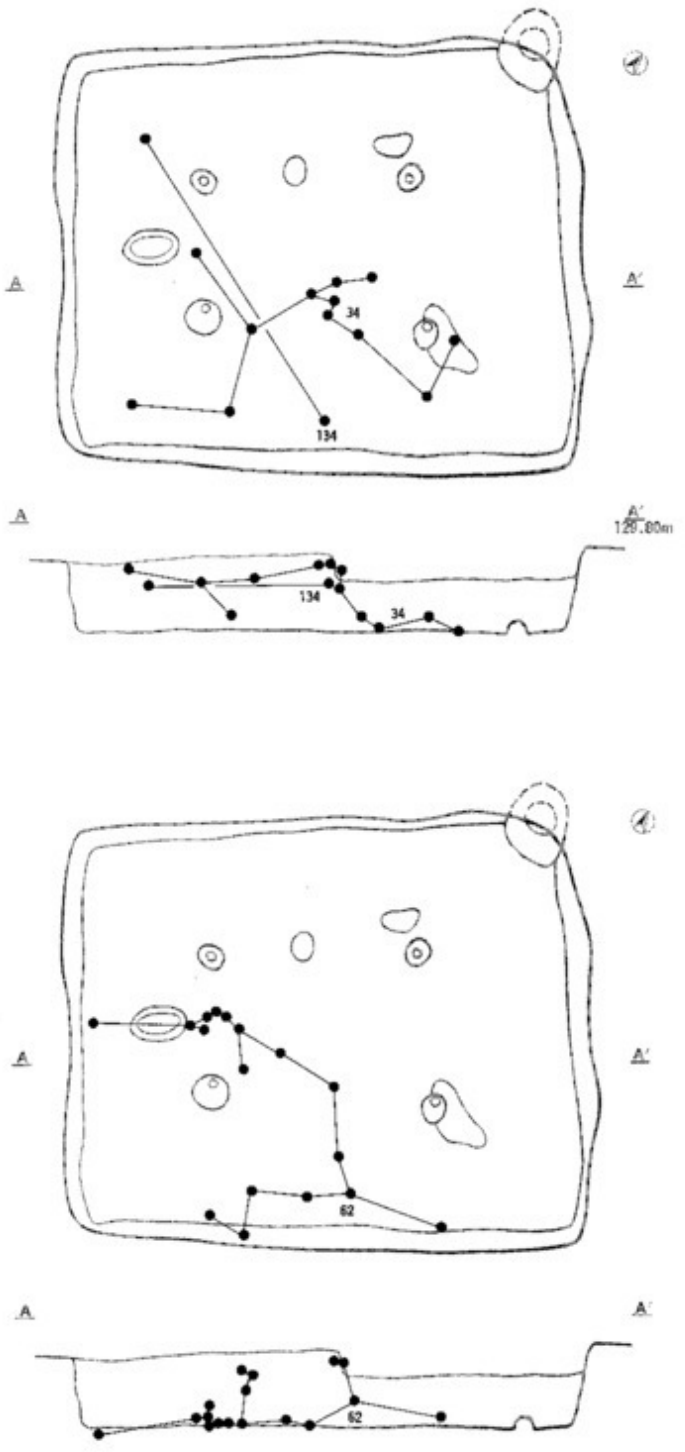


1．H－13号住居址遺物出土状況(1/80)



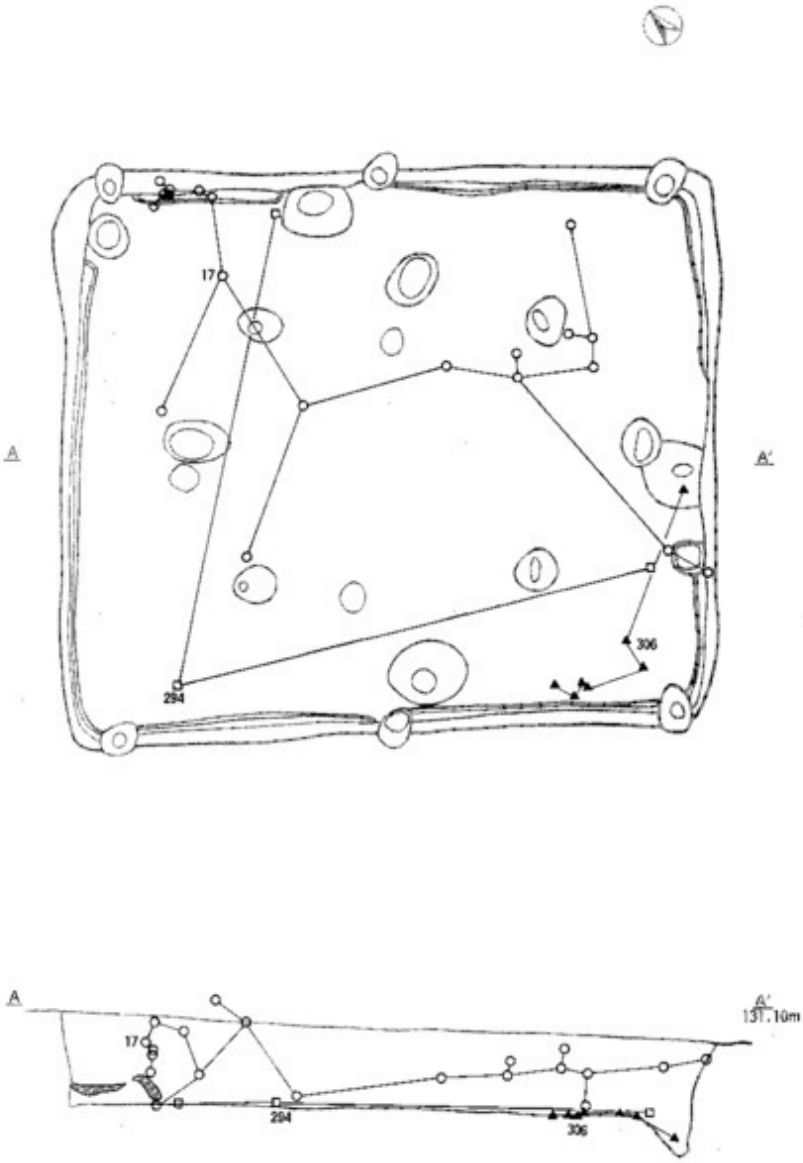
2．H－19号住居址遺物出土状況(1/80)

Fig.26



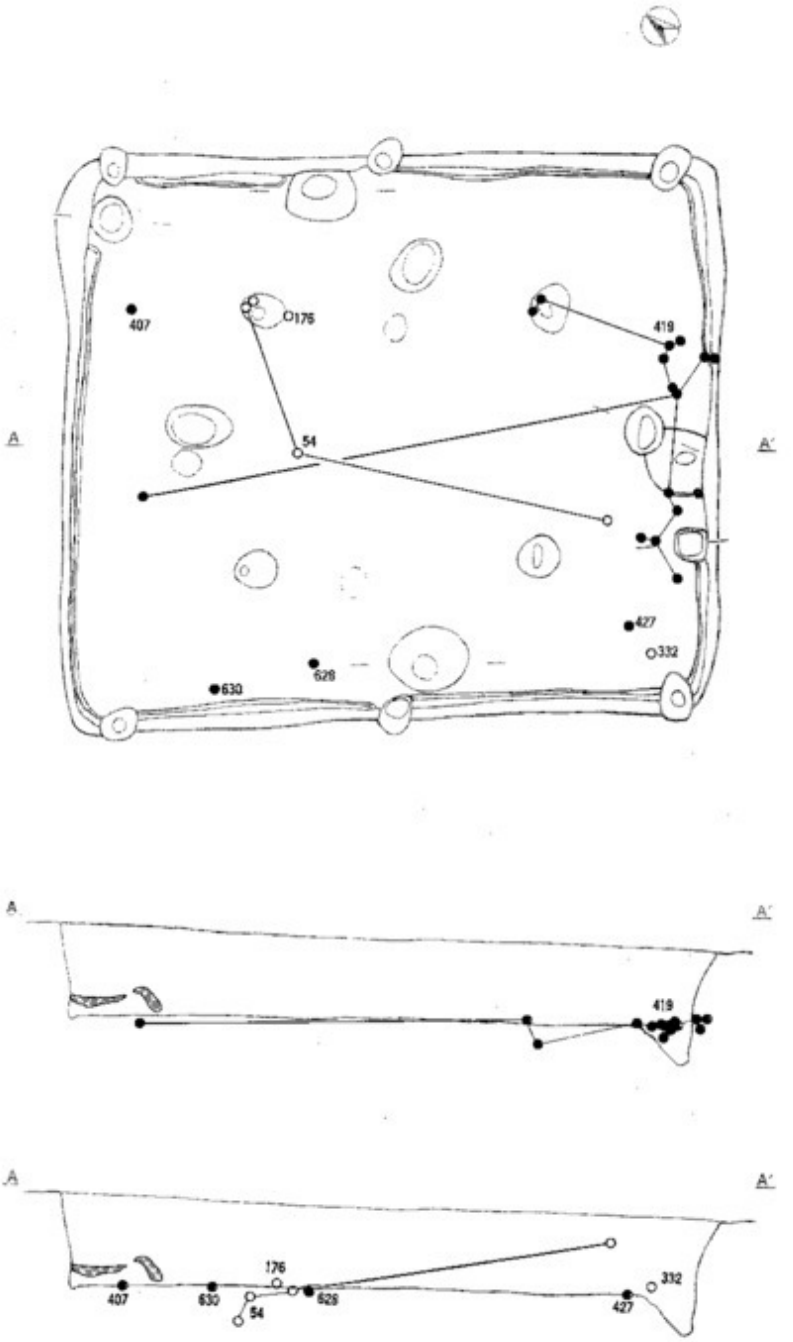
1．H－14号住居址遺物出土状況(1/80)

Fig.27



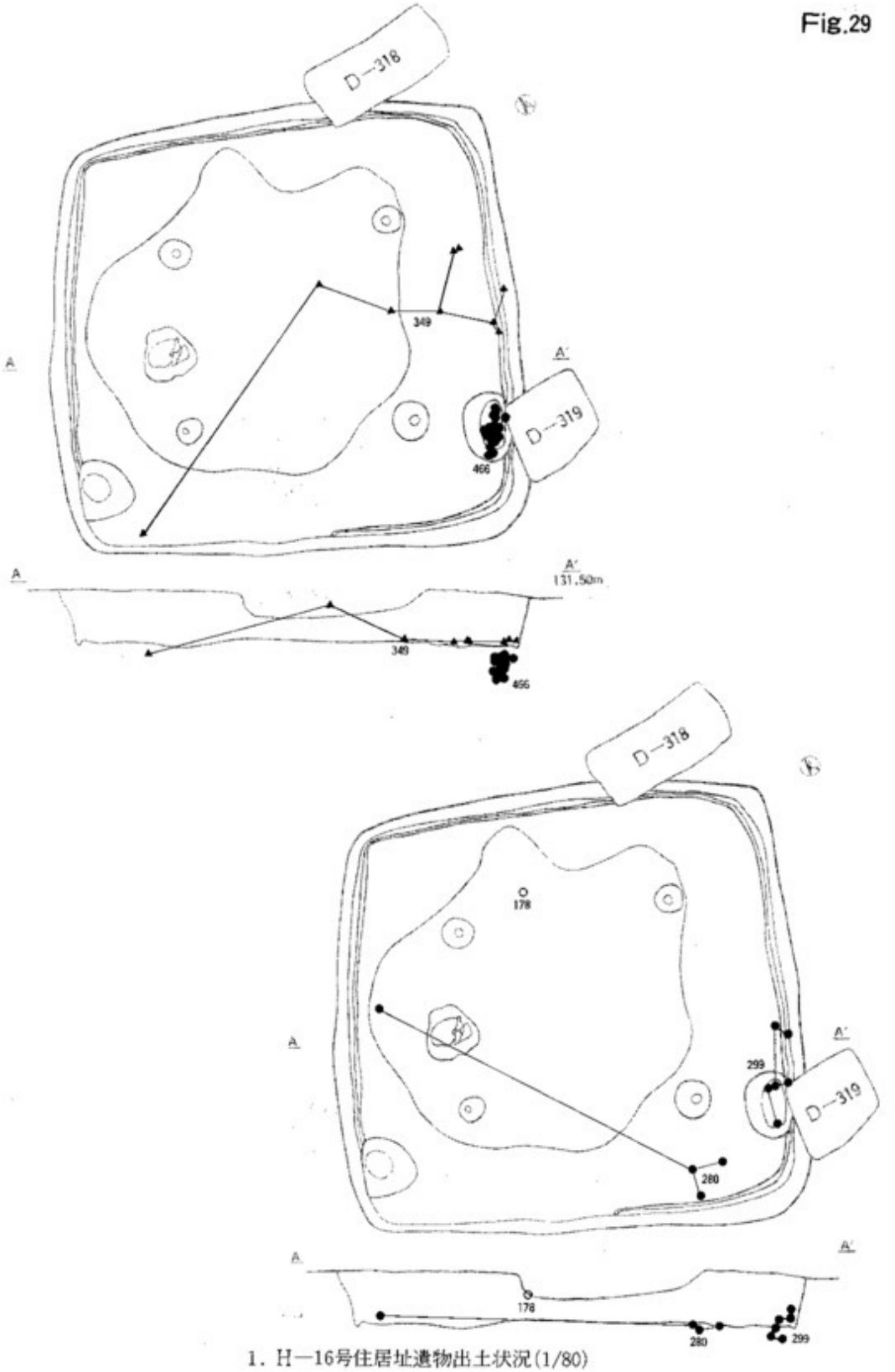
1．H－15号住居址遺物出土状況(1/80)

Fig.28



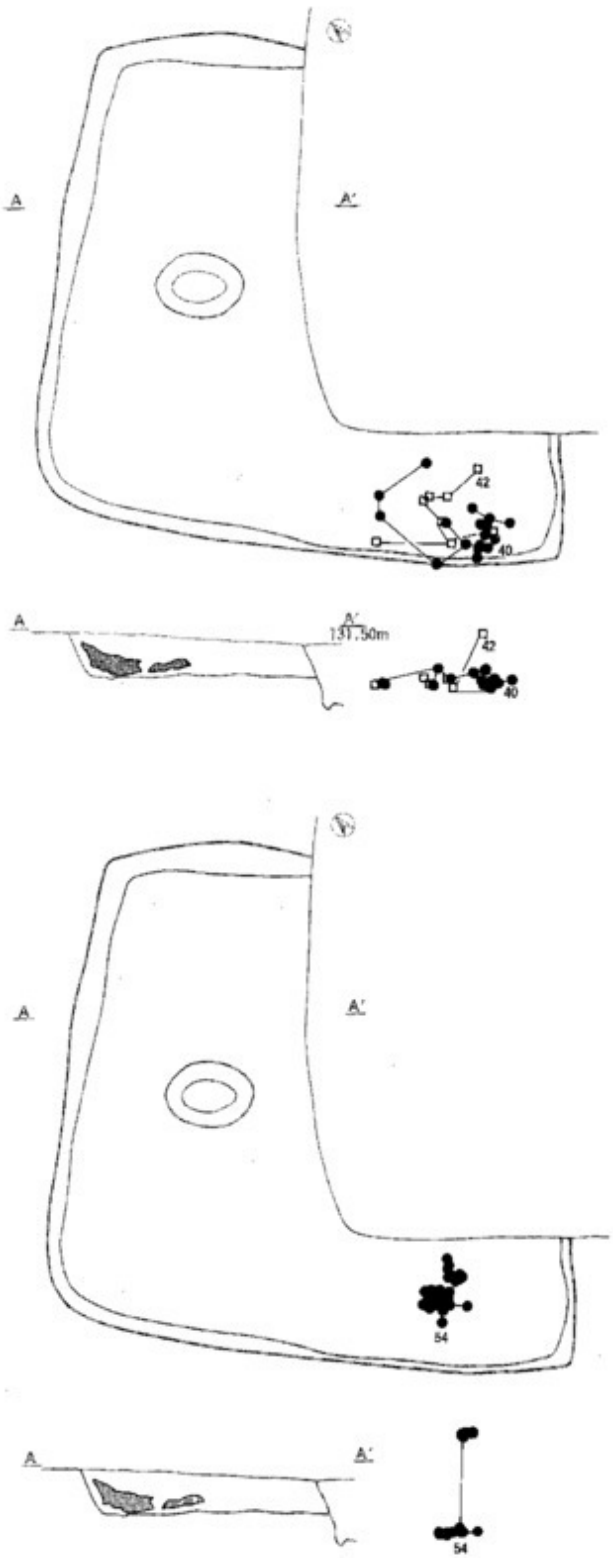
1. H−15号住居址遺物出土状況(1/80)

Fig.29



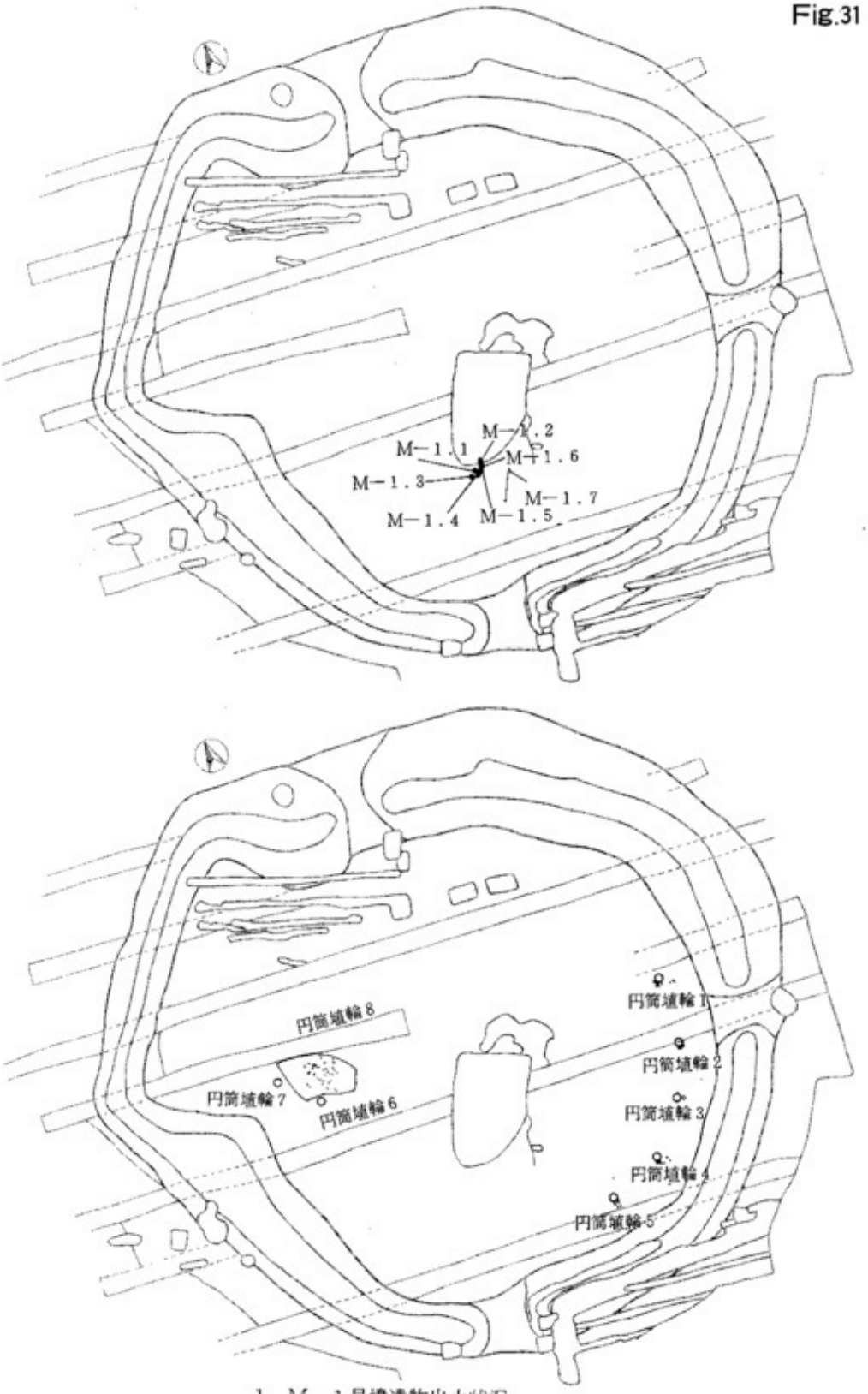
1．H—16号住居址遺物出土状況(1/80)

Fig.30



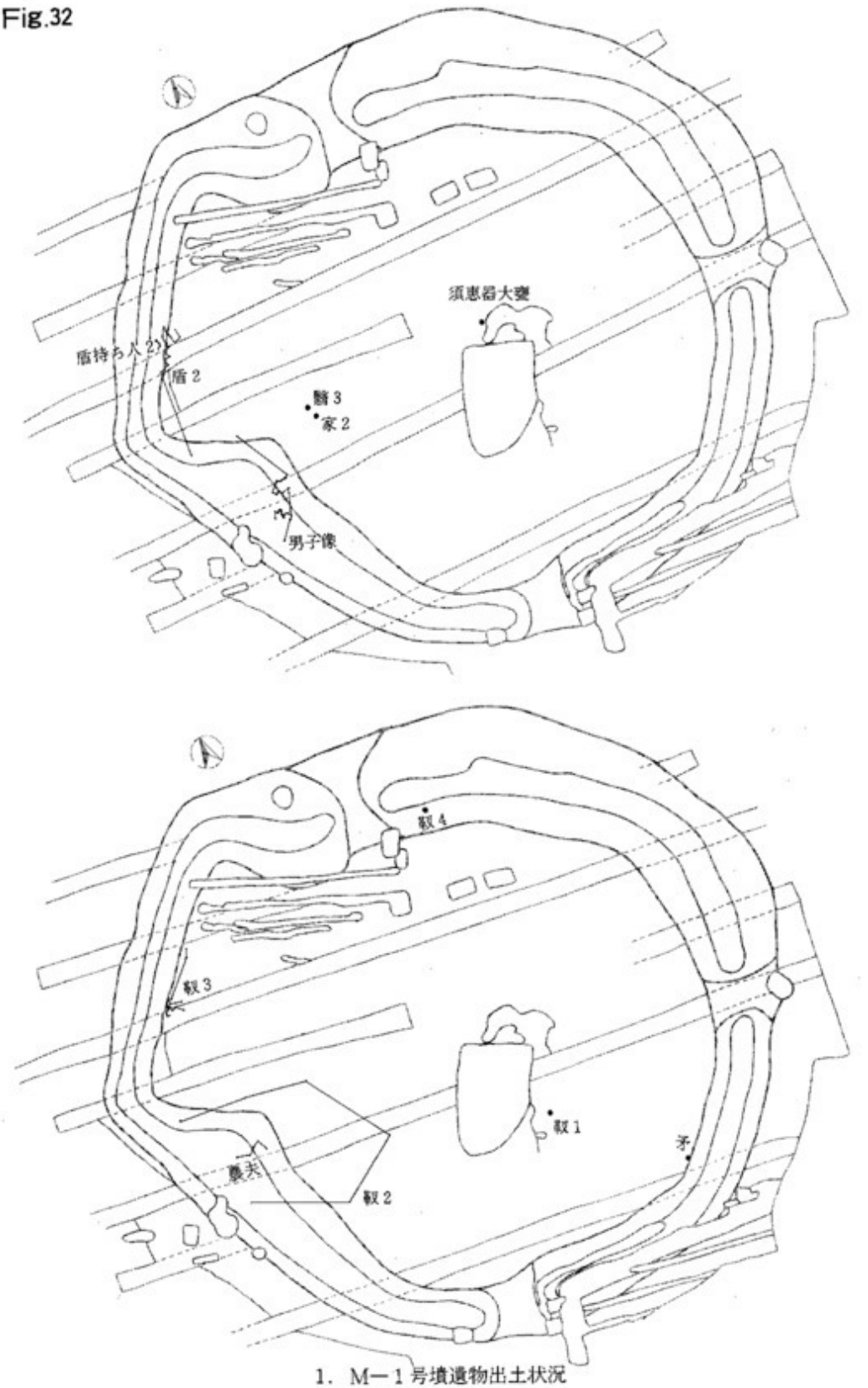
1．H－17号住居址遺物出土状況(1/80)

Fig.31



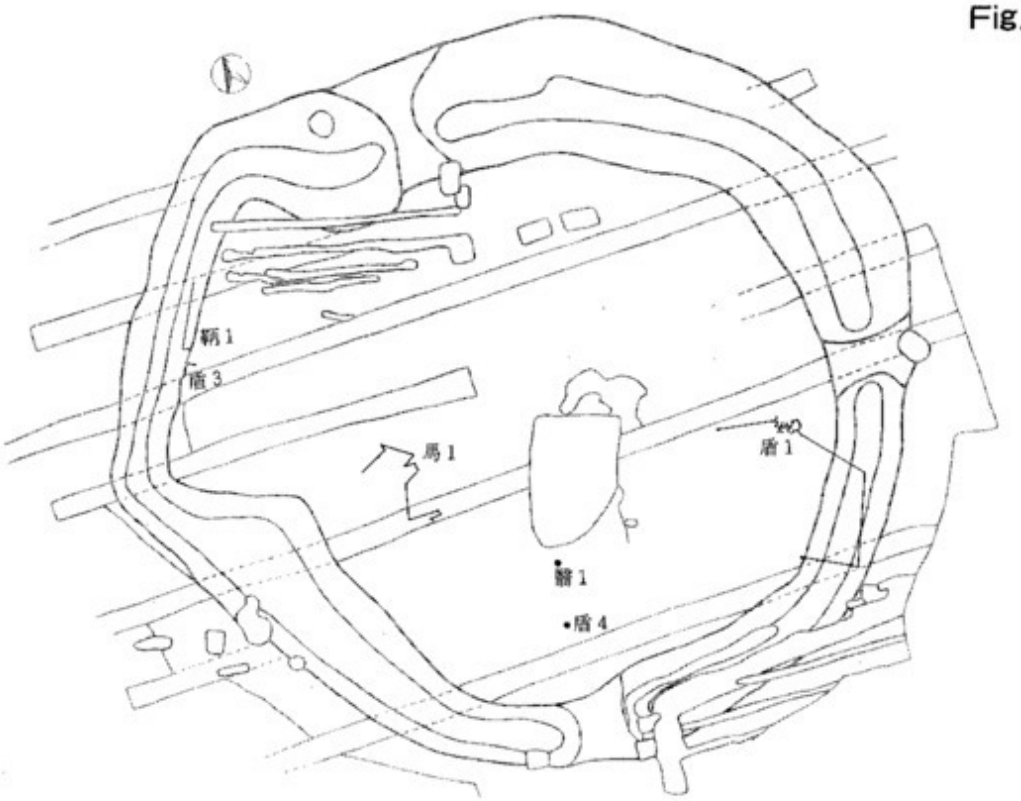
1．M－1号墳遺物出土状況

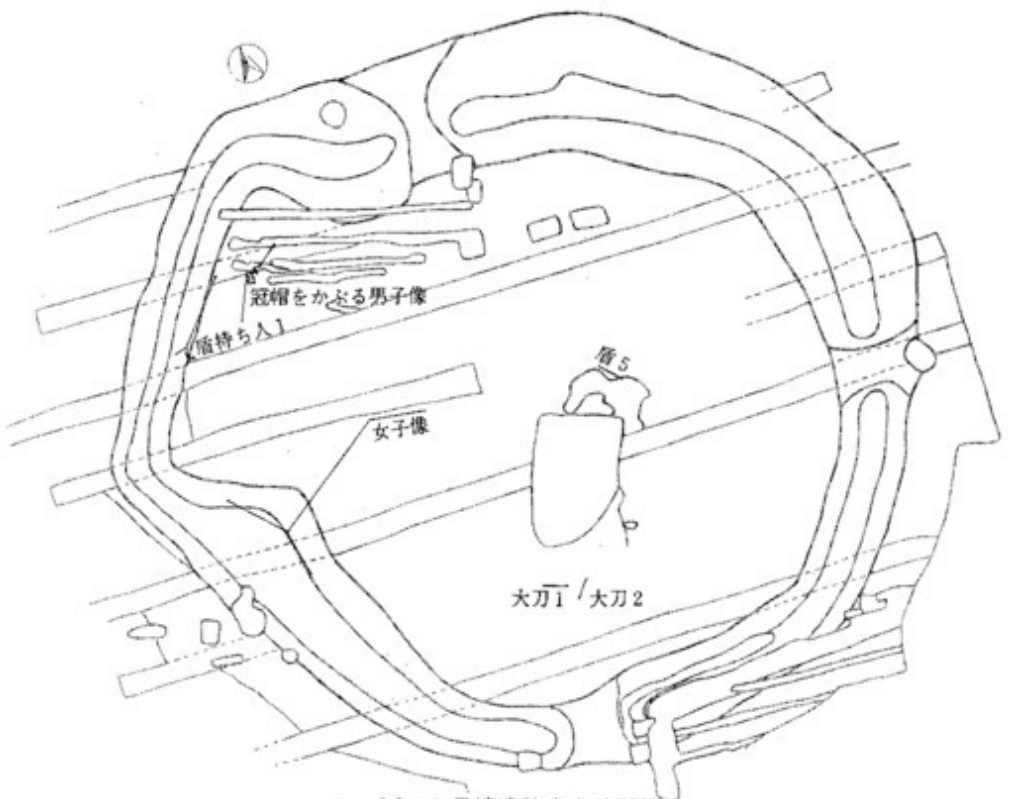
Fig.32



1．M－1号墳遺物出土状況

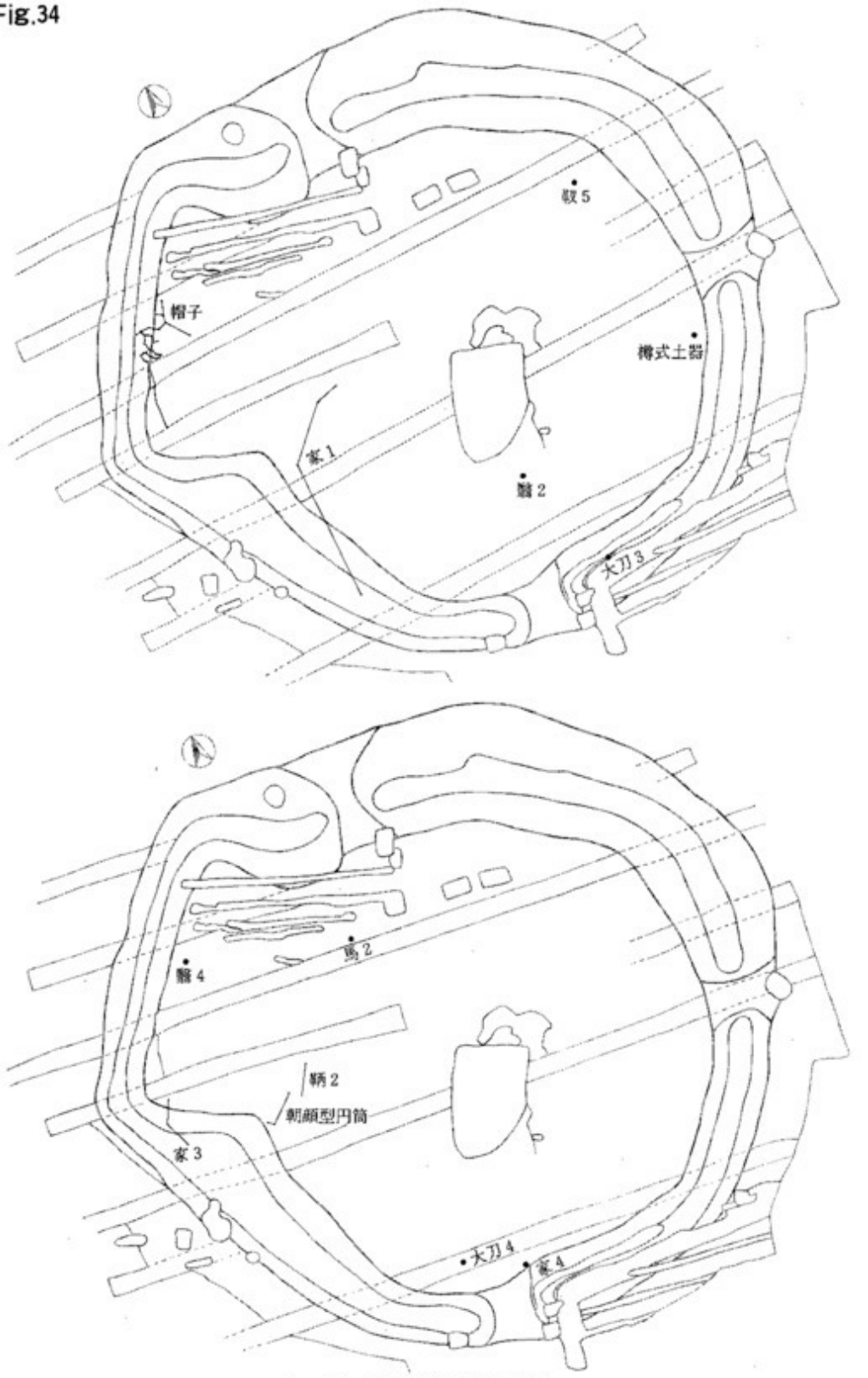
Fig.33





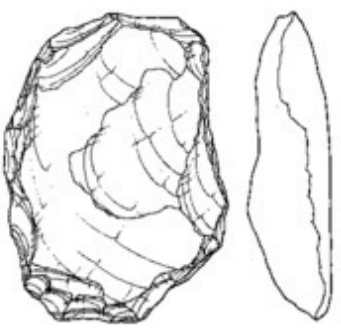
1. M－1号墳遺物出土状況帽

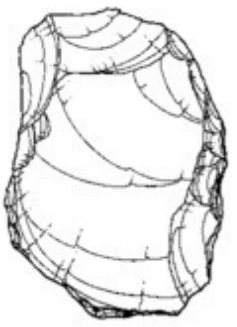
Fig.34



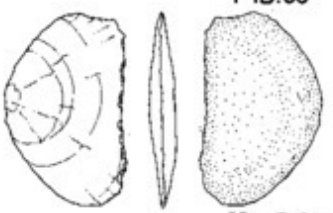
1. M—1号墳遺物出土状況

Fig.35





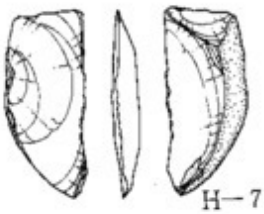
H－7.51



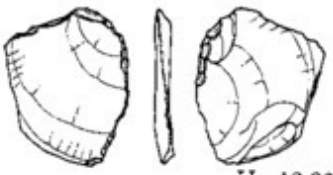
H－7.38

H－7.37

H－7.43

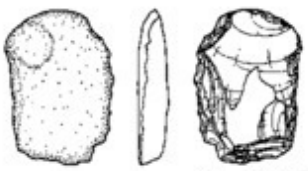


H－7.41

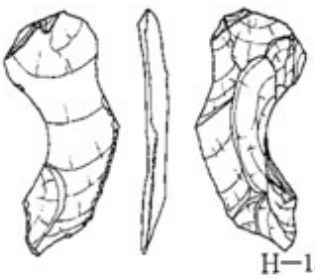


H－12.26

H－7.5

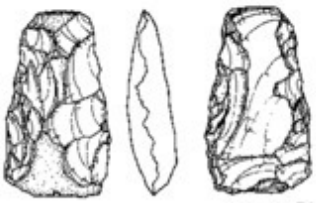


H－16.107

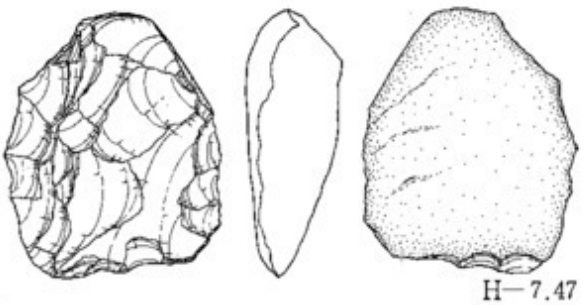


H－13.62

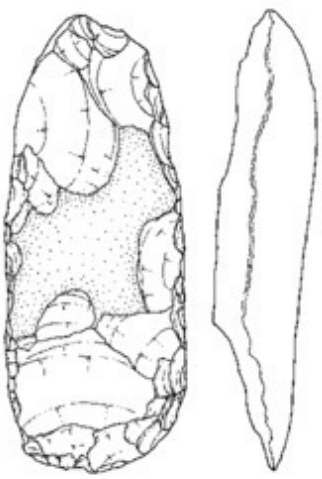
H－13.39

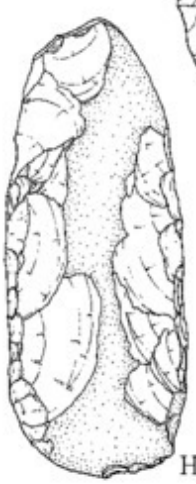


H－7.71

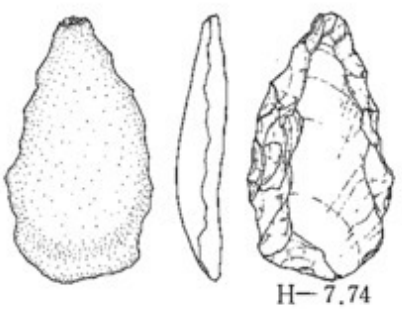


H－7.47





H－1.1

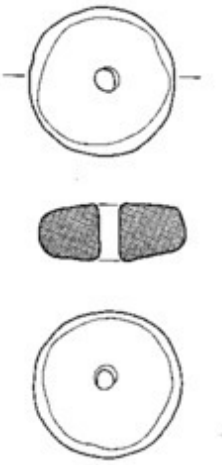


H－7.74

Fig.36

M－1 号墳周溝上部(1/2)

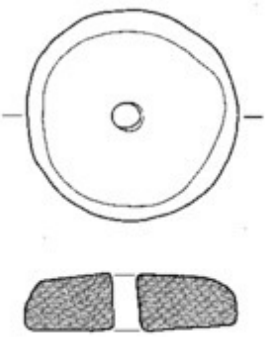
北東 畑 .16(1/2)



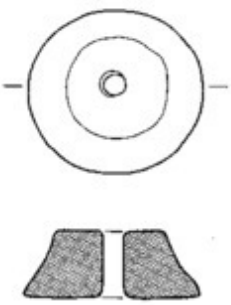
X－1 .73 (1/2)

H－15.191(1/2)

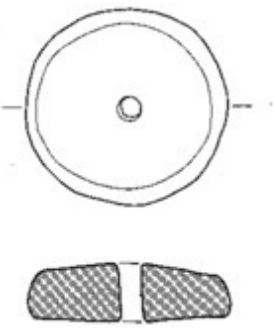
H－16.259(1/2)



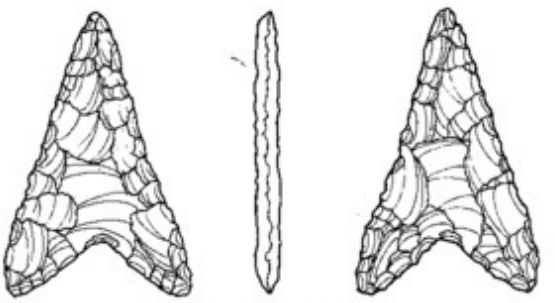
H－17.37(1/2)



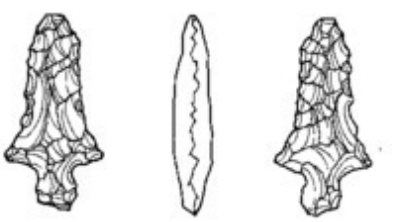
H－15.712 (1/2)



H－15.571(1/2)

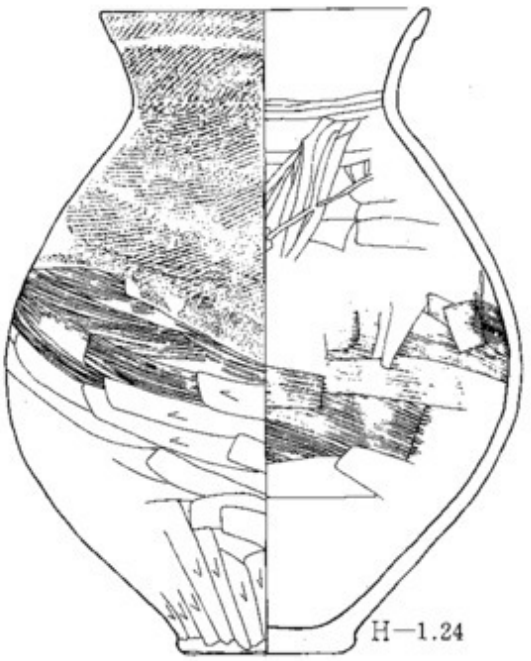


H－ 3 .23 (1/1)

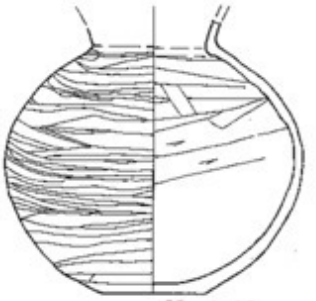


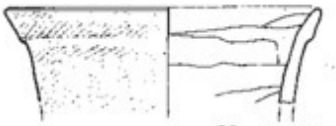
H－16.173(1/1)

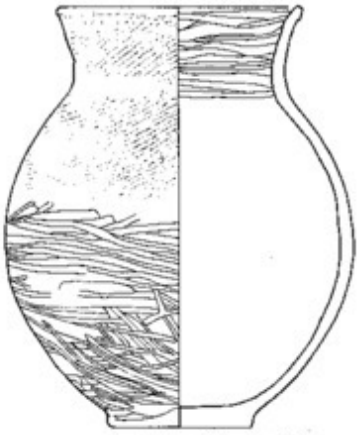
Fig.37


H−1.24

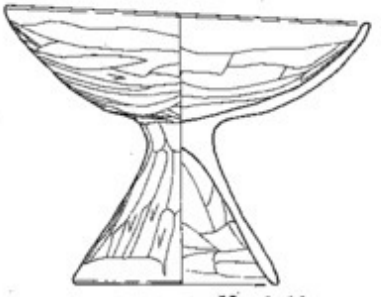
H−1.76

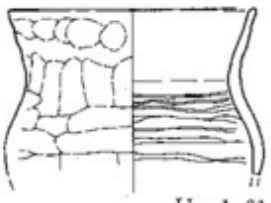

H−1.12

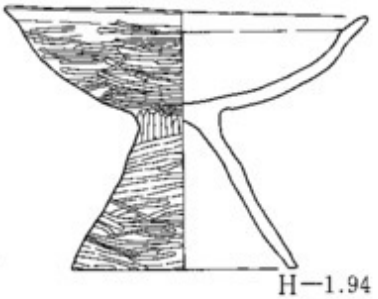

H−1.103


H−1.10

H−1.106


H−1.11


H−1.61


H−1.94

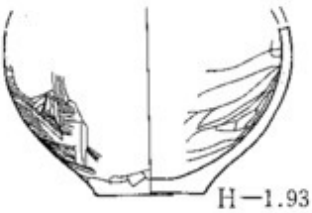
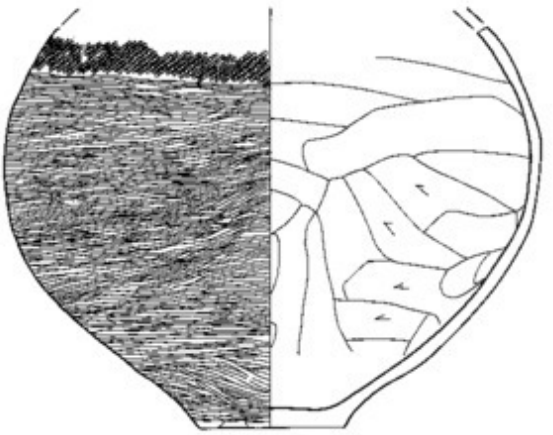
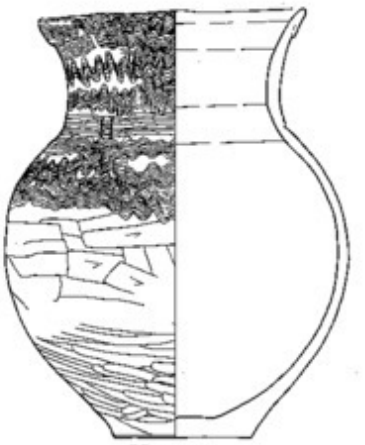

H−1.93

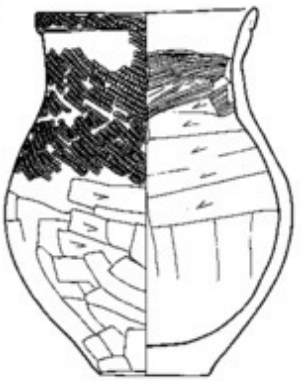
Fig.38



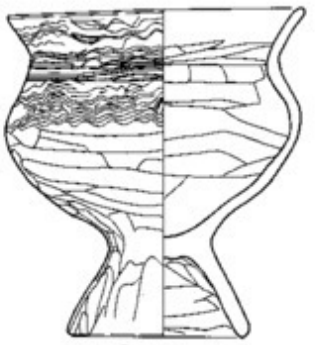
H−1.110



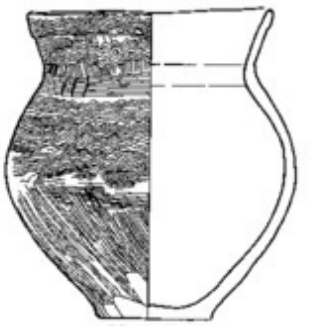
H−1.2



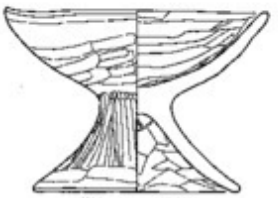
H−1.3



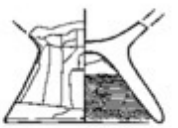
H1.18



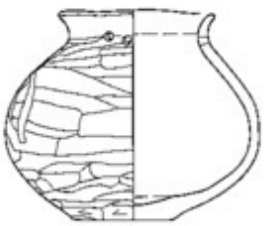
H−1.26



H−1.113

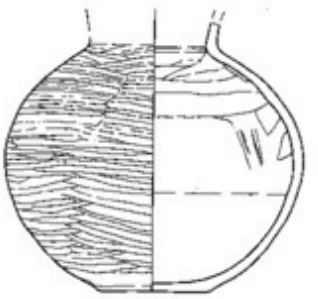


H−1.100



H−1.90

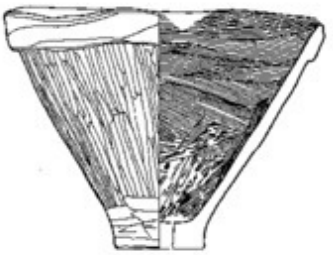
H−1.85



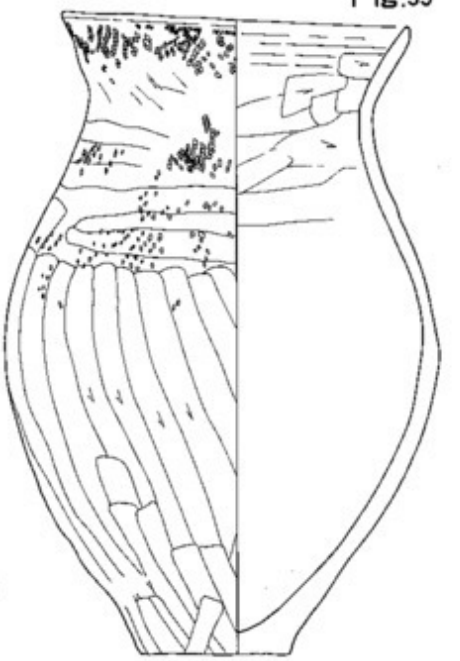
H−1.12

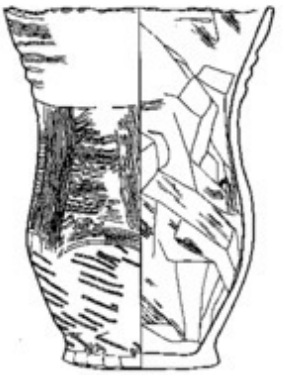
H−1.98

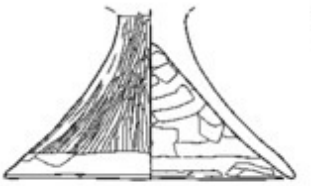
Fig.39


H—3.3

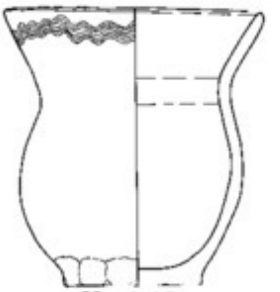
H—3.55

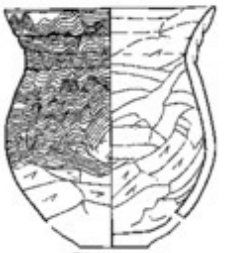

H—3.46

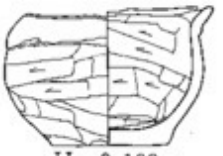

H—3.7

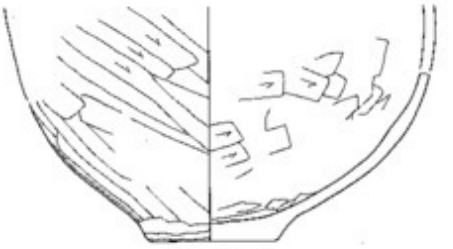

H—3.98

H—3.8

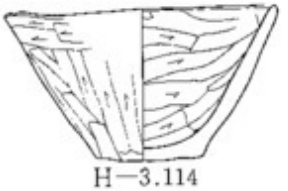

H—3.17


H—3.47


H—3.103


H—3.54

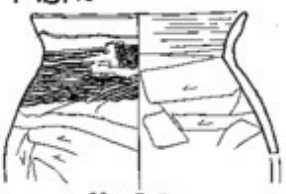
H—3.102

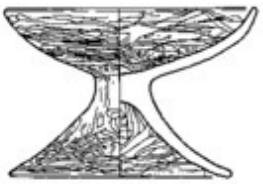

H—3.114

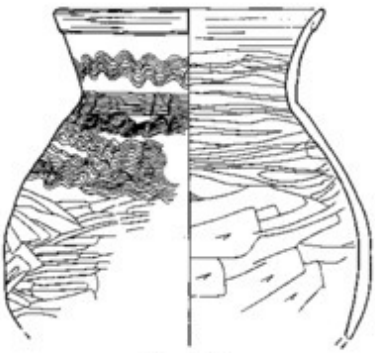
H—3.54

H—3.137

Fig.40

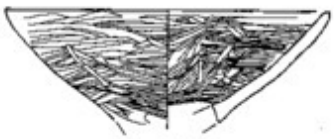

H—5.5

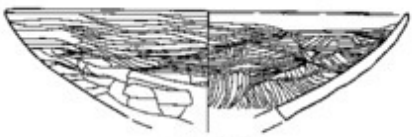

H—5.11

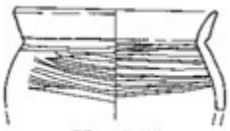

H—5.33

H—5.20

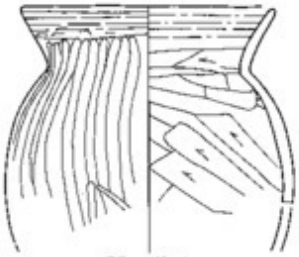
H—5.75


H—7.15


H—6.55

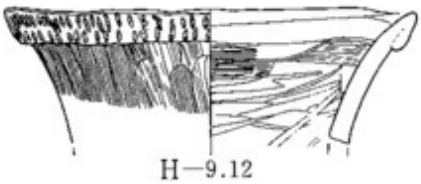

H—6.10

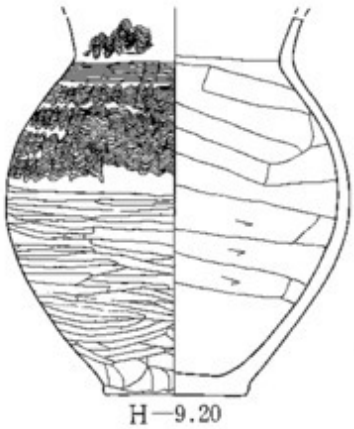
H—8.68


H—9.5

H—9.23

H—9.37


H—9.12


H—9.20

H—18.11

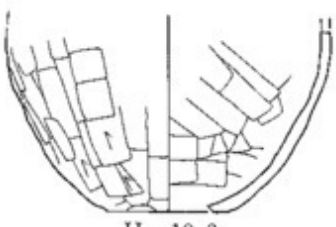
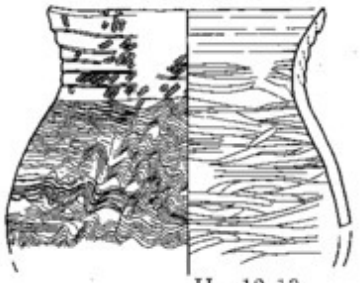
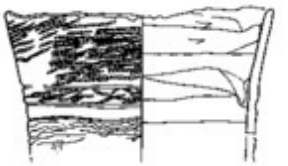

H—10.3

Fig.41



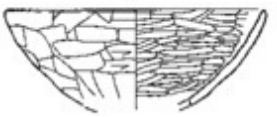
H－12.13

H－12.10

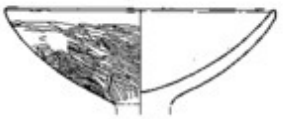


H－12.11

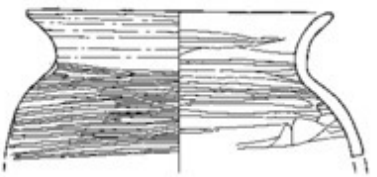
H－12.2



H－12.13

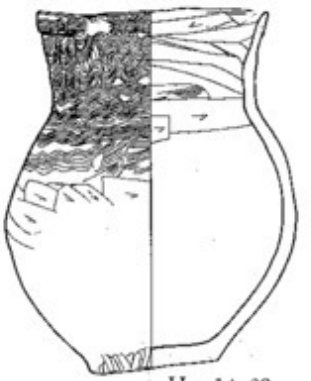


H－13.15

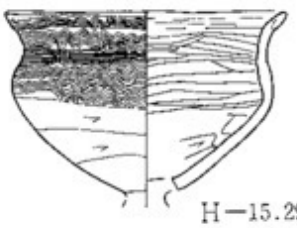


H－14.34

H－14.134

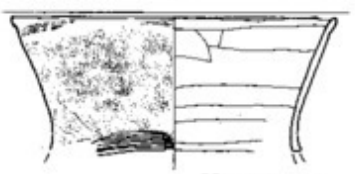


H－14.62

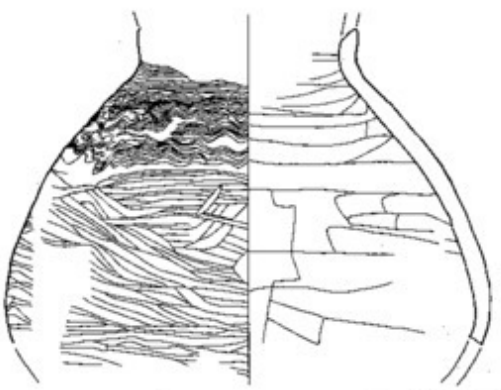


H－15.294

H－15.332



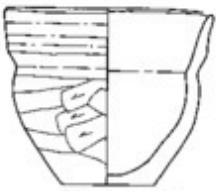
H－15.451

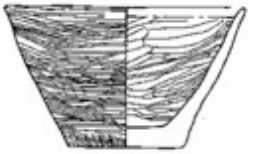


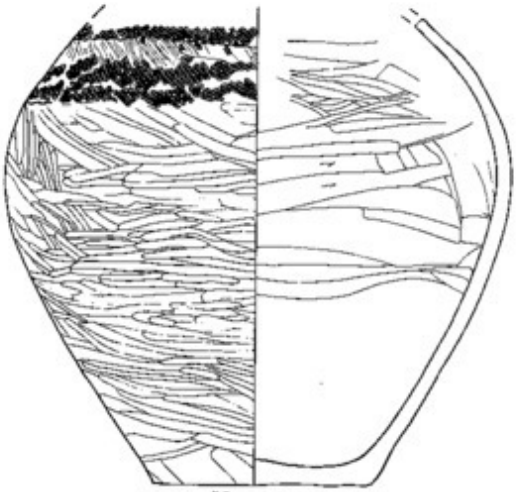
H－15.381

H－15.17

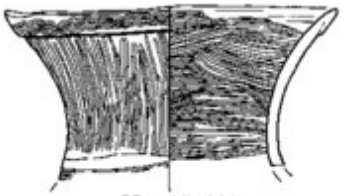
Fig.42

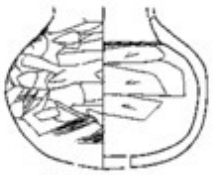

H－15.427


H－15.306


H－15.628

H－15.407

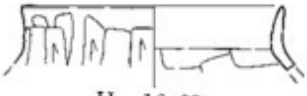

H－15.630


H－15.419

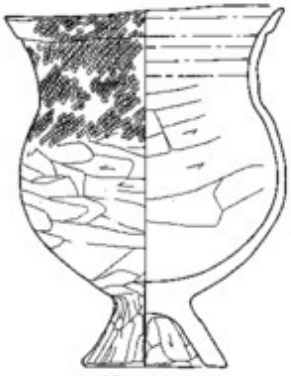
H－15.176

H－16.299

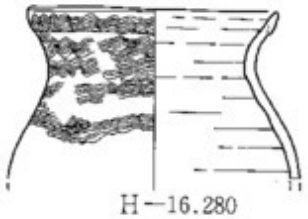
H－16.349

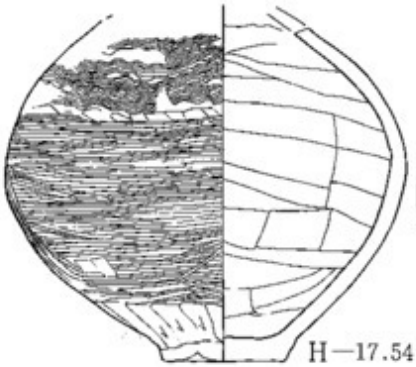

H－16.62

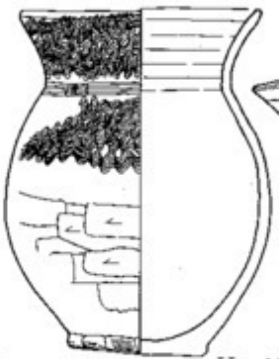
H－16.178


H－17.42

H－16.466


H－16.280


H－17.54


H－17.40

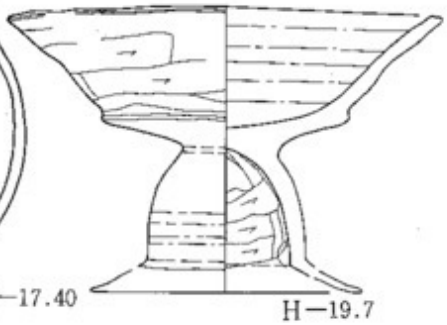

H－19.7

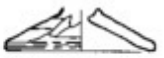
Fig.43

H—2.8

H—3.15

H—4.26.14

H—4.8

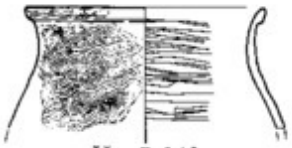


H—4.5

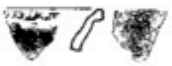
H—4.144

H—4.155

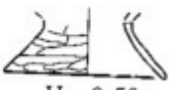
H—6.149



H—7.146



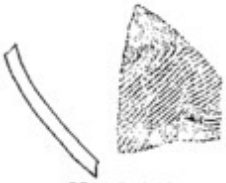
H—8.158



H—8.56

H—9.42

H—4.153



H—8.148

H—8.151

H—8

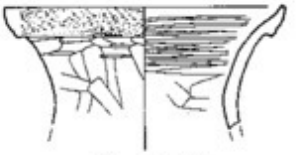
Fig.44

H－9.162

H－13.14

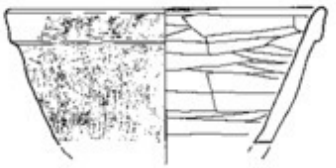
H－11.2

H－12.29

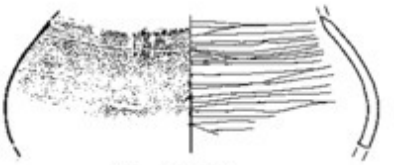


H－15.91

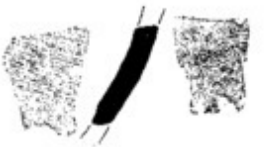
H－18.147



H－15.211

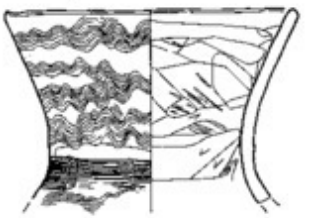


H－15.204



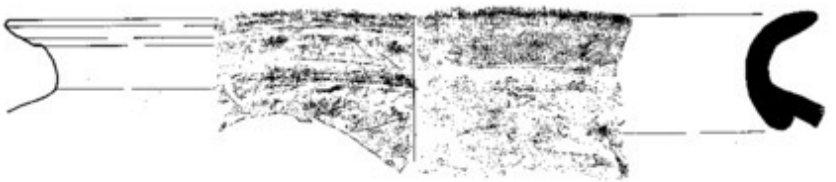
I－11G.14

U－1.1

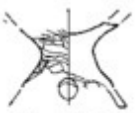


U－2.1

M－1.中

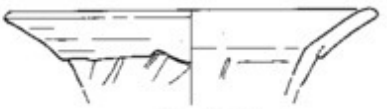


W－15.98



W－17.16

畑 230



X－1.224

Fig.45

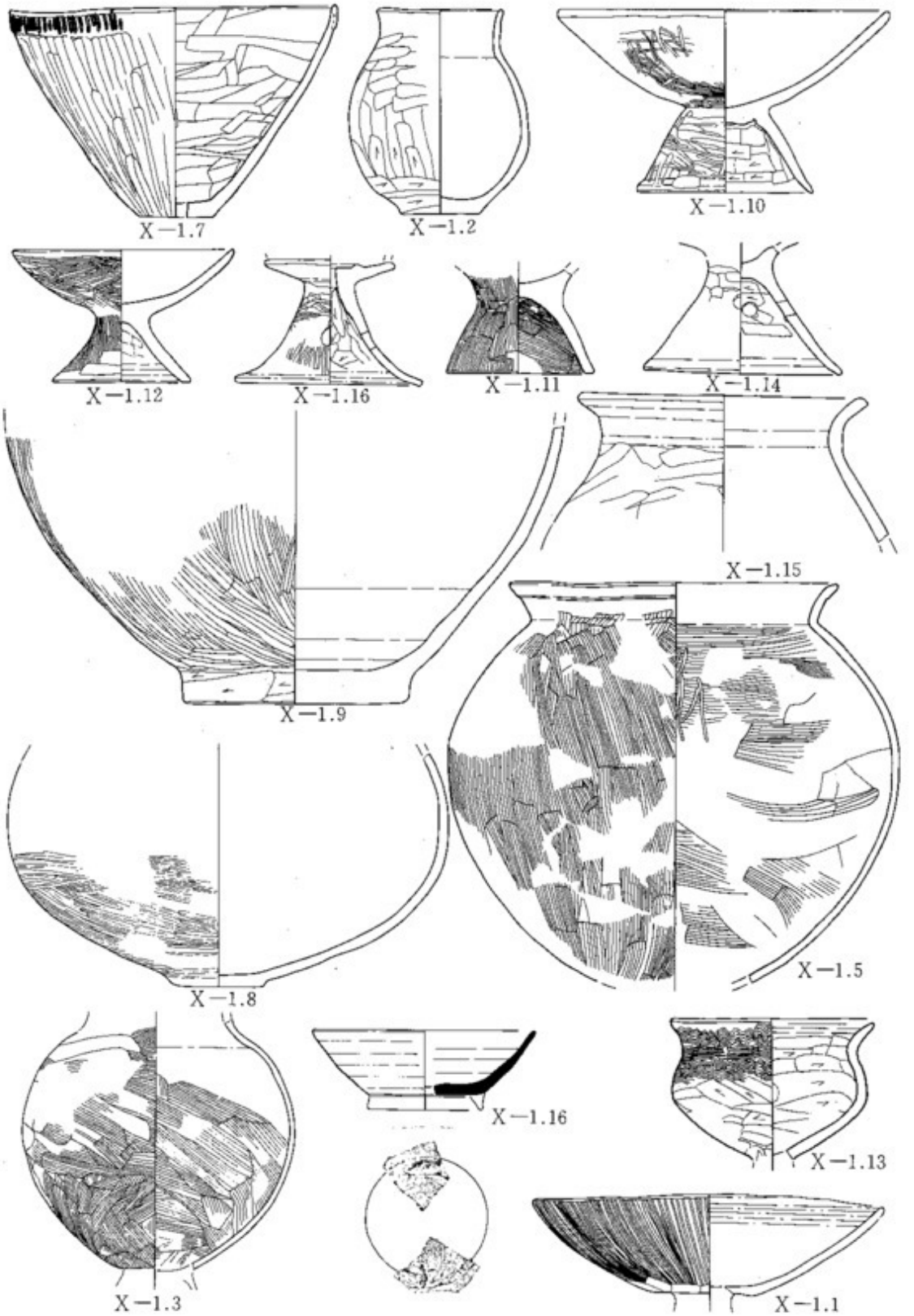
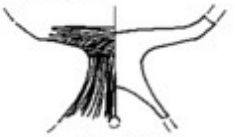
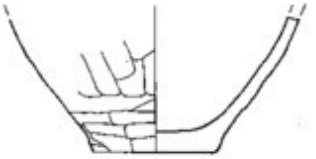

X−1.7
X−1.2
X−1.10
X−1.12
X−1.16
X−1.11
X−1.14
X−1.15
X−1.9
X−1.8
X−1.5
X−1.16
X−1.13
X−1.3
X−1.1

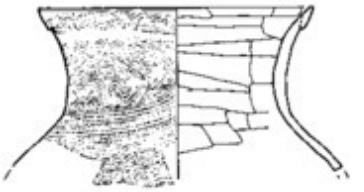
Fig.46



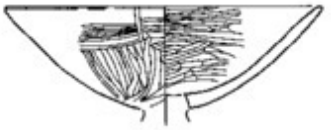
H－5.34



H－6.27

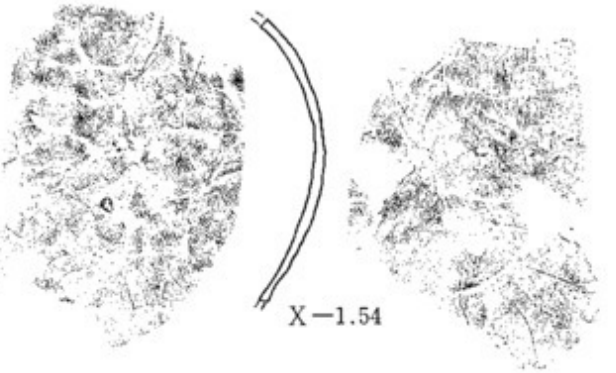


H－8.215



H－13.26

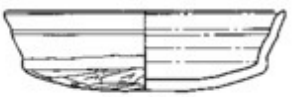
H－14.31



X－1.54

M－1.1

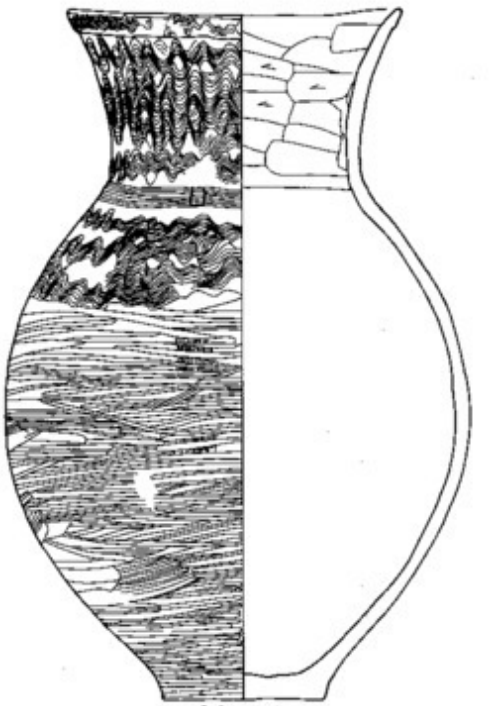
M－1.2



M－1.3

M－1.4

M－1.5



M－1.8

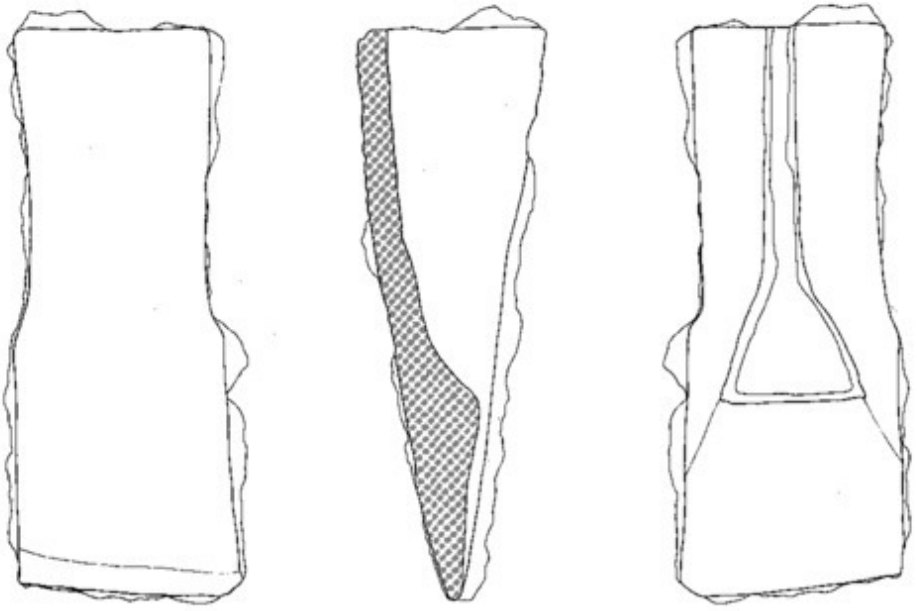
M－1.6

M－1.7

M－1.9

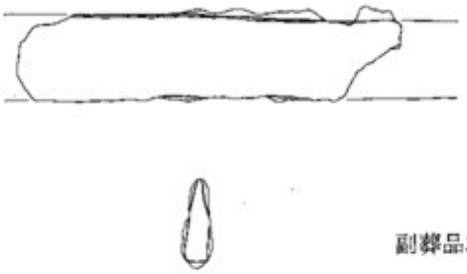
M－1.10

Fig.47

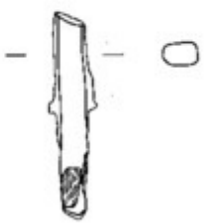


副葬品1.鉄斧(1/2)

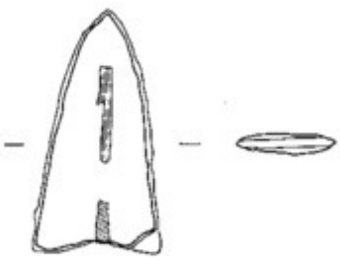
副葬品2．鉗子(1/2)



副葬品3 .小刀(1/2)

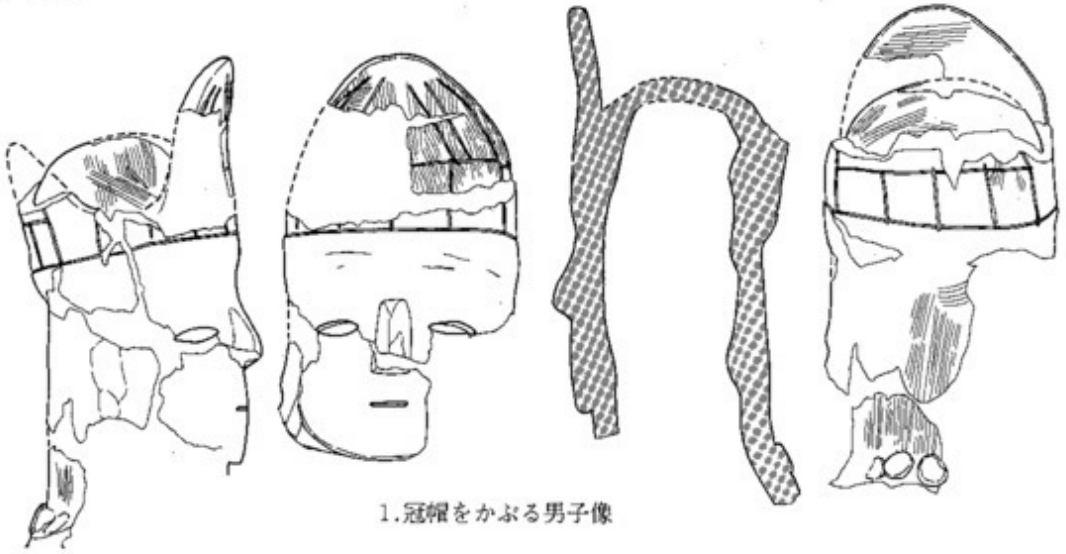


副葬品4． 鉄鏃(1/2)

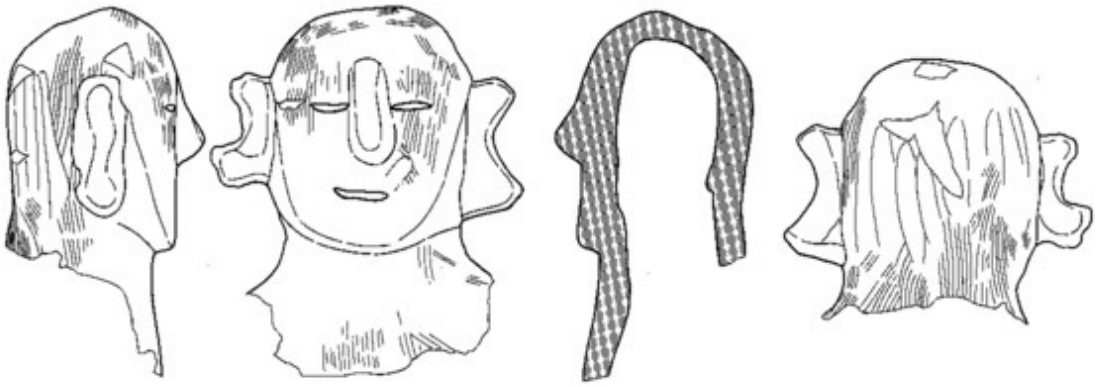


副葬品5． 鉄鏃(1/2)

Fig.48



1.冠帽をかぶる男子像

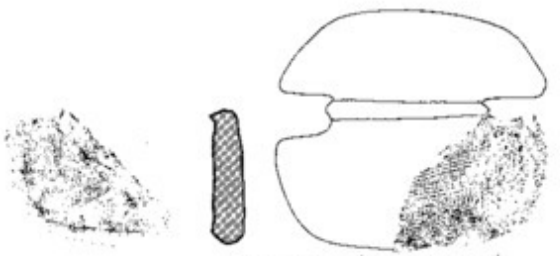


2.農　夫

3.男子像

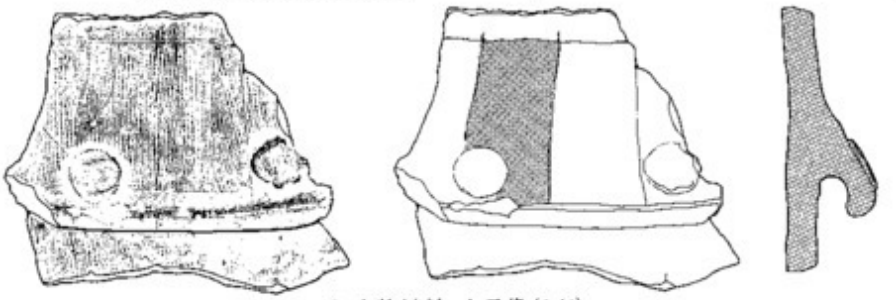
M－1号墳出土人物埴輪(1/4)

Fig.49



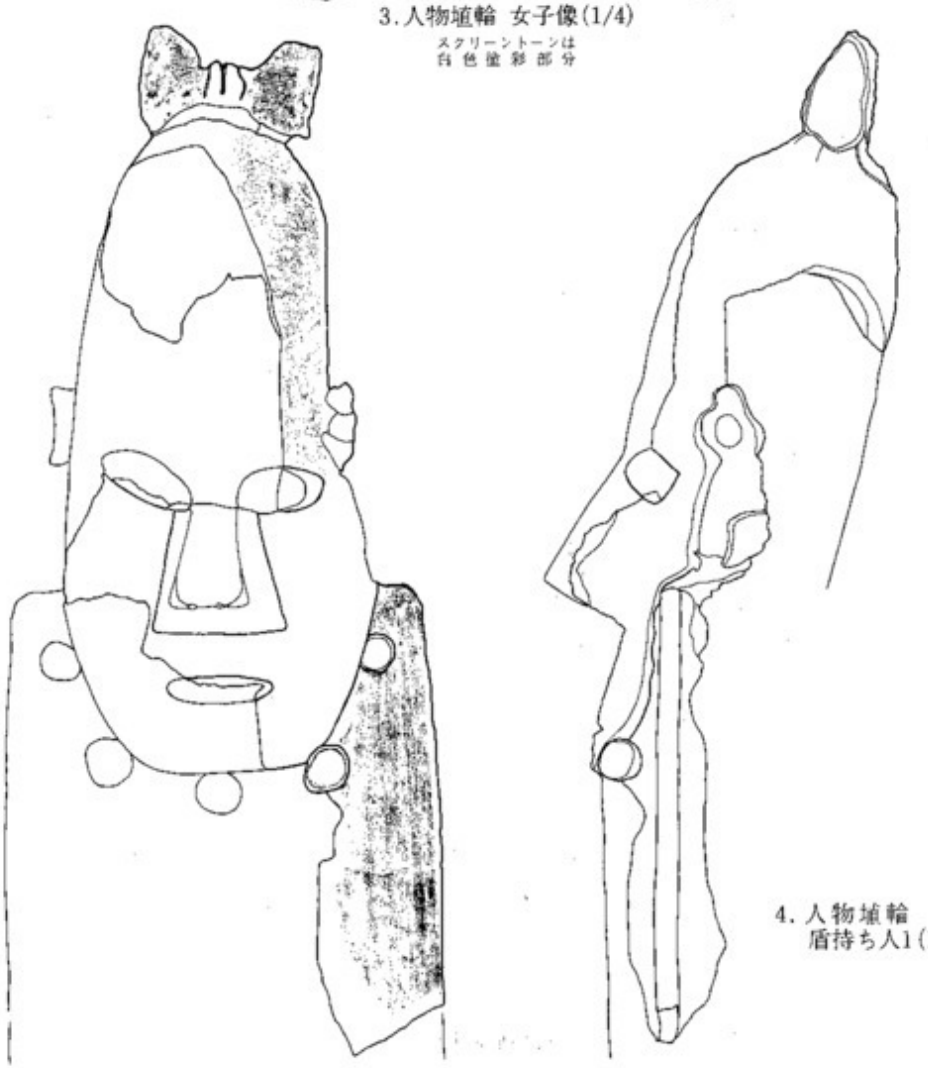
1 人物埴輪・女子像髷(1/4)

2.形象埴輪片(1/4)



3.人物埴輪 女子像(1/4)

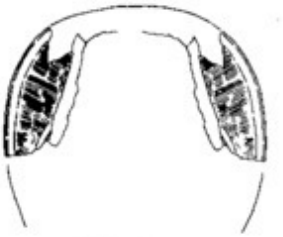
スクリーントーンは
白色塗彩部分



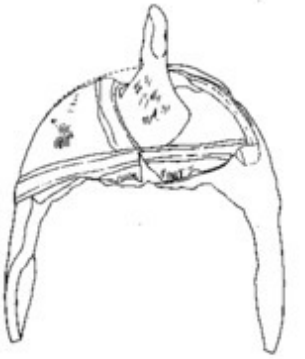
4.人物埴輪
盾持ち人1(1/4)

Fig.50

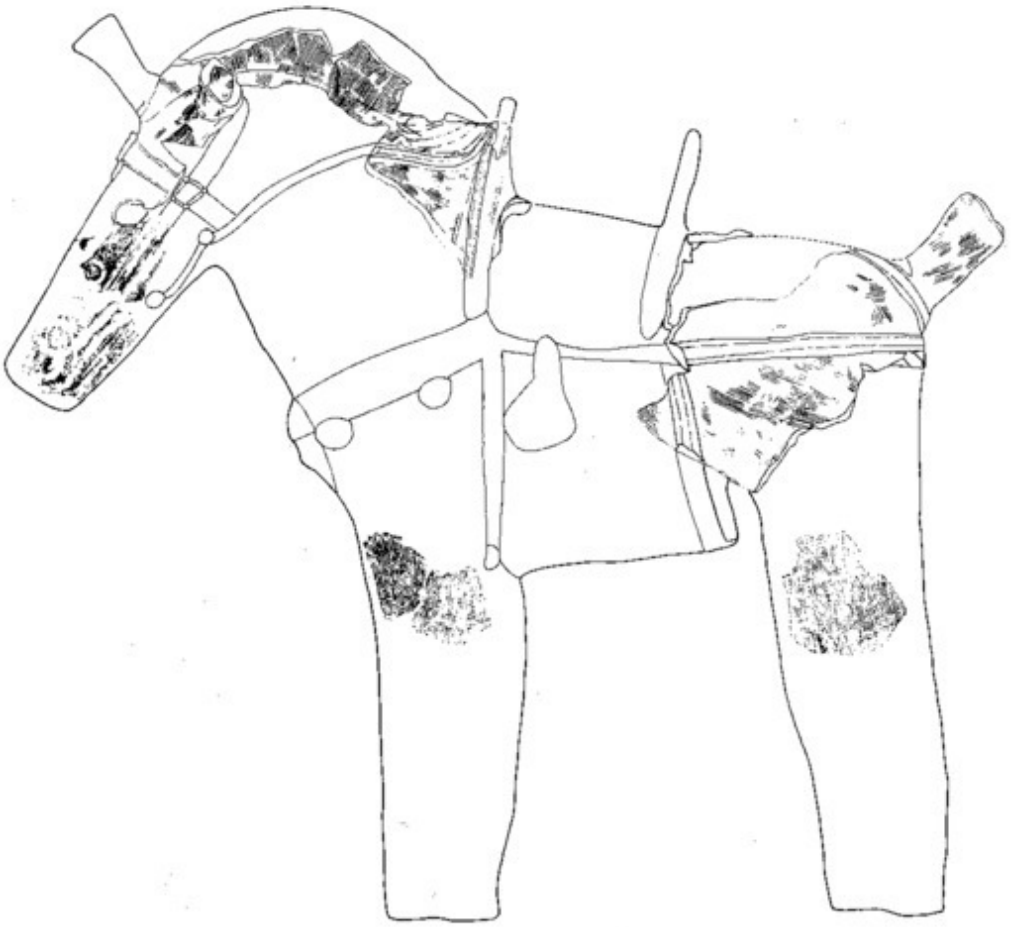
前部立面
耳及びたて髪



前部立面
鞍前輪



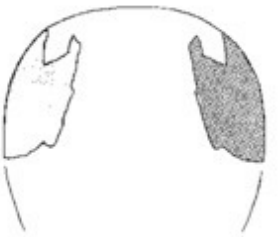
後部立面



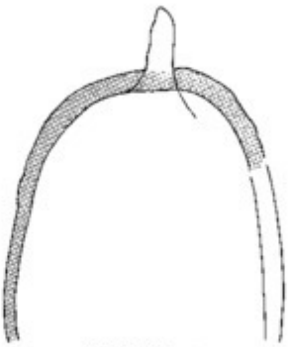
1.馬形埴輪．馬1（1/8）

Fig.51

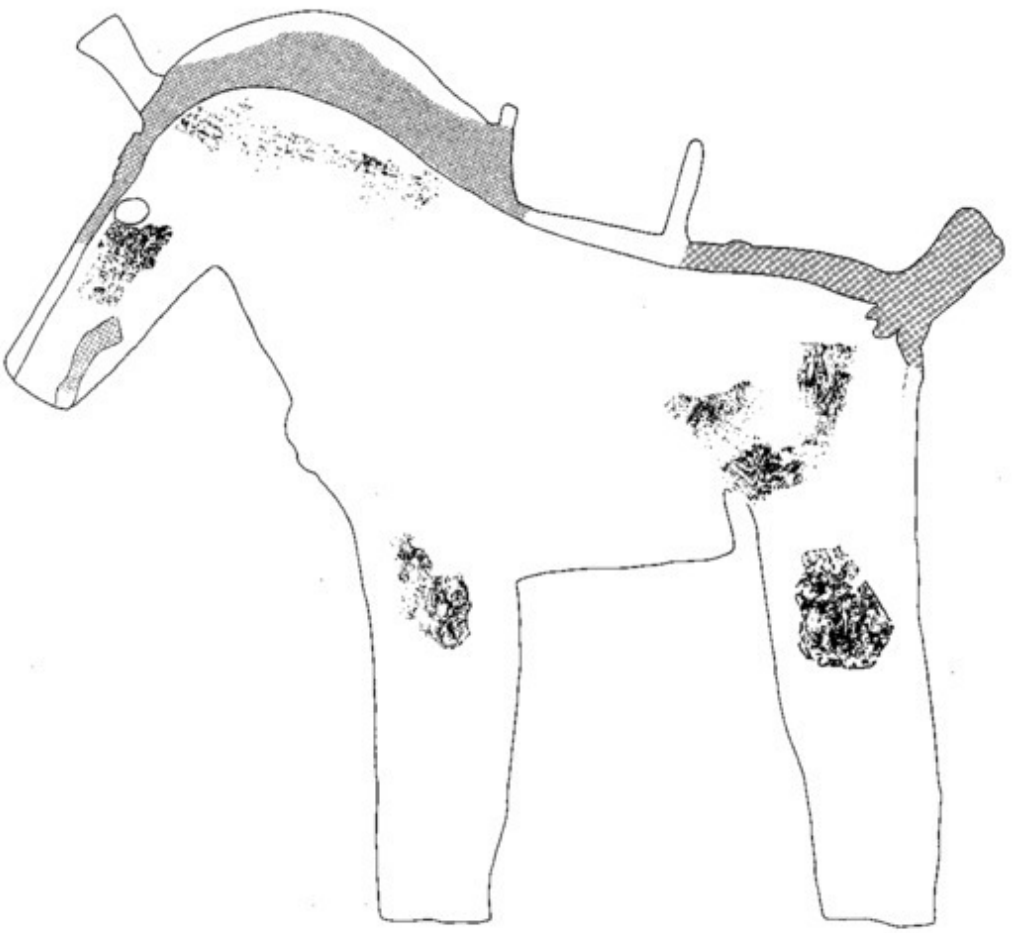
耳及びたて髪断面



鞍前輪断面

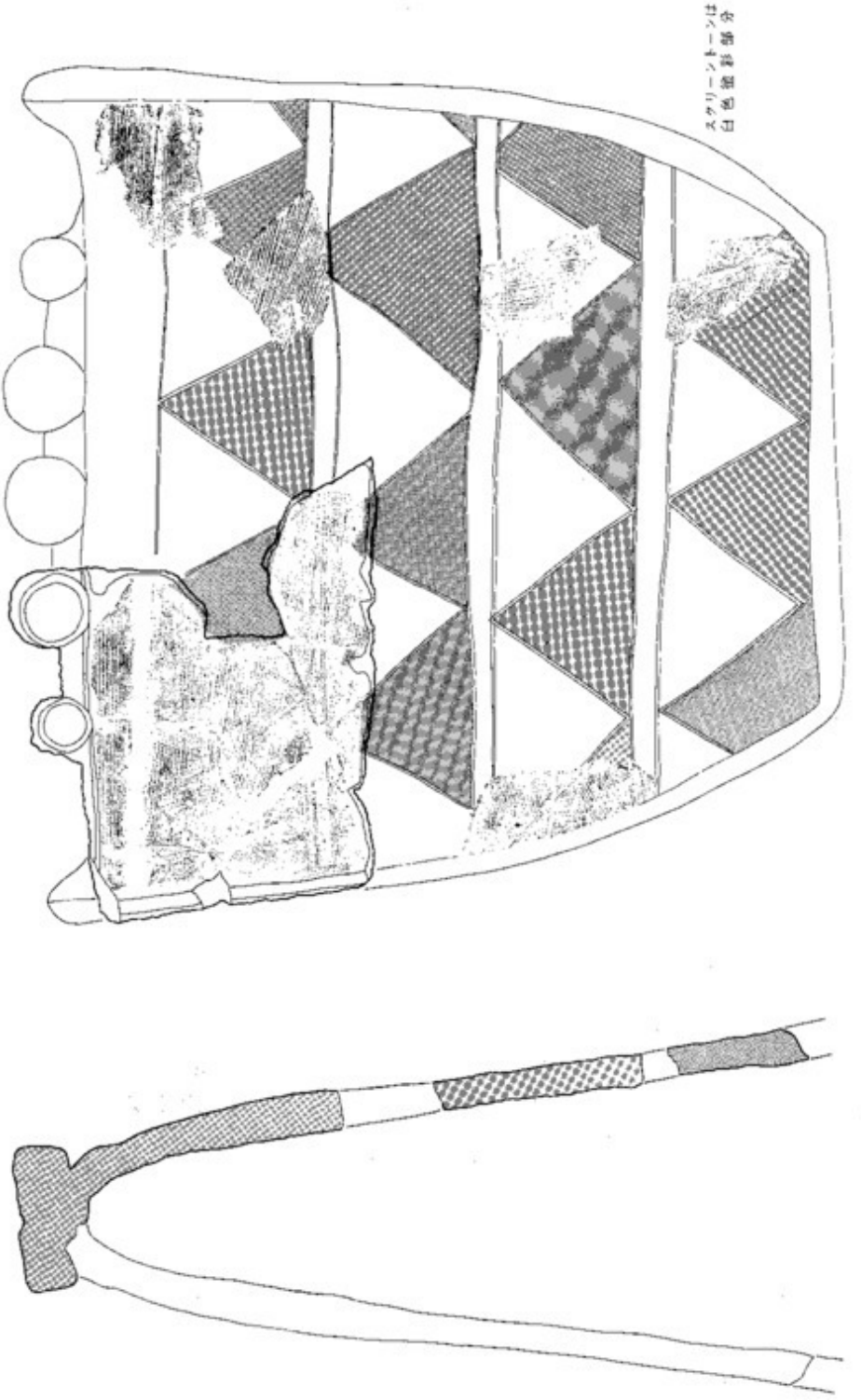


後部横断面



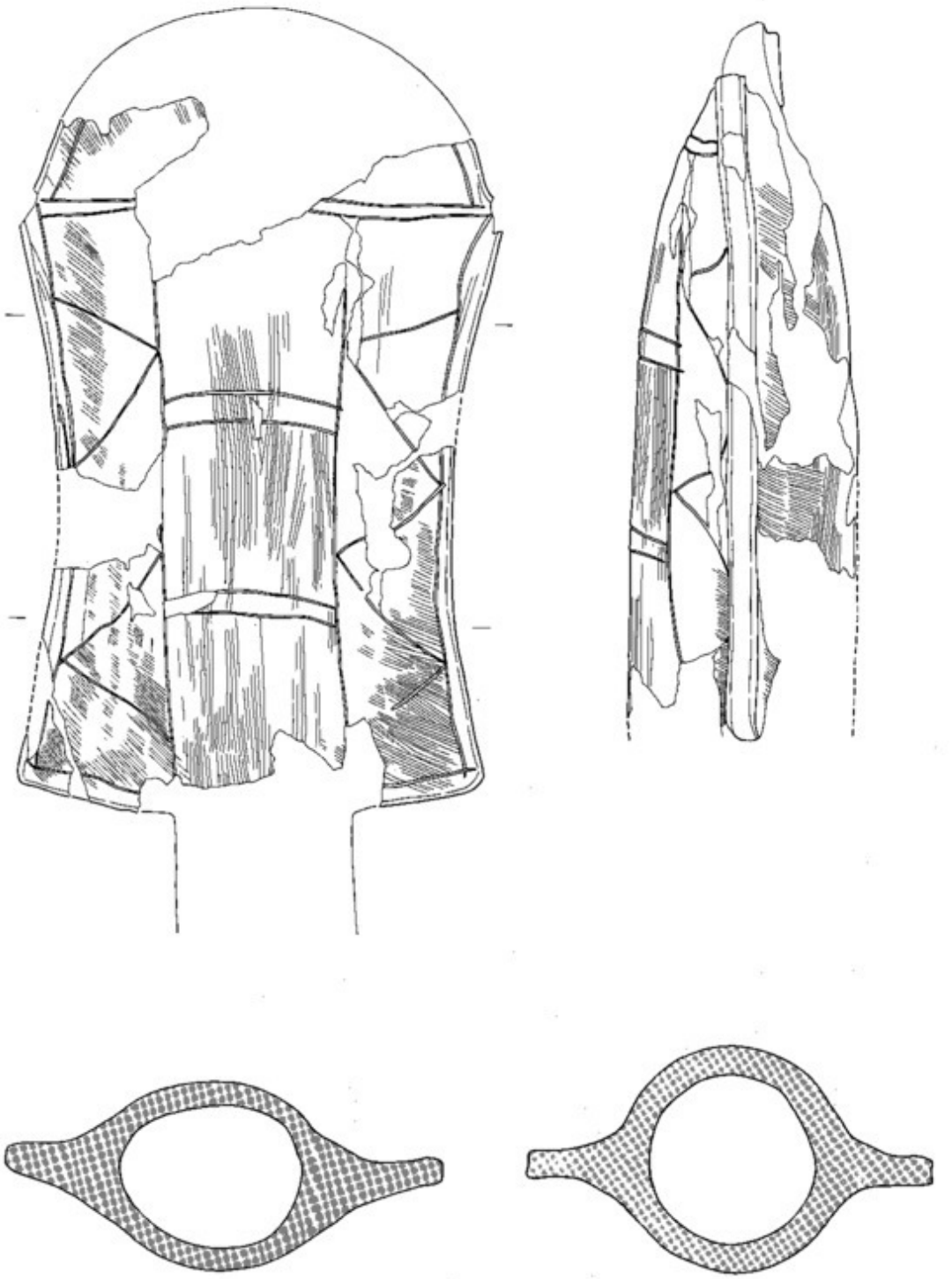
1. 馬形埴輪．馬１断面(1/8)

Fig.52



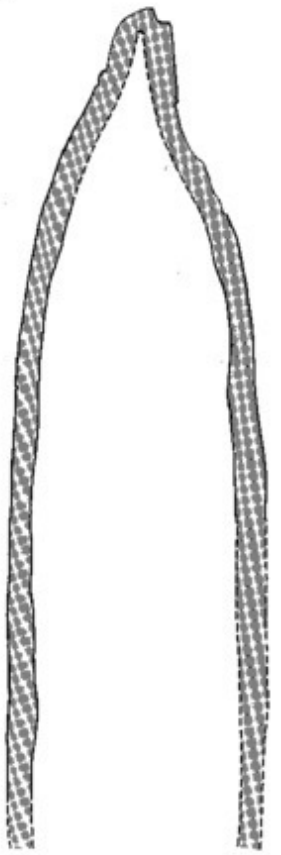
1. 家形埴輪 1 (1/4)

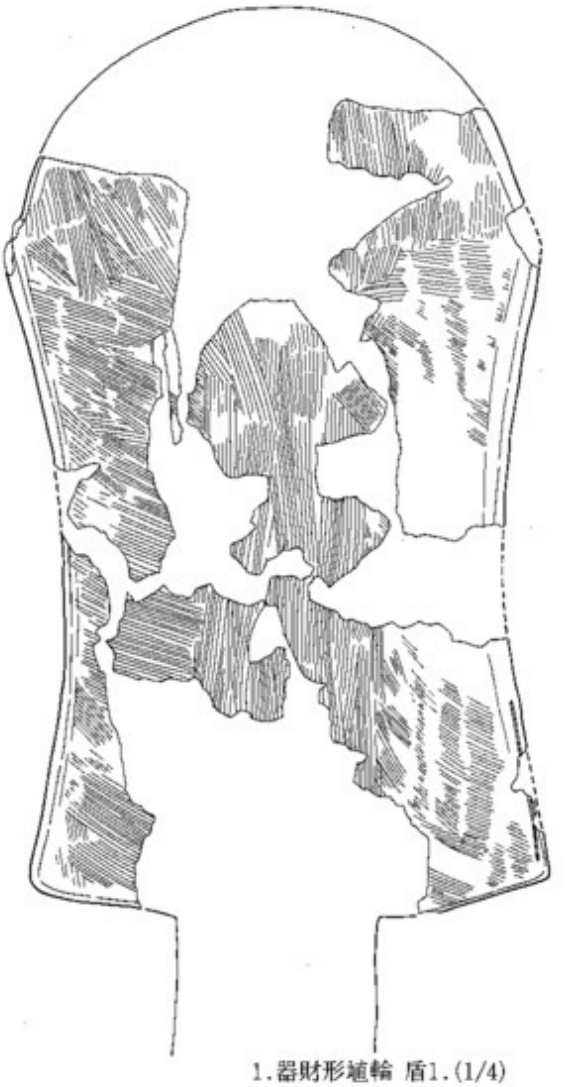
Fig.53



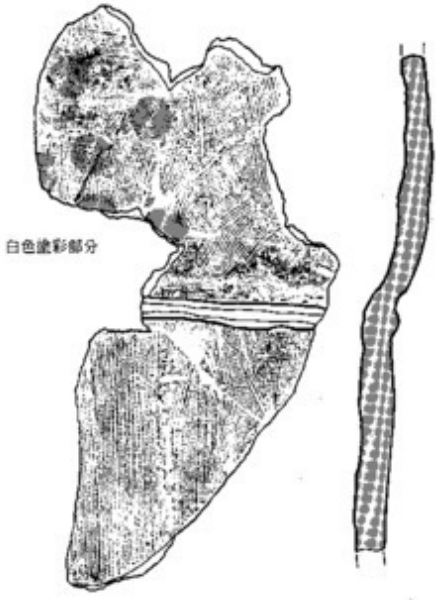
1.器財形埴輪．盾1(1/4)

Fig.54

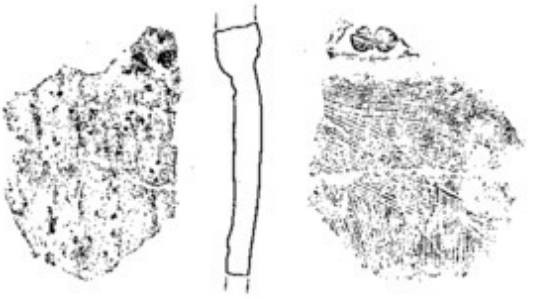




1.器財形埴輪 盾1.(1/4)

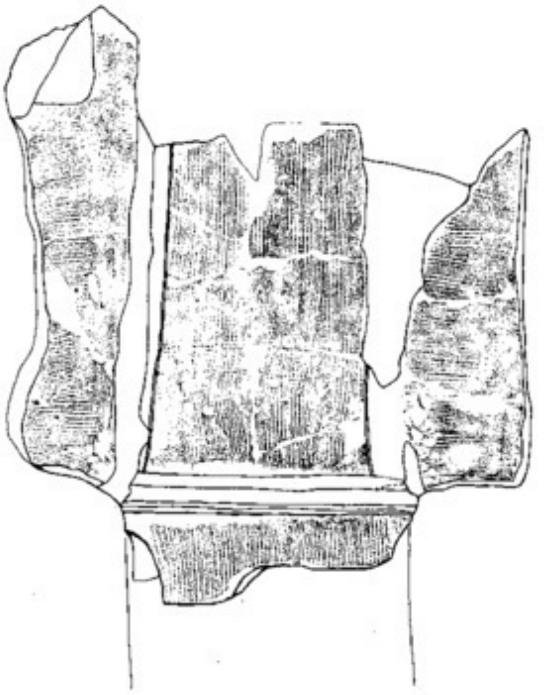


2.器財形埴輪.靫2

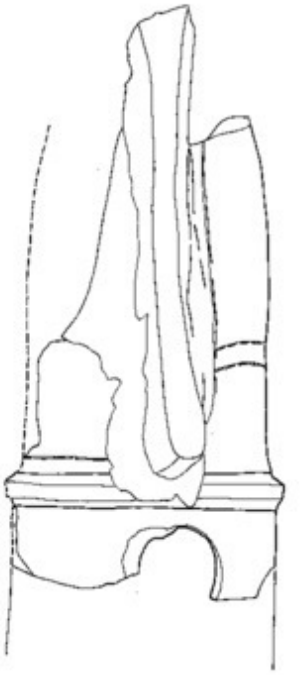


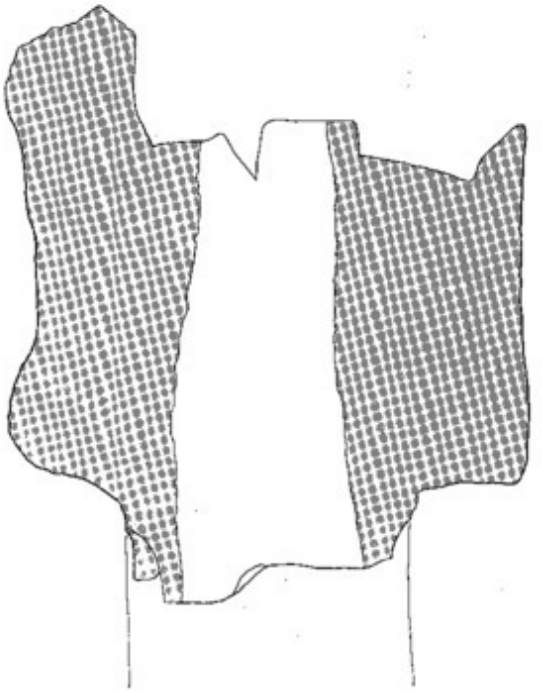
3.人物埴輪.女子像(1/4)

Fig.55



1.器財形埴輪．盾２(1/4)



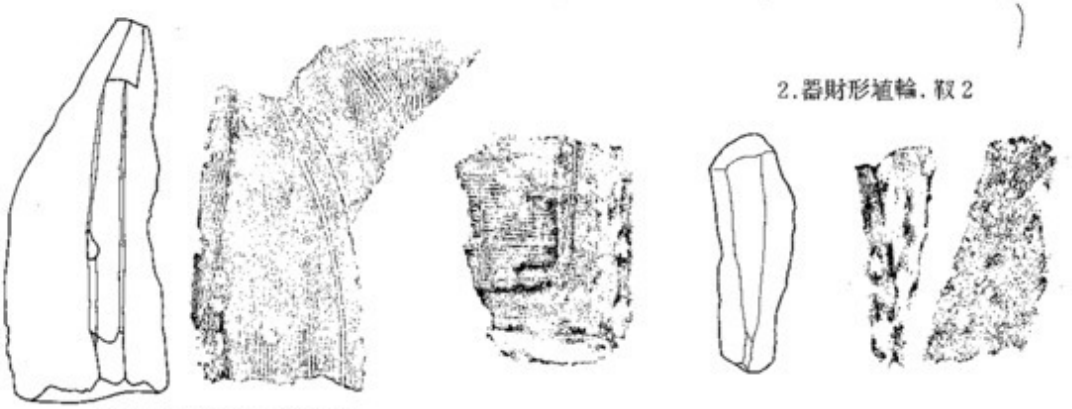


2.器財形埴輪．鞆１(1/4)

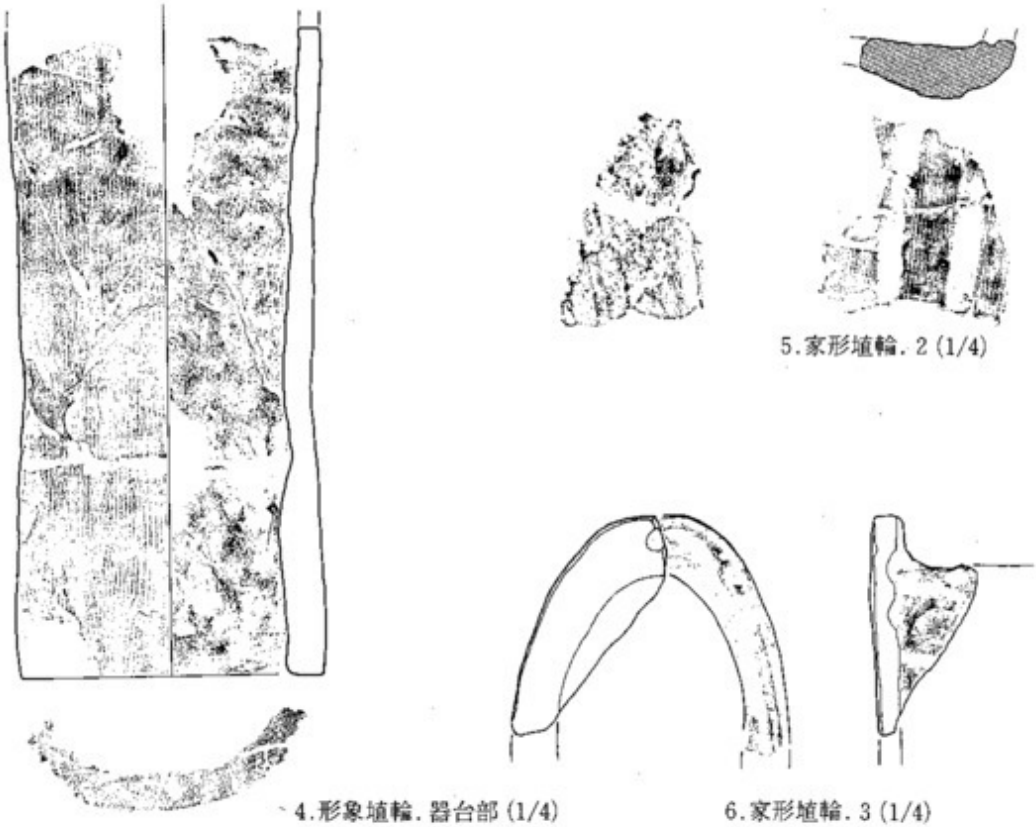
Fig.56

1.器財形埴輪．鞆３(1/4)

2.器財形埴輪．靫２



3.器財形埴輪．盾．３(1/4)

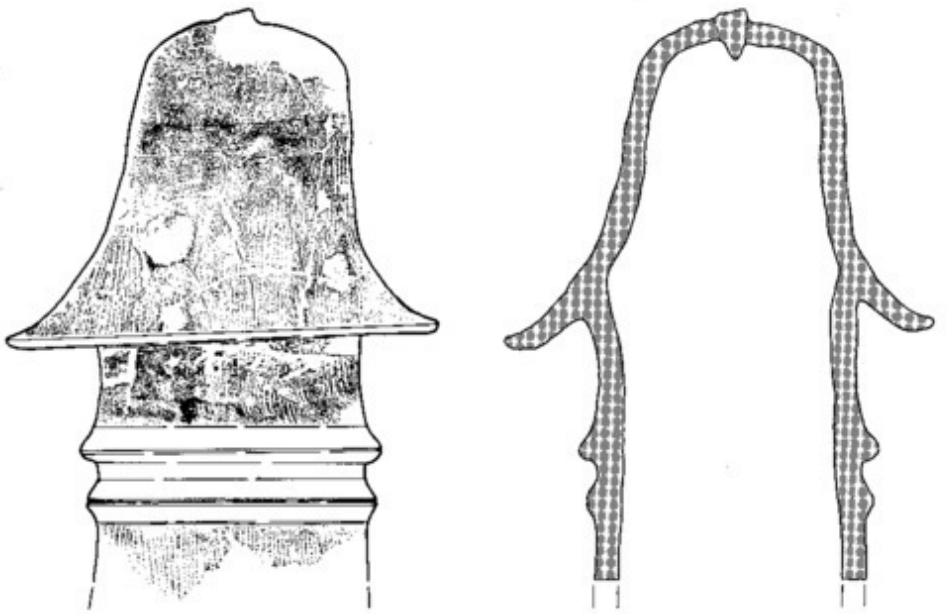


4.形象埴輪．器台部(1/4)

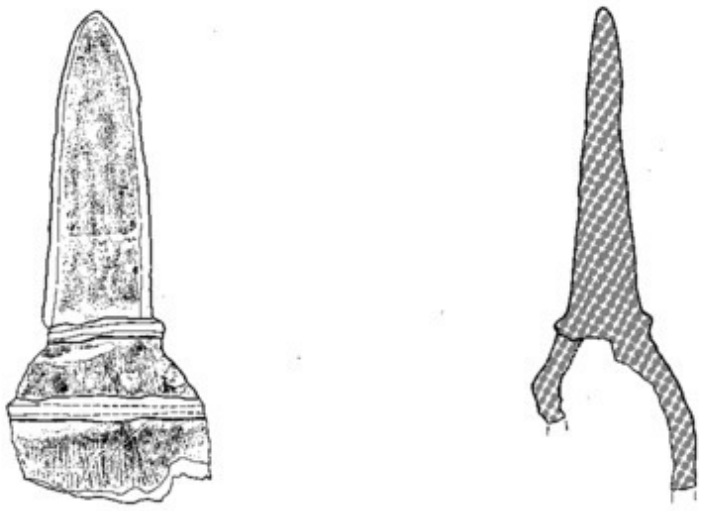
5.家形埴輪．２(1/4)

6.家形埴輪．３(1/4)

Fig.57

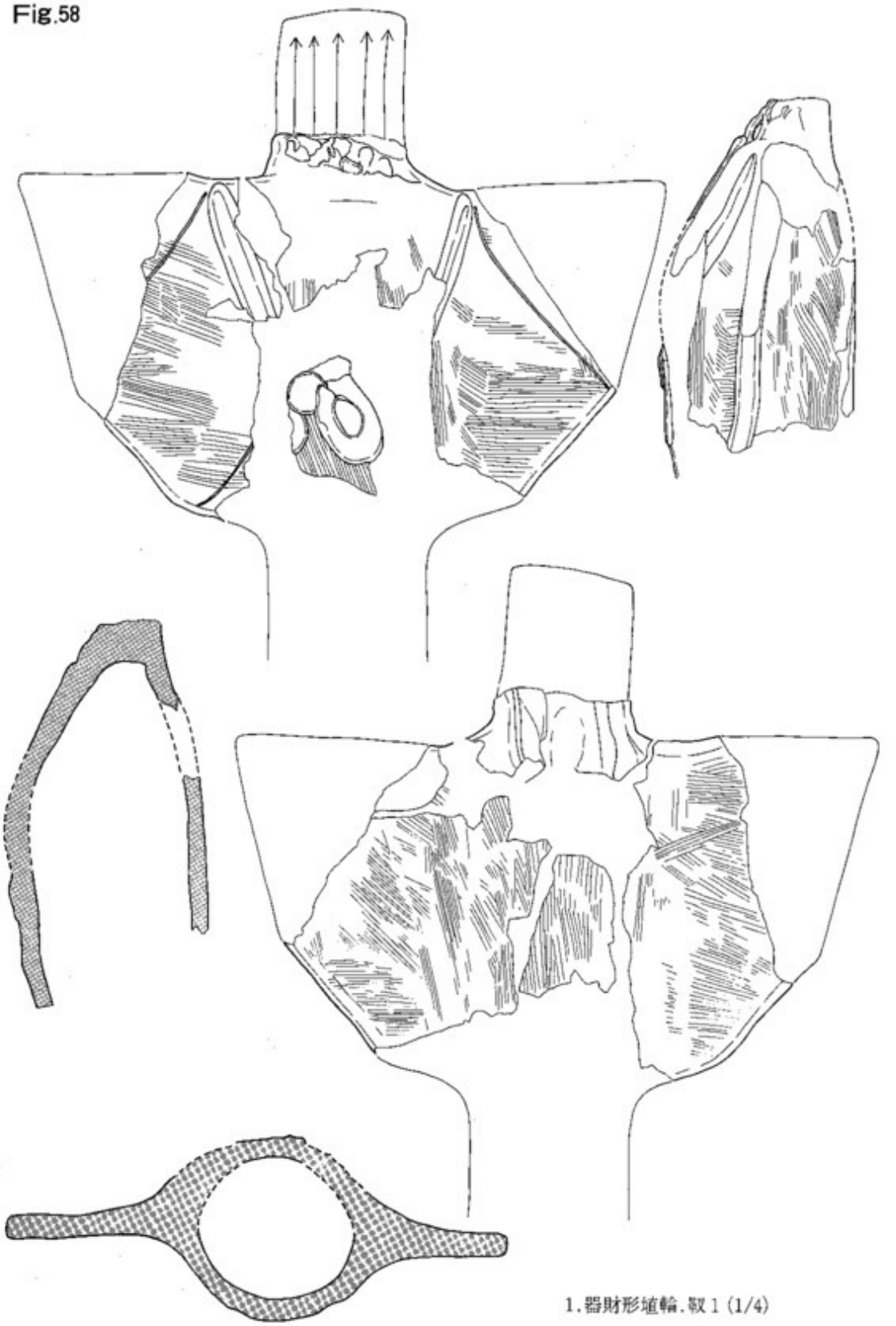


1.器財形埴輪.帽子(1/4)



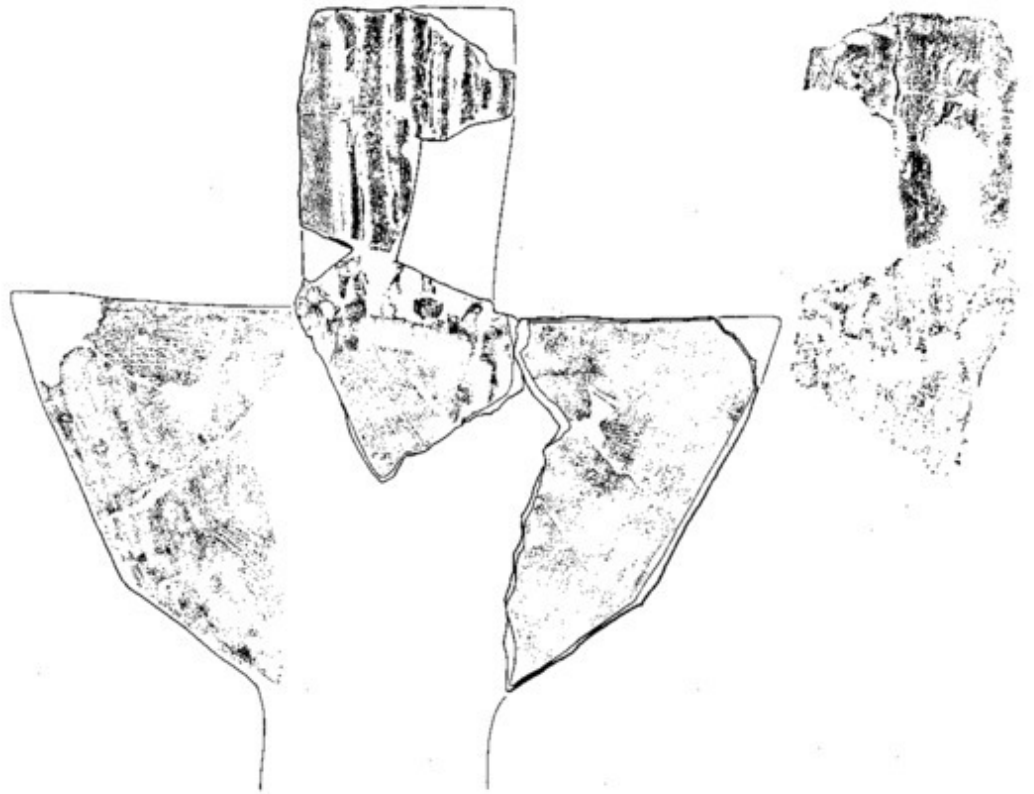
2.器財形埴輪.矛(1/4)

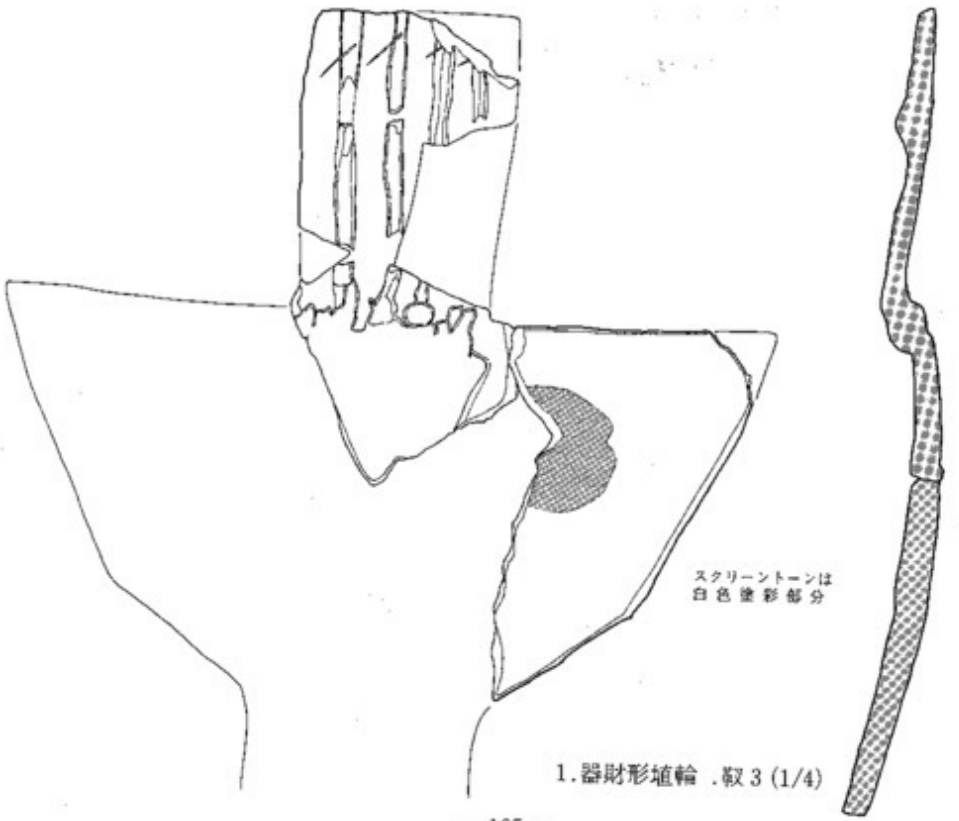
Fig.58



1.器財形埴輪.靱 1 (1/4)

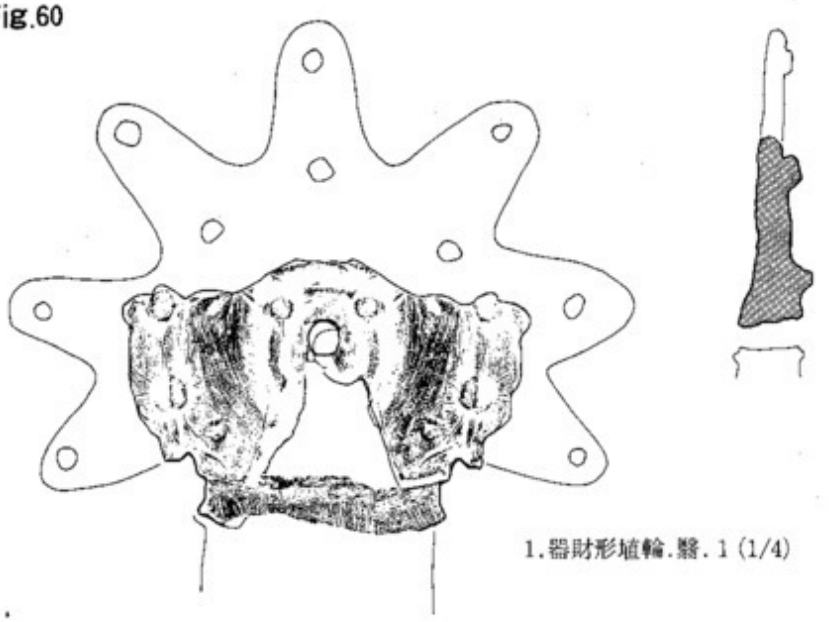
Fig.59





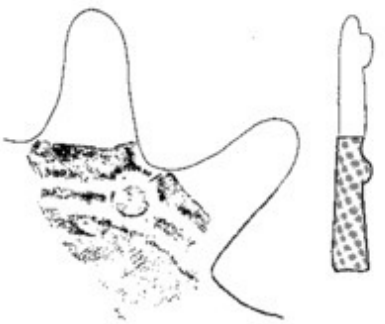
1.器財形埴輪 .靱 3 (1/4)

Fig.60

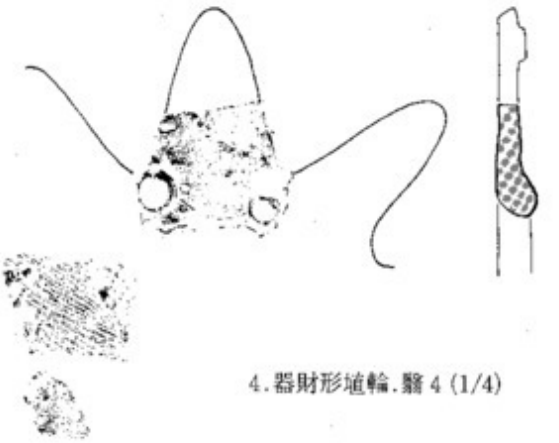


1.器財形埴輪.鬚.1 (1/4)

2.器財形埴輪.鬚3 (1/4)

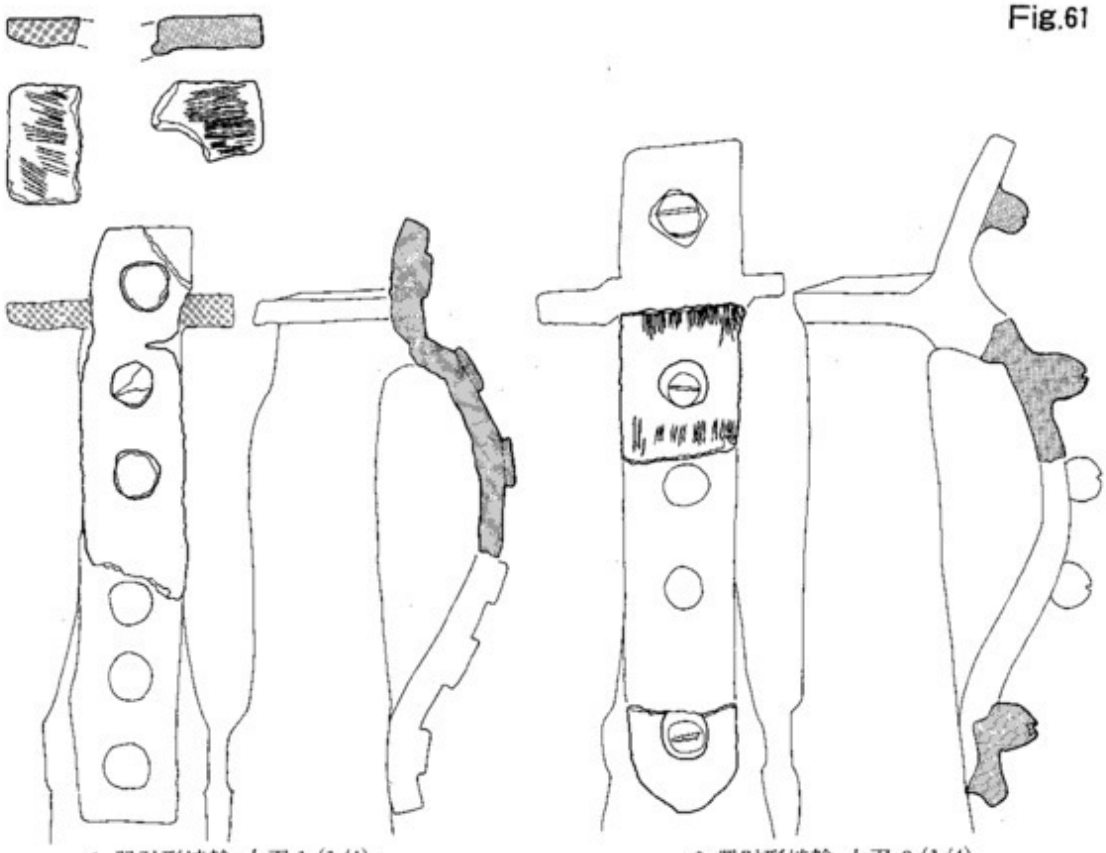


3.器財形埴輪.鬚2 (1/4)



4.器財形埴輪.鬚4 (1/4)

Fig.61



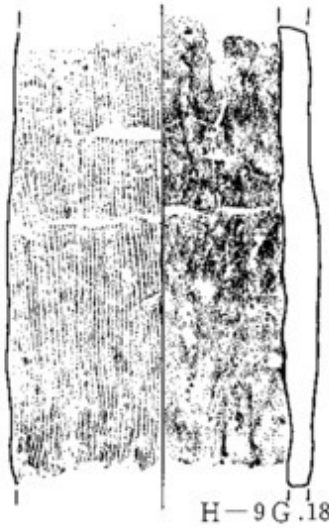
1.器財形埴輪.大刀 1 (1/4)

2.器財形埴輪.大刀 2 (1/4)

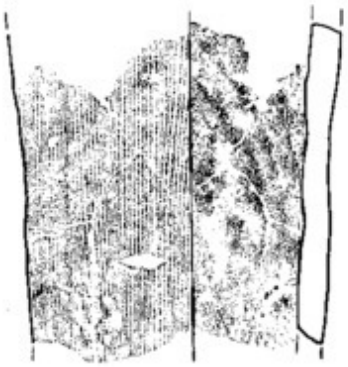
3.器財形埴輪.大刀 3 (1/4)

4.器財形埴輪.大刀 4 (1/4)

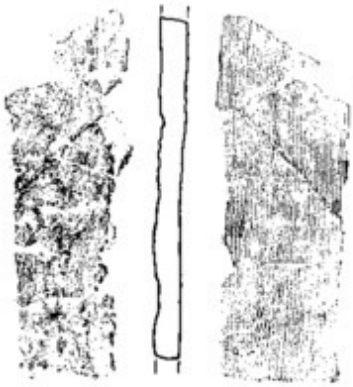
Fig.62



H－9G.182

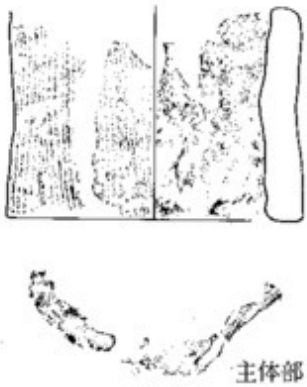


G－7G.93

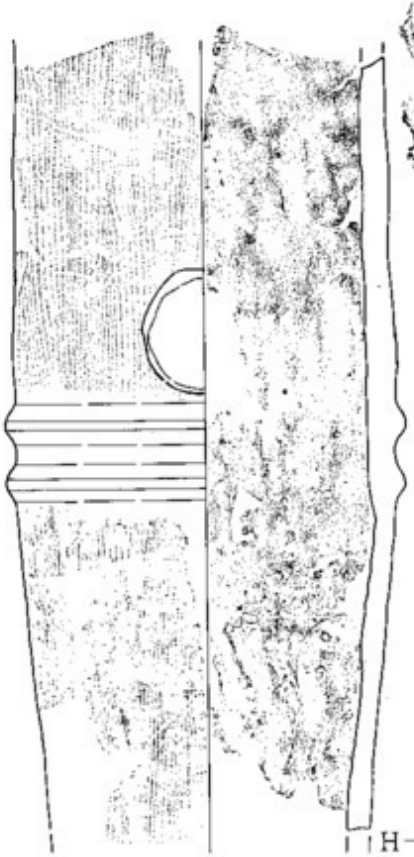


H－7G.172

G－7G.100



主体部

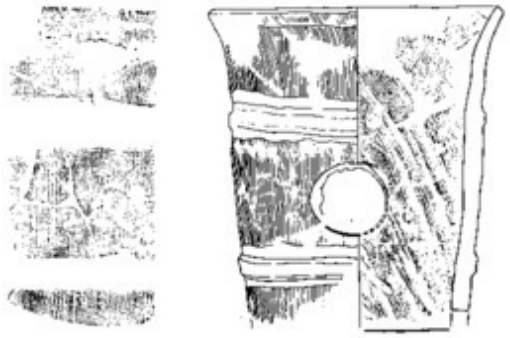


H－7G.306

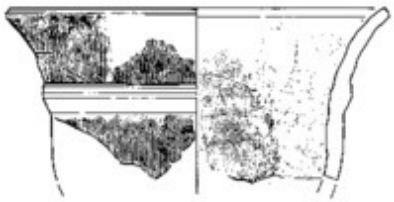
M－1号墳出土埴輪(1/6)

I－9G.287

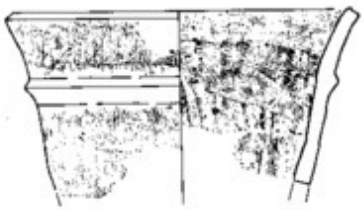
Fig. 63



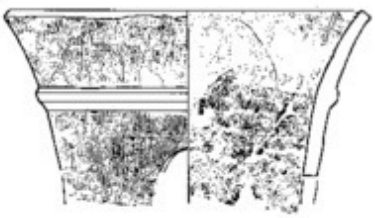
円筒埴輪 9



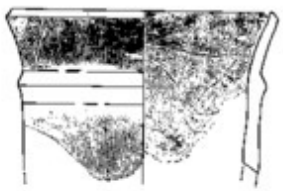
IJ 6 —11G. 5



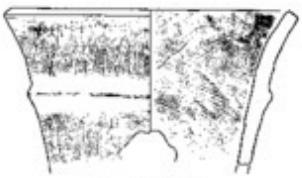
I— 9 G.34



H— 6 G

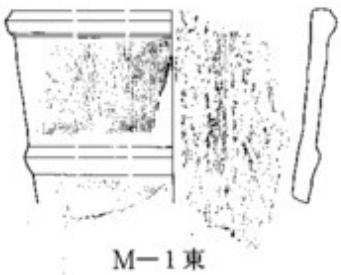


E 8 —11G



I— 9 G.67

I— 8 G.105



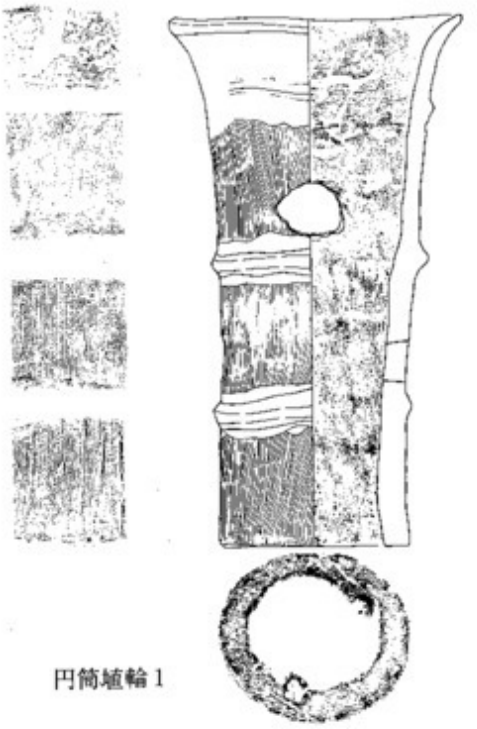
M— 1 東

I— 8 G.109

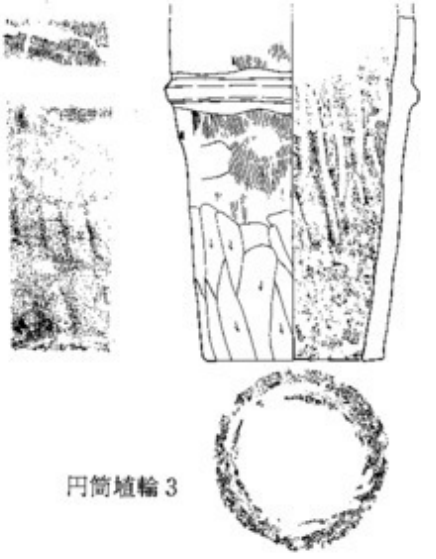
J— 8 G.17

M— 1 号墳出土埴輪(1/6)

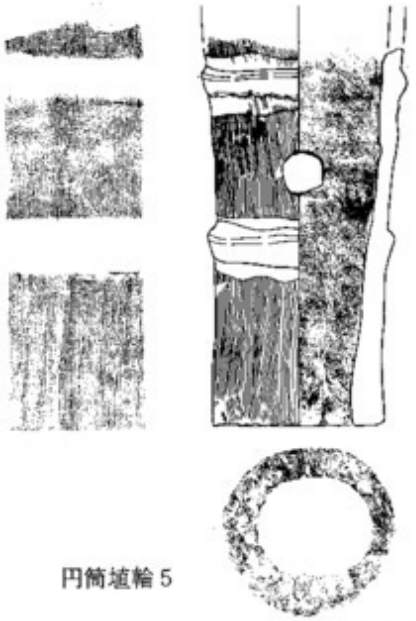
Fig. 64



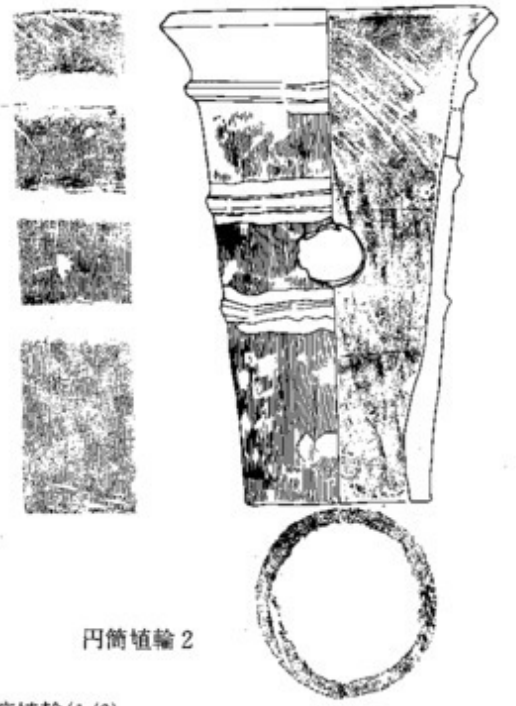
円筒埴輪 1



円筒埴輪 3



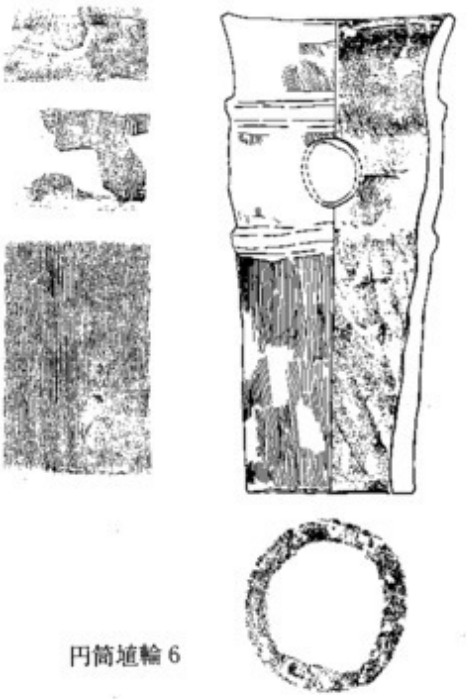
円筒埴輪 5

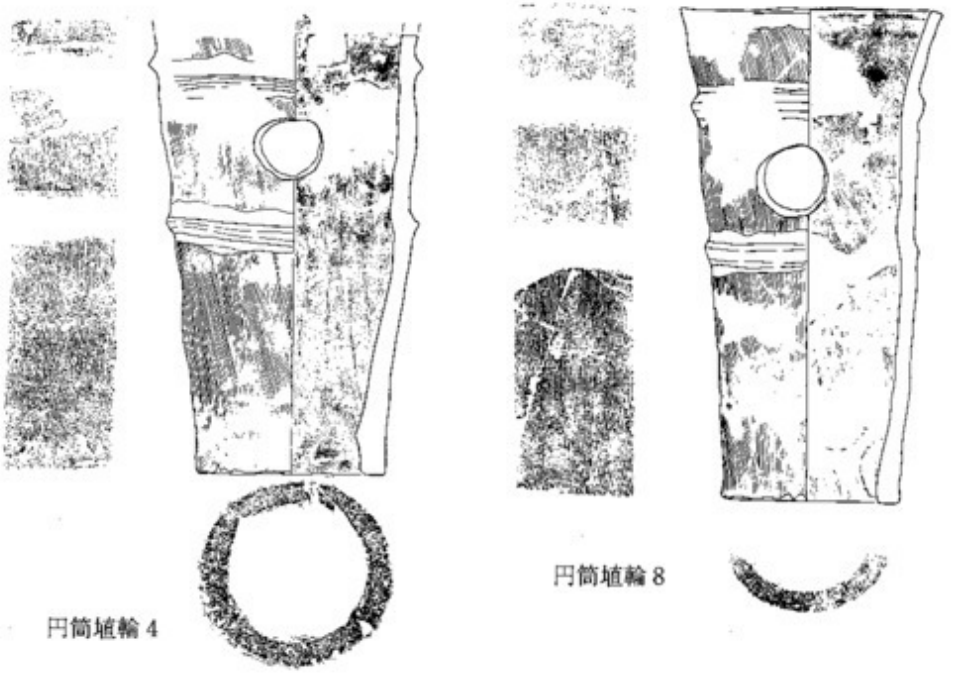


円筒埴輪 2

M－1 号墳出土円筒埴輪(1/6)

Fig. 65



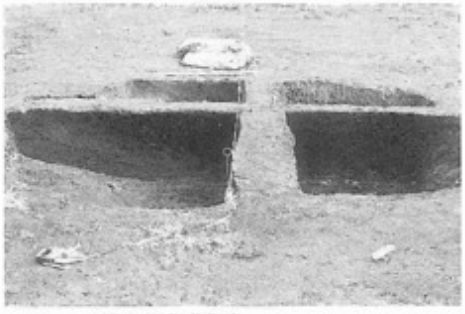


M－1号墳出土円筒埴輪(1/6)

1.調査区全景(発掘前)

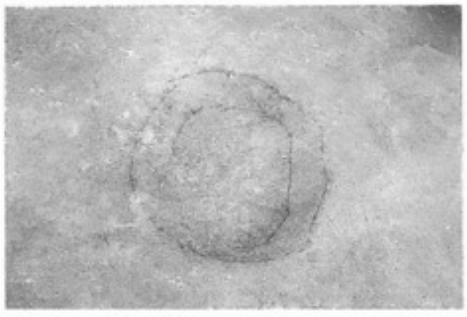
2.抜根作業風景

3.H－1号住居址調査状況



4.H－1号住居址断面

5.H－1住居址平面



6.H－1住居址炉址

7.H－1号住居址遺物出土状況

8.H－1号住居址遺物出土状況

9.H－1号住居址遺物出土状況

10.H－2号住居址平面

11.H－3号住居址断面

1.H－3号住居址平面

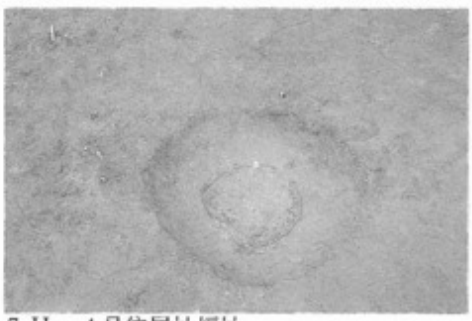
2.H－3号住居址遺物出土状況

3.H－3号住居址出土状況

4.H－3号住居址遺物出土状況

5.H－3号住居址遺物出土状況

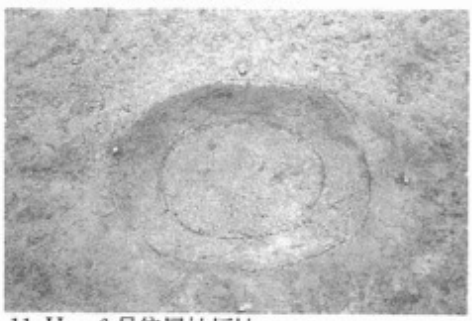
6.H－3号住居址遺物状況

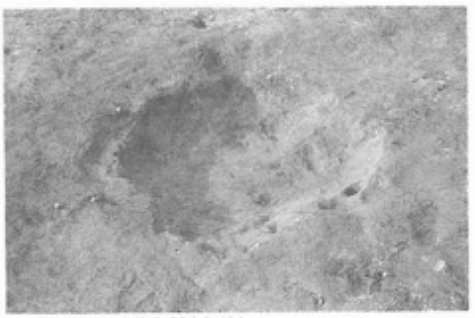

7.H－4号住居址炉址

8.H－5号住居址断面

9.H－5号住居址断面CP下

10.H－6号住居址断面


11.H－6号住居址炉址



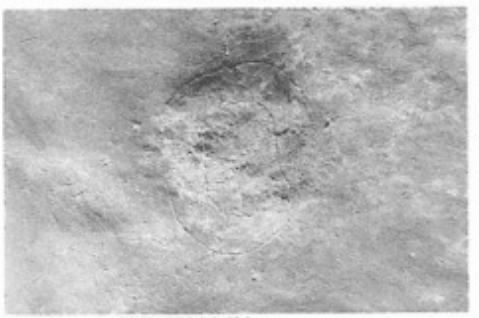
1.H－7号住居址炉址

2.H－9号住居址断面

3.H－10号住居址炉址

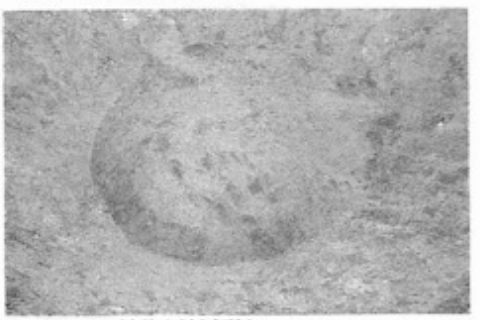
4.H－9号住居址遺物出土状況

5.H－11号住居址平面



6.H－11号住居址炉址

7.H－12号住居址平面

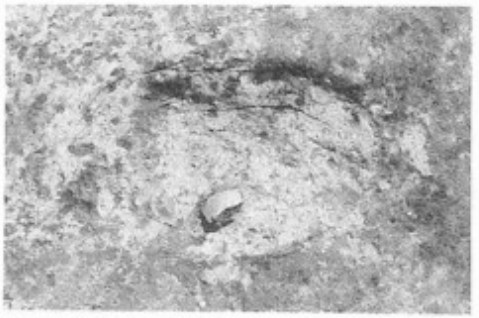


8.H－12号住居址炉址

9.H－13号住居址平面

10.H－13号住居址炉址

1.H－13号住居址断面



2.H－14号住居址炉址

3.H－14号住居址炭化物出土状況

4.H－14号住居址平面

5.H－15号住居址平面

6.H－14号住居址遺物出土状況

7.H－15号住居址遺物出土状況

8.H－15号住居址遺物出土状況

9.H－15号住居址遺物出土状況

10.H－15号住居址遺物出土状況

11.H－15号住居址遺物出土状況

12.H－15号住居址遺物出土状況

1.H－15号住居址遺物出土状況

2.H－15号住居址遺物出土状況

3.H－15号住居址断面

5.H－16号住居址平面

4.H－15号住居址断面

6.H－16号住居址断面

7.H－16号住居址断面

8.H－16号住居址炉址

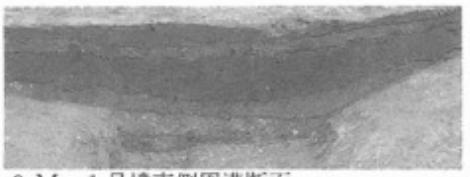
9.H－17号住居址遺物出土状況

10.H－18号住居址平面

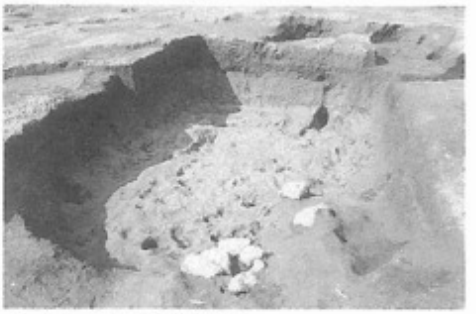
11.H－19号住居址平面

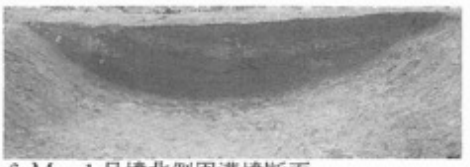
1.M－1号墳全景

2.M－1号墳主体部


3.M－1号墳東側周溝断面

4.M－1号墳前第部周墳断面


5 .M－1号墳主体部


6.M－1号墳北側周溝墳断面

7.M－1号墳遺物出土状況

8.M－1号墳遺物出土状況

9.M－1号墳遺物出土状況

10.M－1号墳埴輪列

11.M－1号墳埴輪出土状況

1.M－1号墳埴輪出土状況

2.M－1号墳埴輪出土状況

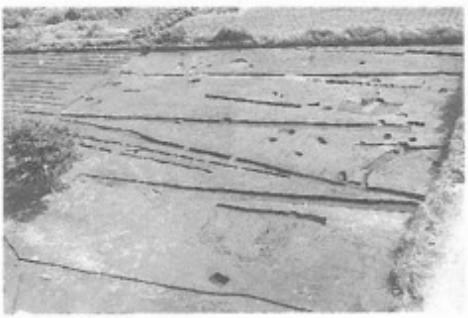
3.M－1号墳埴輪出土状況

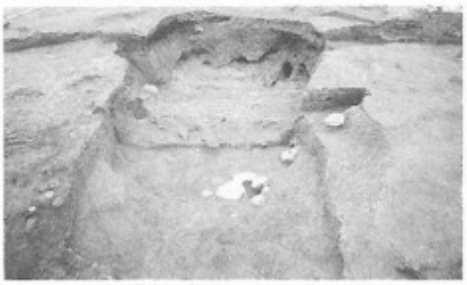
4.M－1号墳埴輪出土状況

5.M－1号墳埴輪出土状況

6.M－1号墳埴輪出土状況

7.M－1号墳埴輪列


8.近溝風景

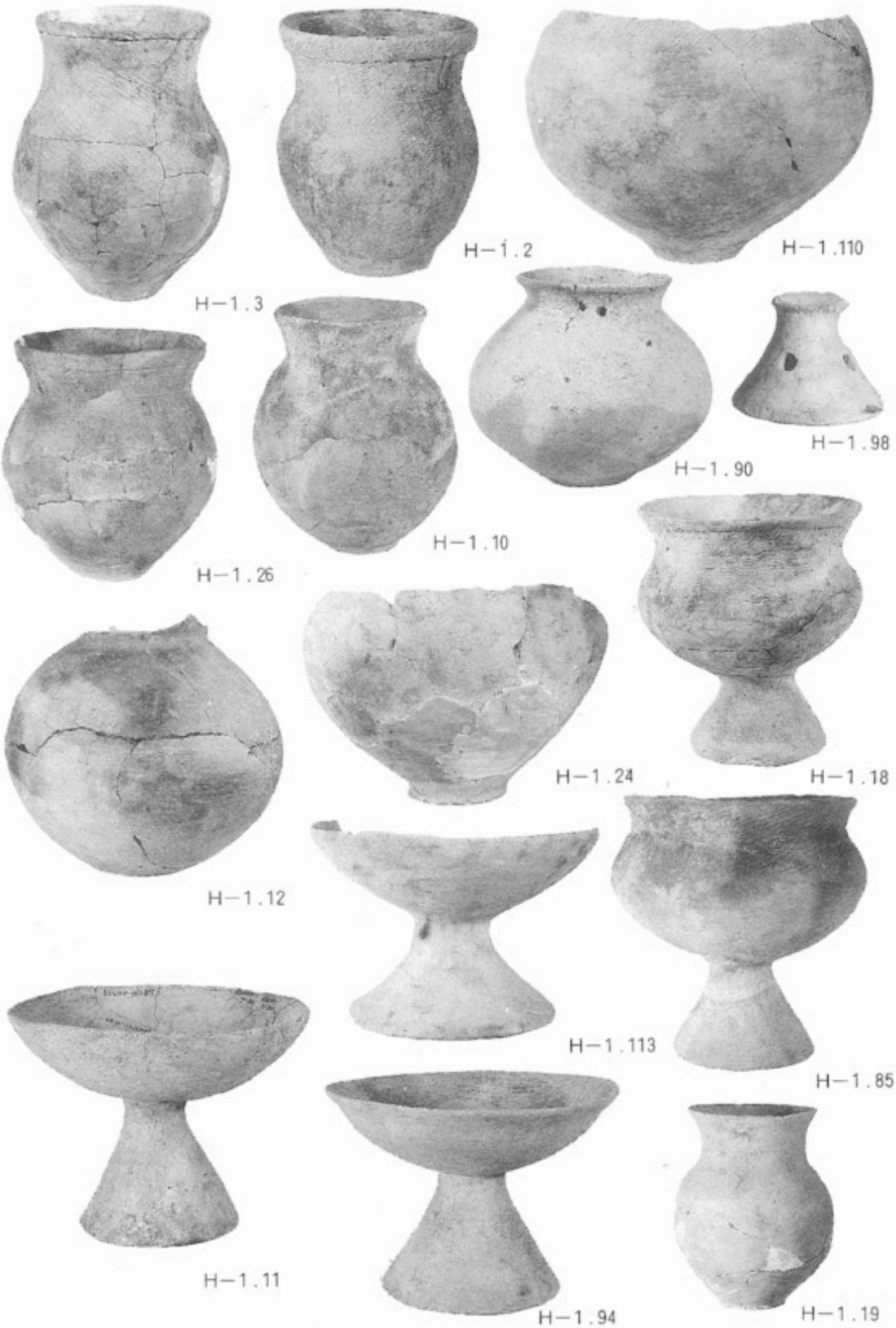

9.K－1号窯址平面

10.K－2号窯址平面

11.集落確認状況

12.X－1遺物出土状況

PL 8


H-1.2
H-1.110
H-1.3
H-1.98
H-1.90
H-1.10
H-1.26
H-1.24
H-1.18
H-1.12
H-1.113
H-1.85
H-1.11
H-1.94
H-1.19

H−3.47

H−3.54

H−3.46

H−3.17

H−3.7

H−3.3

H−3.55

H−3.102

H−3.114

H−3.137

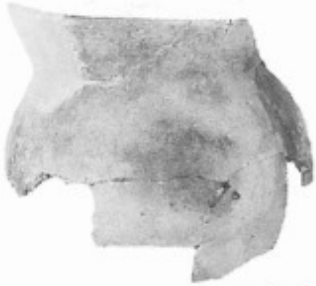
H−16.178

H−3.8

H−3.103

H−5.5

H−5.33



H−9.5

PL 10

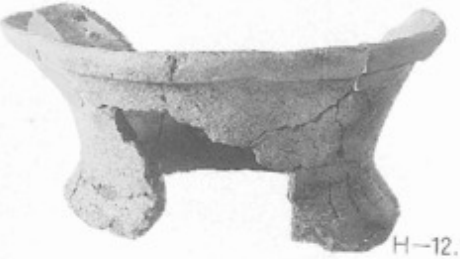
H－9．12

H－9．23

H－9．20

H－12．13

H－12．2



H－12．10

H－14．34

H－13．15

H－12．11

H－15．630

H－14．134

H－14．62

H－15．17

H－15．407

H－15．294

H－15．628

H－15．176

H－15．332

H—15.419

H—15.306

H—16.280

H—16.40

H—16.299

H—16.349

H—16.178

H—17.54

H—17.43

H—19.7

X—1.12

U—2.1

U—1.4

X—1.2

PL 12

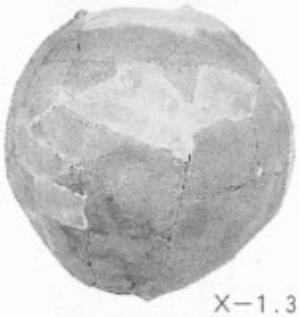
X−1.12

X−1.4

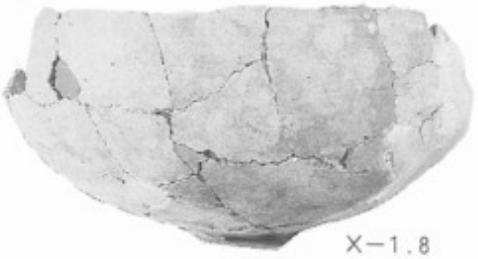
X−1.11

X−1.10

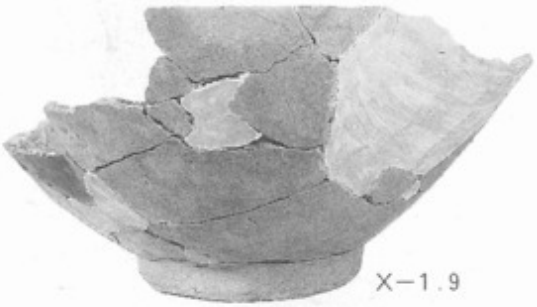
X−1.7



X−1.3



X−1.8



X−1.9

X−1.13

M−1.10

X−1.15

X−1.16

B−29グリッド1

X−1.14

X−1.9

M−1.7

M−1.1

M−1.4

M−1.5

M−1.6

M−1.4

は−1

は−2

は−3

は−4

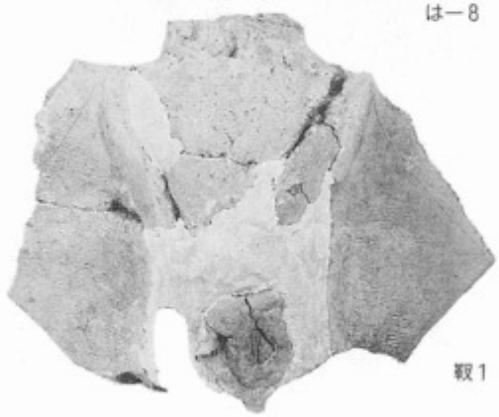
は−5

は−6

は−7

は−8

は−9



鞍1

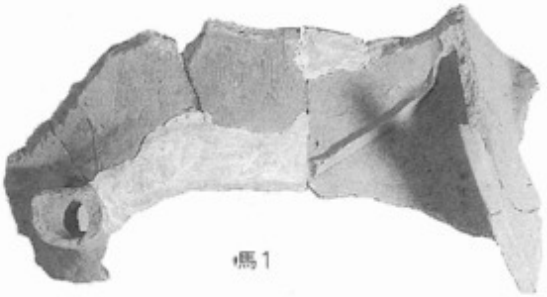
PL 14

男子像

冠帽を
かぶる男子

帽子

農夫



馬1

盾2

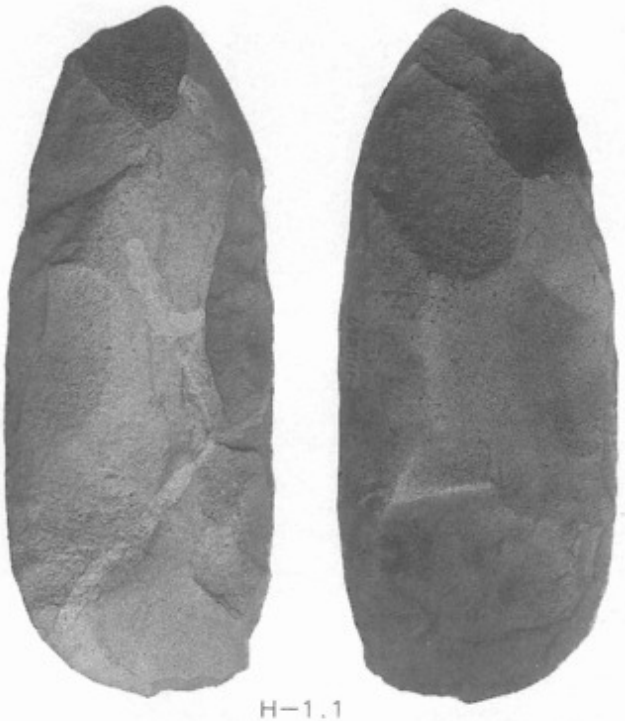
馬1

家1

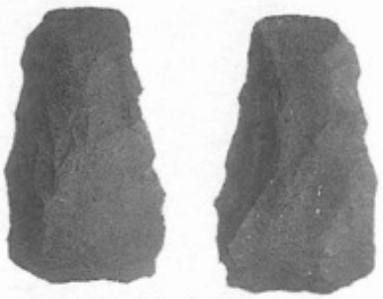
盾1

盾持ち人1

矛

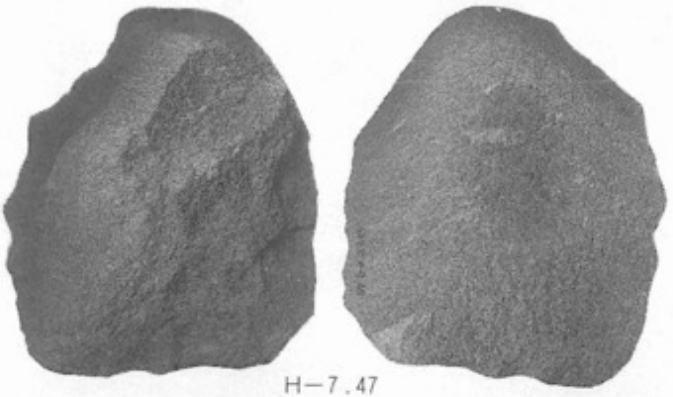


H—1.1

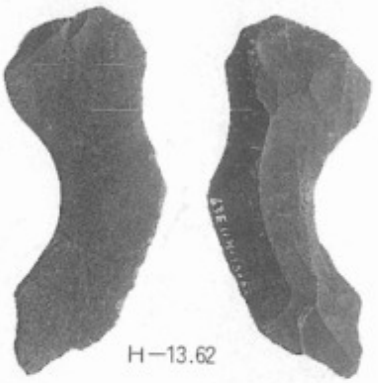


H—7.71

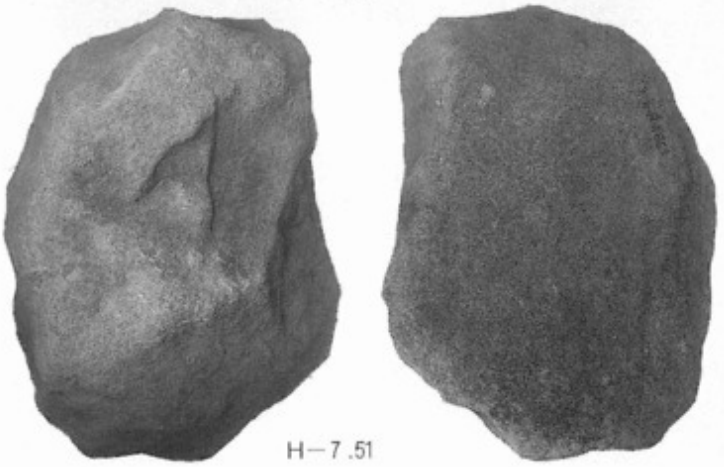
H—13.39



H—7.47



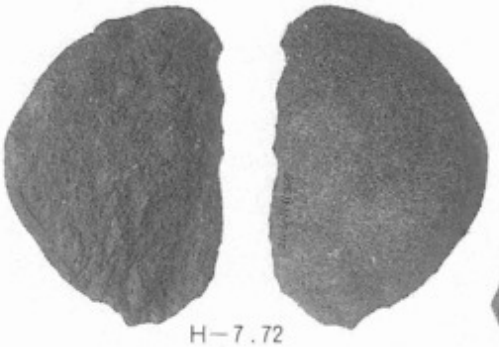
H—13.62



H—7.51

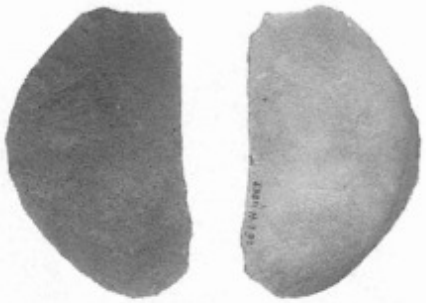
H—7.41

PL 16

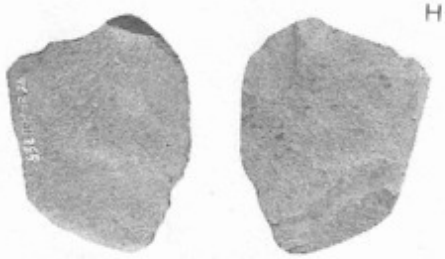


H－7．72

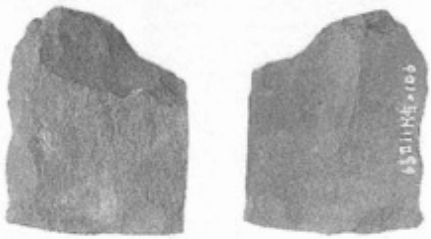
H－7．37



H－7．38

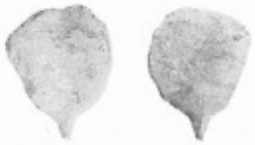


H－12．26



H－5．106

H－16．109



H－7．5

H－7．43

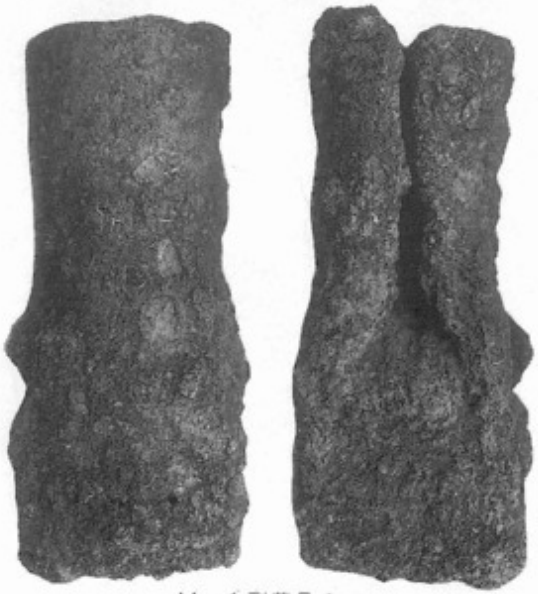
プレ試掘グリッド出土

M－1 副葬品 2

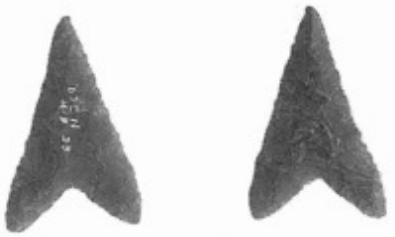
M－1 副葬品 3

M－1 副葬品 4

M－1 副葬品 5



M－1 副葬品 1



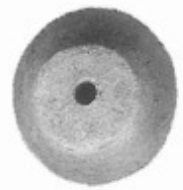
H－3．23

H－16．259

H－16.173

H－15.191

北東畑．16



H－15.571

H－15.712

X－1.73

H－17.37

《発掘調査参加者》

阿部シゲ子	飯島　いし	飯島　民弥	石綿　信雄	飯島　勝亥	近藤　盛次	石田　博子
糸井　朱美	江口よしの	大川　きよ	小保方豊五郎	塩沼　豊子	神沢　方子	久保　ひで
高坂　とも	斎藤まき子	佐藤　佳子	松本加代子	関口　憲峰	関　トシ子	高橋　恒夫
高橋ふみ枝	田村　愛子	青木　ふみ	諸田恒次郎	諸田　棲子	橋本登代美	茂木　順
飯塚　明三	高橋キヨ子	前原アヤ子	山口きく枝	横沢　和代	久保千代子	内田きん子
女屋千恵子	落合　高男	久保もり子	深沢　カネ	田中善四郎	都築　利之	堀越　豊
高坂ちまの	高坂　やす	六本木勝造	阿久澤福造	大塚　作一	大沢みつ子	大沢　一江
木村源次郎	須藤か津ゑ	塩沼さとゑ	村山　松子	蜂須賀もとめ	主代　仲治	木村　君子
松倉　菊江	井口　繁	阪本　宏児	野口喜三郎	神野　信	小川　悦子	近藤　粂司
真庭　トシ	湯浅たま江	湯浅　道子	岩木　操	白井　和子	岸　フクエ	巾　千恵子
栗岡エミ子	塚越　則子	神保千代子	松田富美子	鬼塚　成子	松倉　りつ	

内堀遺跡群　Ⅱ

1989年3月10日　印刷

1989年3月31日　発行

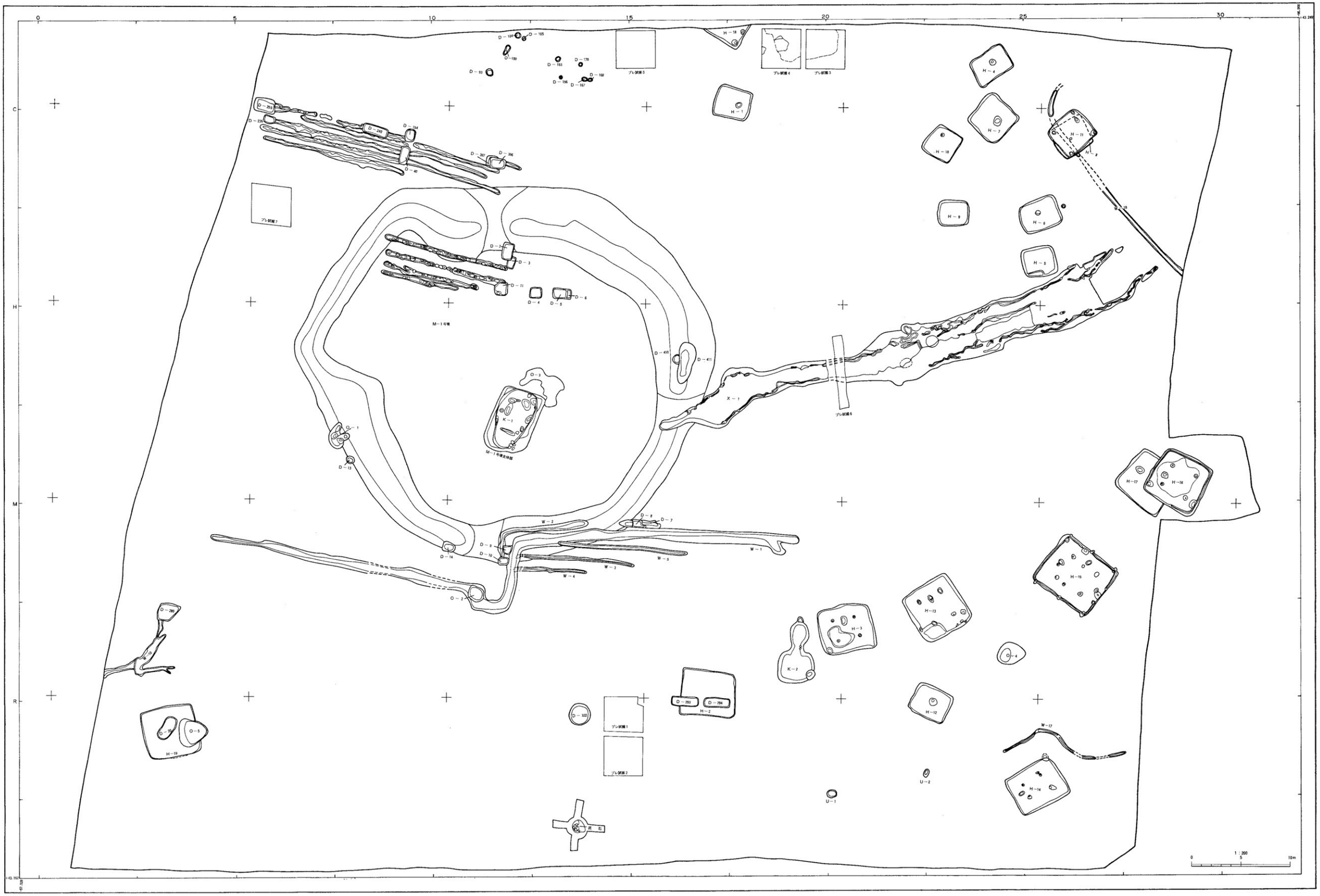
編集・発行　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市上泉町664－4
TEL　0272-31-9531

印　　刷　松本印刷工業株式会社
前橋市紅雲町一丁目12-3

1-10
201
15

内堀遺跡群(下縄引遺跡)遺構全体図1

付図1



内堀遺跡群(下縄引遺跡)遺構全体図 2

付図 2